

平成27年度  
男女共同参画に関する  
市民アンケート結果報告書

平成27年12月

光 市

## 目 次

I アンケートの概要	2
1. アンケートの目的	2
2. アンケートの内容	2
3. アンケートの対象者	2
4. アンケートの方法	2
5. アンケートの実施期間	2
6. アンケートの回答数	2
7. アンケート結果の留意事項	3
8. 母集団と回答者との関係	3
9. 回答者の基本属性	4
II アンケート結果の概要	6
1. 男女の地位の平等について	6
2. 男女の生き方について	20
3. 女性の働く環境について	27
4. 仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）の両立について	42
5. セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、 マタニティーハラスメントについて	57
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について	60
7. 男女共同参画の考え方について	66
8. 今後の取組みについて	72
9. 自由意見	74

# I アンケートの概要

## 1 アンケートの目的

男女共同参画に関する市民意識を総合的に把握し、光市男女共同参画基本計画の策定に活用するなど、今後の本市男女共同参画施策を検討するための基礎資料とします。

## 2 アンケートの内容

下記の(1)～(8)の項目について、22の質問を設定しました。

### 【アンケート項目】

- (1) 男女の地位の平等について
- (2) 男女の生き方について
- (3) 女性の働く環境について
- (4) 仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）の両立について
- (5) セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティーハラスメントについて
- (6) ドメスティック・バイオレンス（DV）について
- (7) 男女共同参画の考え方について
- (8) 今後の取組みについて

## 3 アンケートの対象者

18歳以上の市民から1,500人を無作為抽出（基準日：平成27年10月1日現在）

## 4 アンケートの方法

郵便でアンケート調査票と返信用封筒を配布し、本人が回答を記入の上、一定期間内に返送していただく方法（郵送アンケート法）により実施しました。（自記式郵送法・無記名）

## 5 アンケートの実施期間

平成27年10月26日（月）～平成27年11月9日（月）

## 6 アンケートの回答数

回収率は、45.1%で、前回調査より8.6ポイント上昇しています。

	配布数	有効配布数 A	回収数 B	回収率 B/A
今回調査 (H27)	1,500	1,497	675	45.1%
前回調査 (H23)	1,500	1,495	545	36.5%
前々回調査 (H21)	1,500	1,494	641	42.9%
前々々回調査 (H18)	1,500	1,495	566	37.9%

## 7 アンケート結果の留意事項

- ①集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入したため、構成比（％）の合計が100%にならないことがあります。
- ②1人の対象者に複数の回答を認めた設問では、内訳の合計が100%を超えることがあります。

## 8 母集団と回答者との関係

先に述べているように、平成27年10月1日現在で満18歳以上の市民を母集団としています。

### (1) 性別による人口構成比の比較

	性別	母集団	回答者
(1)	男	46.3%	38.8%
(2)	女	53.7%	59.9%
(3)	無回答	—	1.3%
	計	100%	100%

- 性別による母集団の人口構成と回答者の人口構成では、女性の回答率がやや高く、男性の回答率がやや低い。

### (2) 年代による人口構成比の比較

	年代	母集団	回答者
(1)	10歳代	1.4%	1.3%
(2)	20歳代	9.9%	5.3%
(3)	30歳代	11.0%	7.3%
(4)	40歳代	14.8%	11.9%
(5)	50歳代	14.4%	13.3%
(6)	60歳代	19.9%	24.0%
(7)	70歳代以上	28.7%	36.4%
(8)	無回答	—	0.4%
	計	100%	100%

- 年代による母集団の人口構成と回答者の人口構成では、20歳代及び30歳代の回答率がやや低く、60歳代以上の回答率がやや高い。

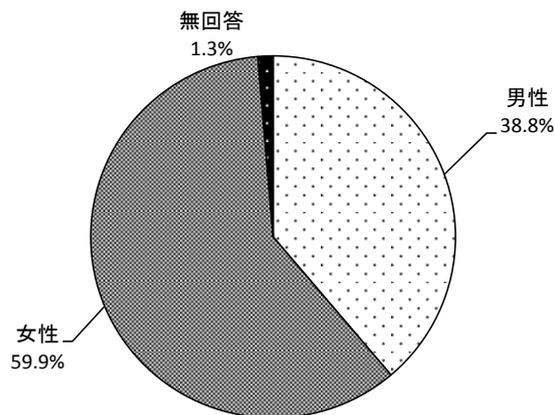
※性別では女性の回答者の割合が、年齢別では60歳代以上の回答者の割合が母集団よりやや高くなっている。

## 9 回答者の基本属性

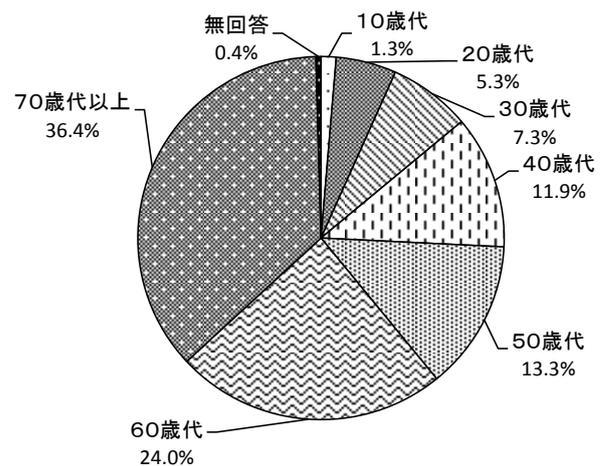
性別については、男性が38.8%、女性が59.9%となっており、実人口比と比較すると女性がやや高く、男性がやや低くなっています。

年齢については、高齢者が多く、60歳代以上が全体の60%を占めています。

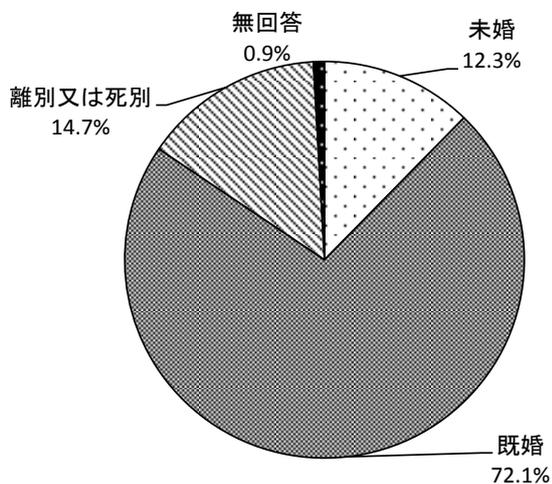
① 回答者の性別



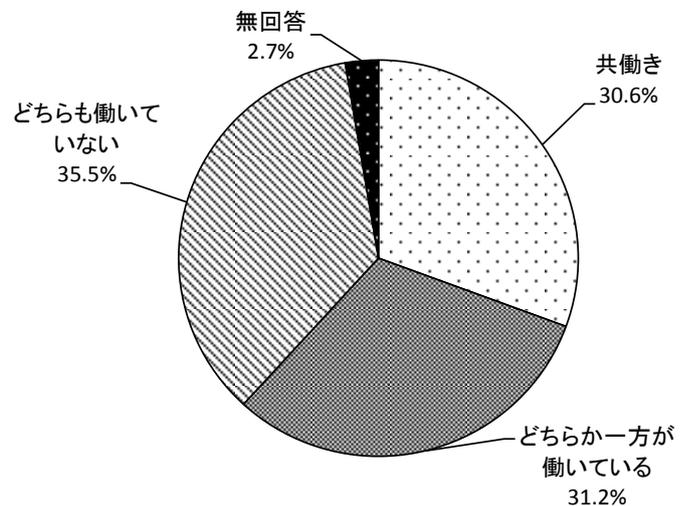
② 回答者の年齢



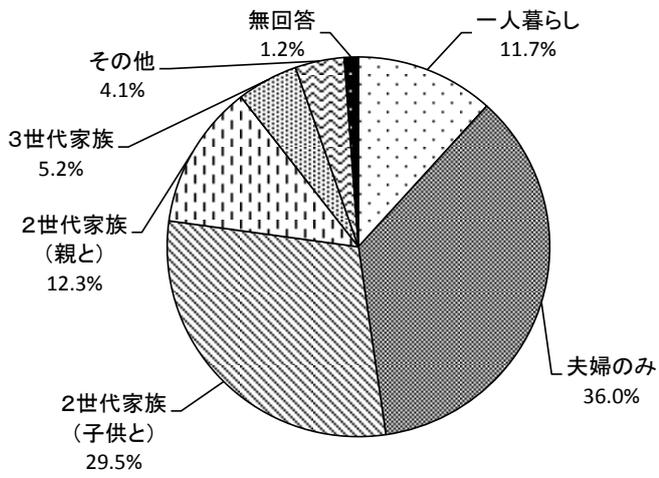
③ 配偶者の有無



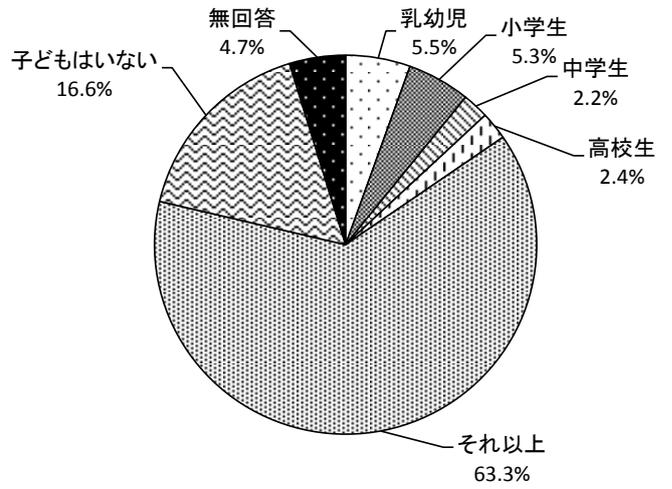
④ 就業の形態 (既婚者のみ)



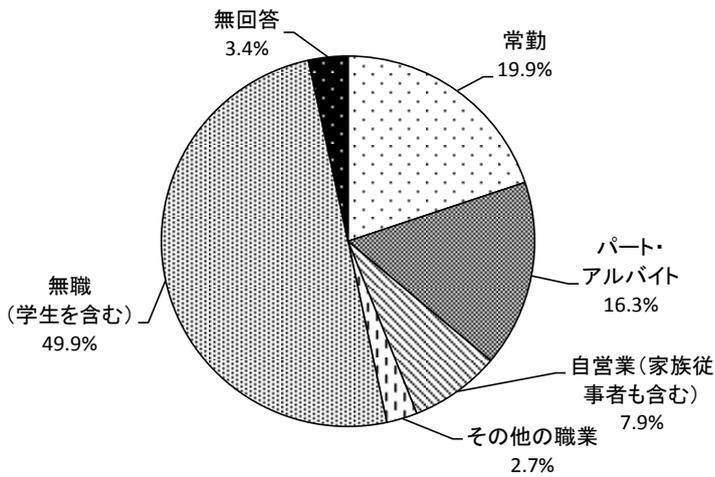
⑤ 世帯構成



⑥ 一番下の子どもの年齢



⑦ 職業



## II アンケート結果の概要

### 男女の地位の平等についておたずねします

#### 問 1 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

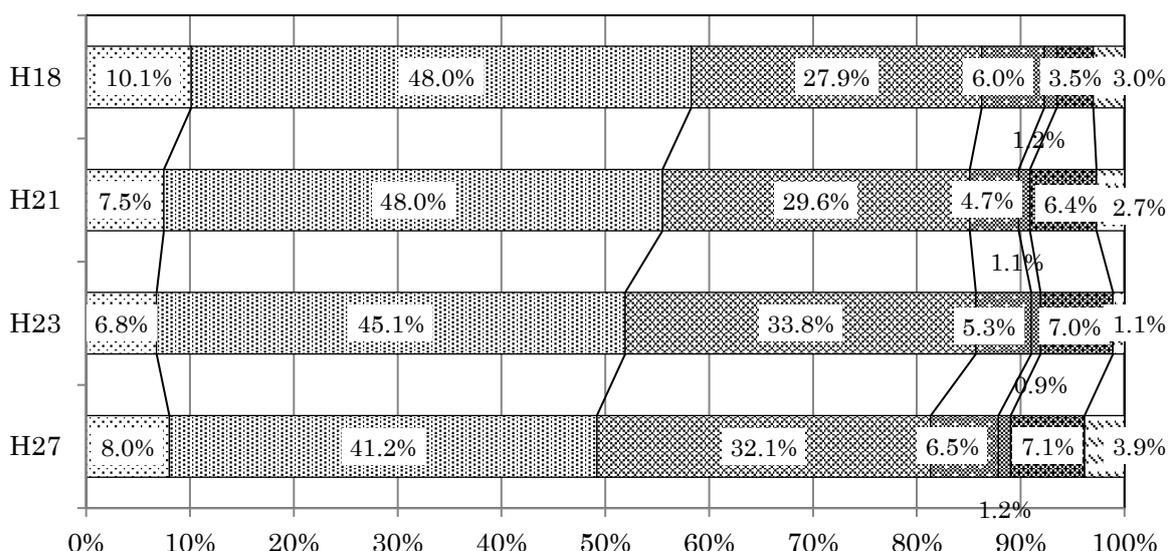
それぞれの分野で男女の地位について、「平等」という回答の割合が最も高い分野は、「学校教育では」の64.0%（前回68.8%）、以下「地域活動では」の36.3%（前回38.3%）、「法律や制度では」の36.3%（前回39.3%）の順になっています。

回答の割合は、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性の方が優遇されている」（以下「男性の方が優遇されている」）は、「政治や行政では」が61.6%（前回59.8%）と最も高く、以下「社会全体として」の59.7%（前回56.5%）、「慣習・しきたりなどでは」の55.4%（前回61.1%）の順になっています。

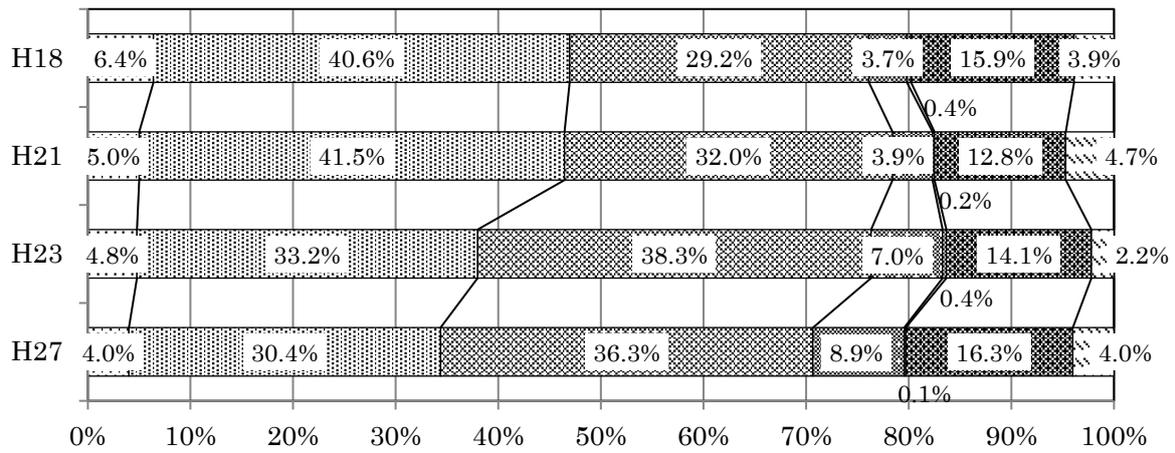
前回と比べ、「政治や行政では」と「法律や制度では」と「社会全体として」を除く分野で「男性の方が優遇されている」が減少しています。また、「慣習・しきたりなどでは」以外の分野で「平等」が減少している一方、「法律や制度では」を除く分野で「わからない」が増加しています。

☐ 男性の方が非常に優遇されている	☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☐ 平等になっている	☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ 女性の方が非常に優遇されている	☐ わからない
☐ 無回答	

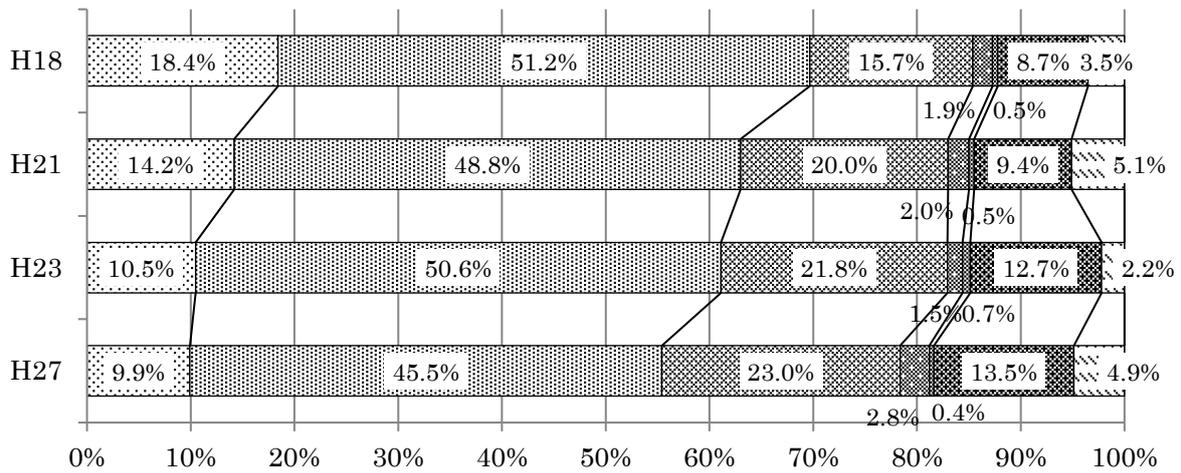
#### (1) 家庭生活では



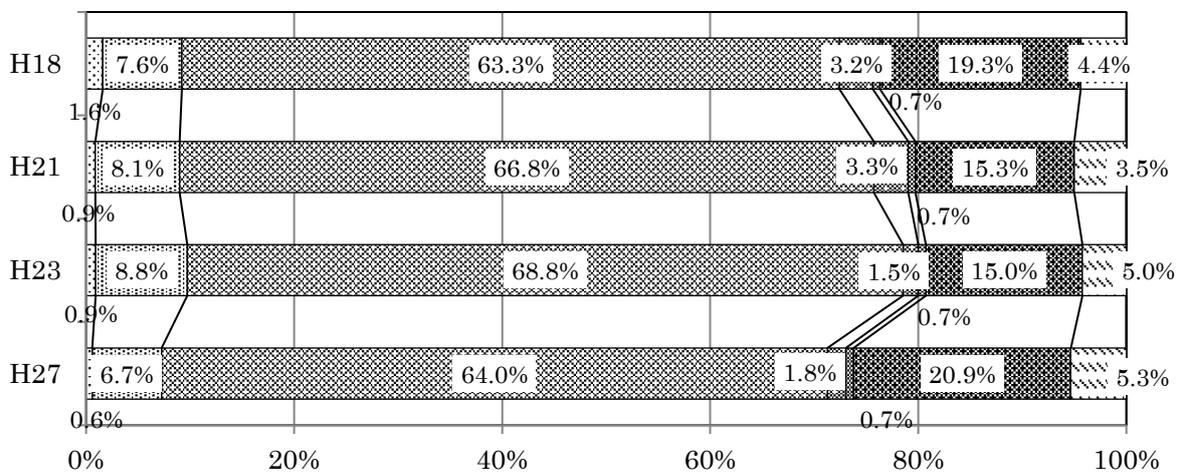
(2) 地域活動では



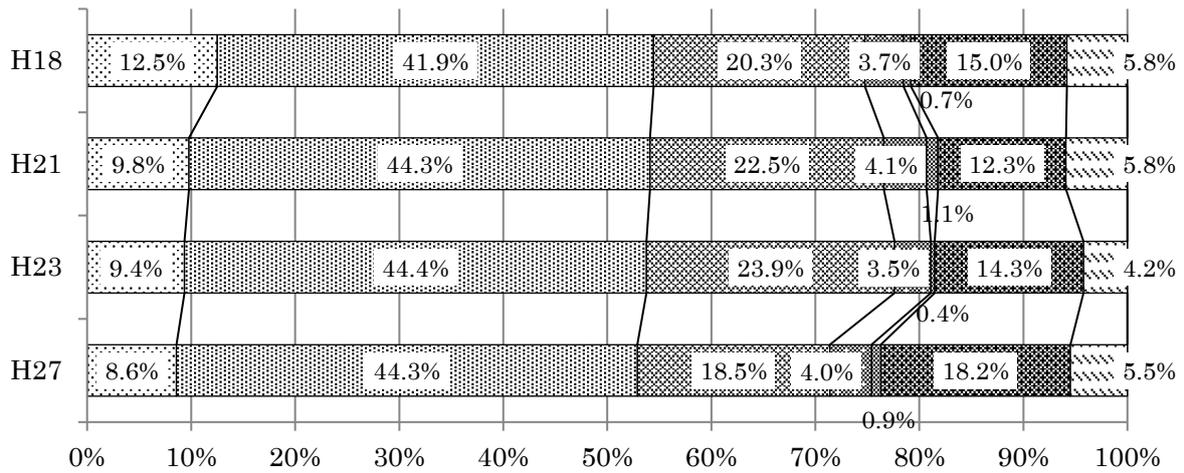
(3) 慣習・しきたりなどでは



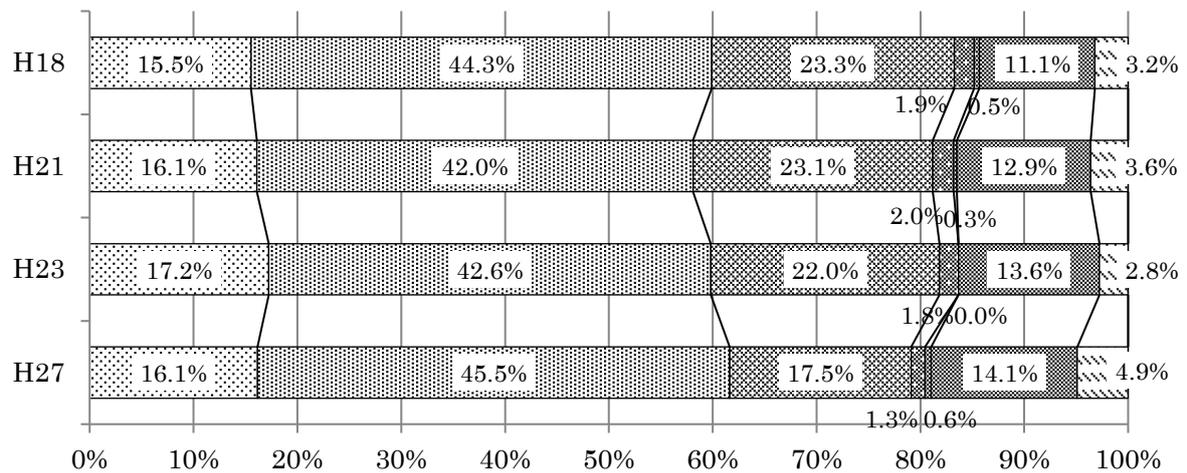
(4) 学校教育では



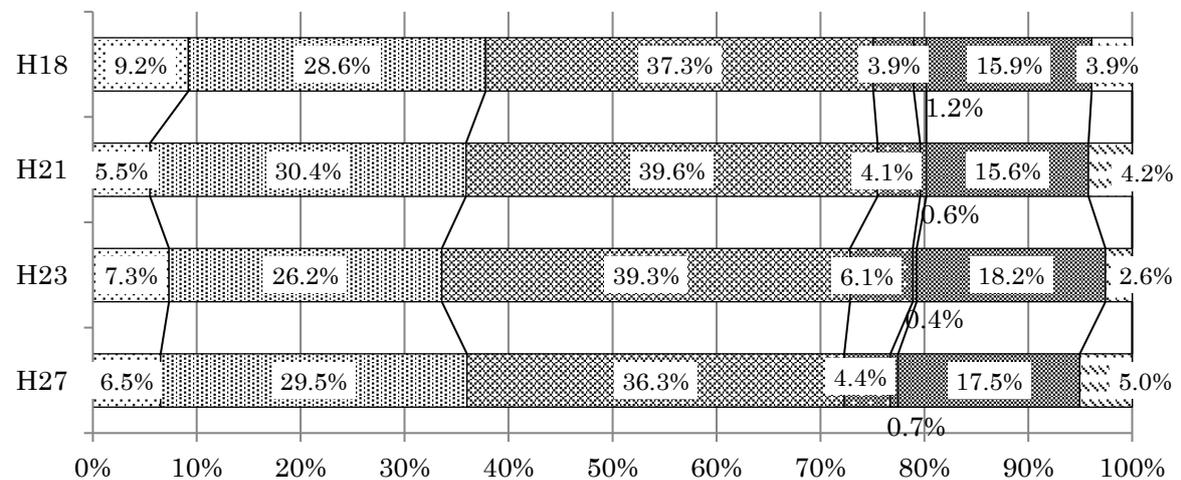
(5) 職場では



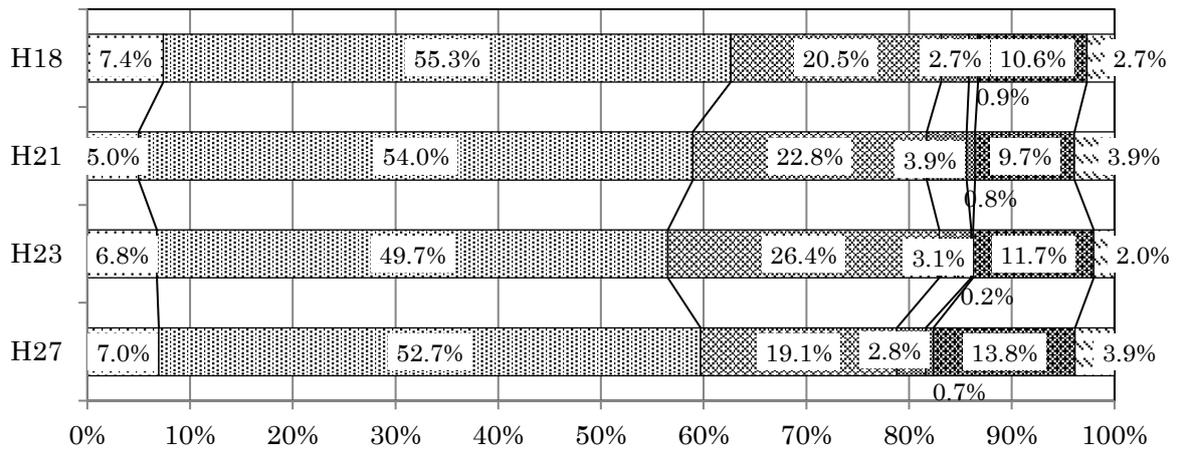
(6) 政治や行政では



(7) 法律や制度では



(8) 社会全体として

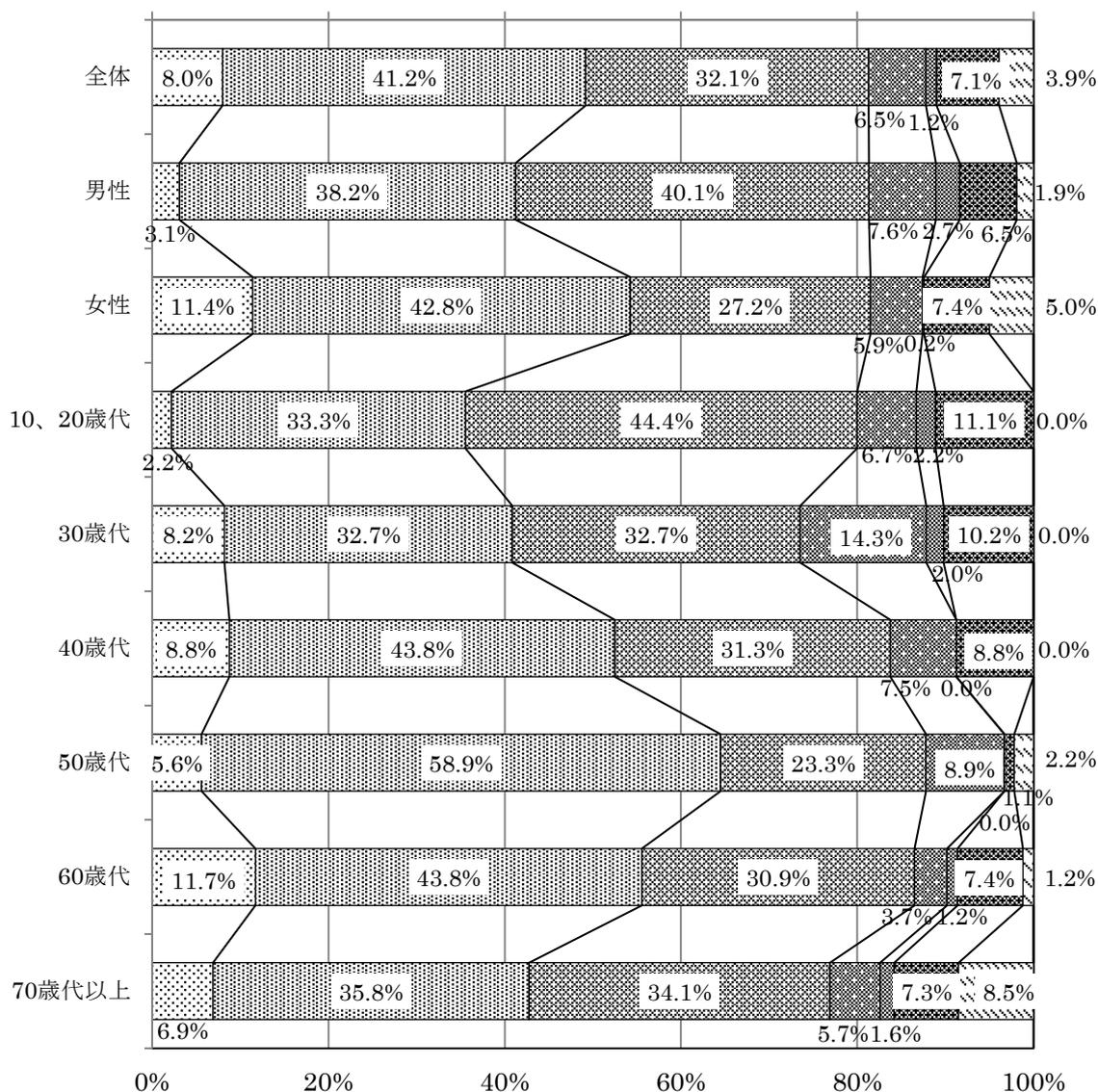


(1) 家庭生活では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は49.2%、「平等」は32.1%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の41.3%に対し、女性では54.2%と12.9ポイント高く、逆に「平等」は男性の40.1%に対し、女性では27.2%と12.9ポイント低くなっています。

年齢別でみると、40歳代から60歳代では「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えており、50歳代では64.5%と最も高くなっています。一方、10、20歳代では「平等」が44.4%であり、「男性の方が優遇されている」の33.3%を上回っています。

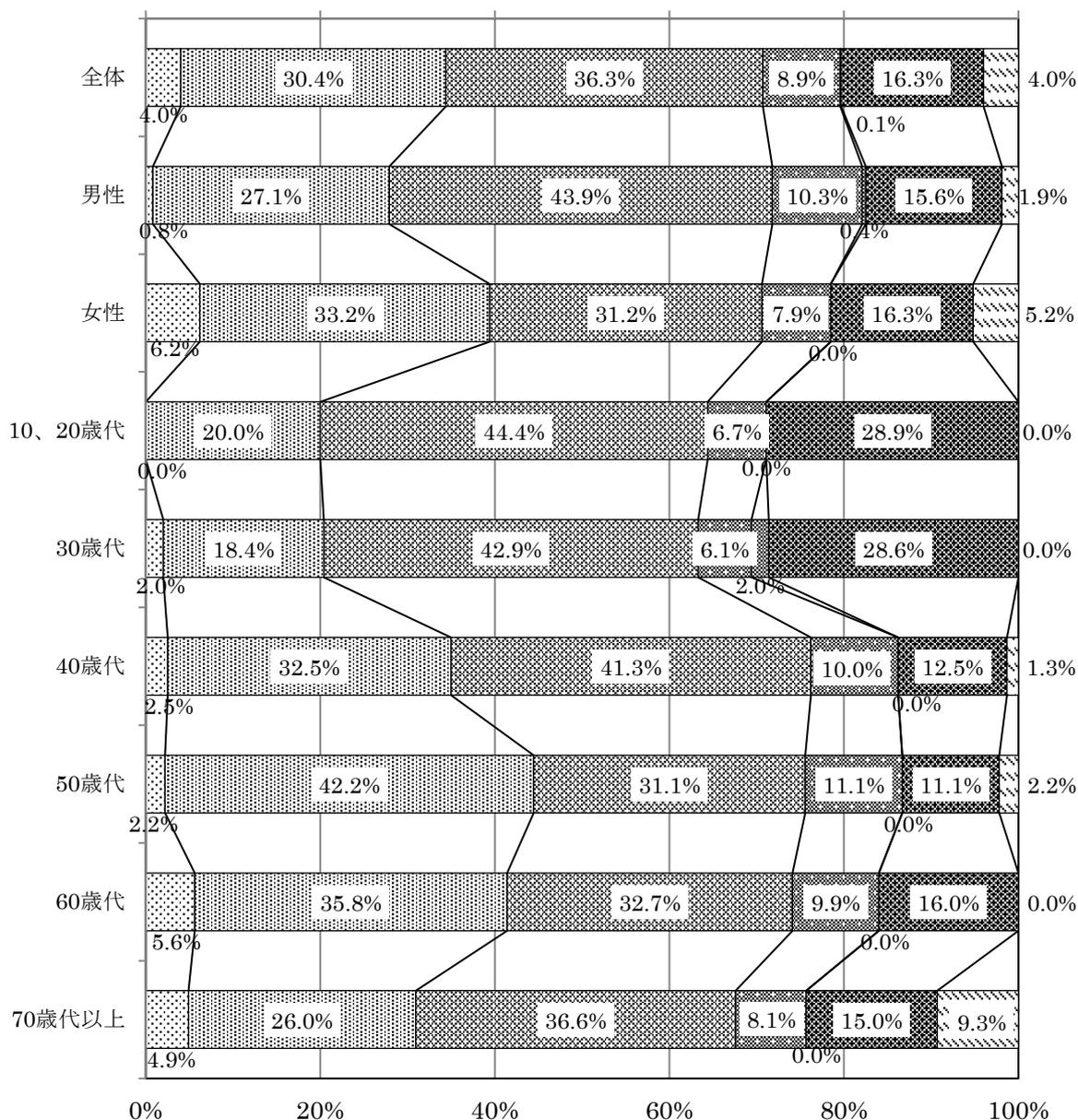
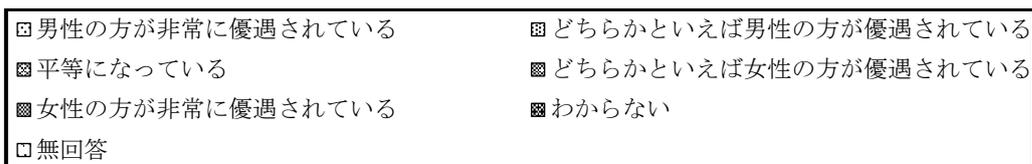


(2) 地域活動では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は34.4%、「平等」は36.3%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の27.9%に対し、女性は39.4%と11.5ポイント高く、「平等」は男性の43.9%に対し、女性は31.2%と12.7ポイント低くなっています。

年齢別でみると、50歳代で「男性の方が優遇されている」が44.4%で最も高くなっています。

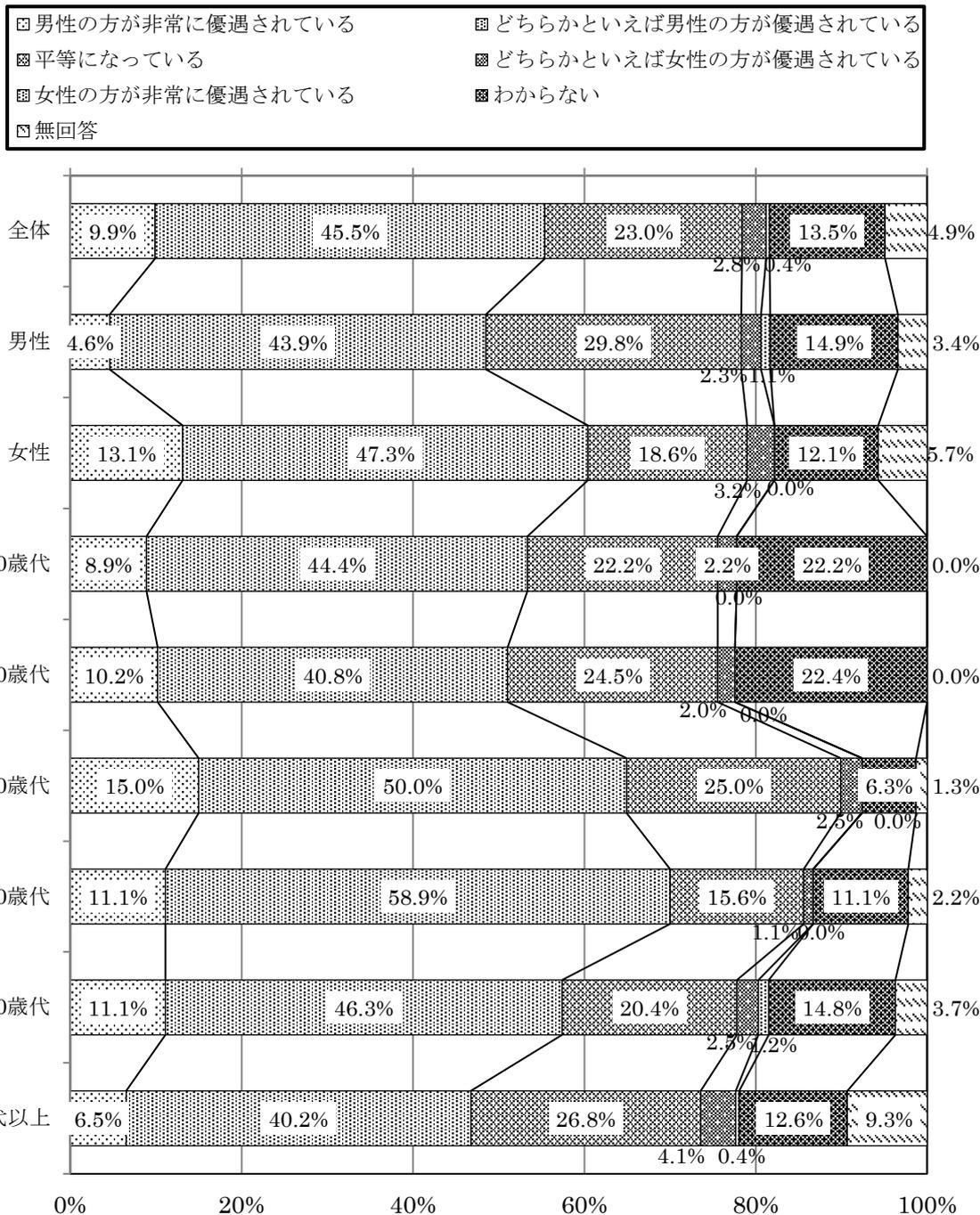


(3) 慣習・しきたりなどでは

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は55.4%であり、「平等」の23.0%を大きく上回っています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の48.5%に対し、女性は60.4%と11.9ポイント高く、「平等」は男性の29.8%に対し、女性は18.6%と11.2ポイント低くなっています。

年齢別でみると、70歳代以上を除く各年代で「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えています。特に50歳代では70.0%と最も高くなっています。

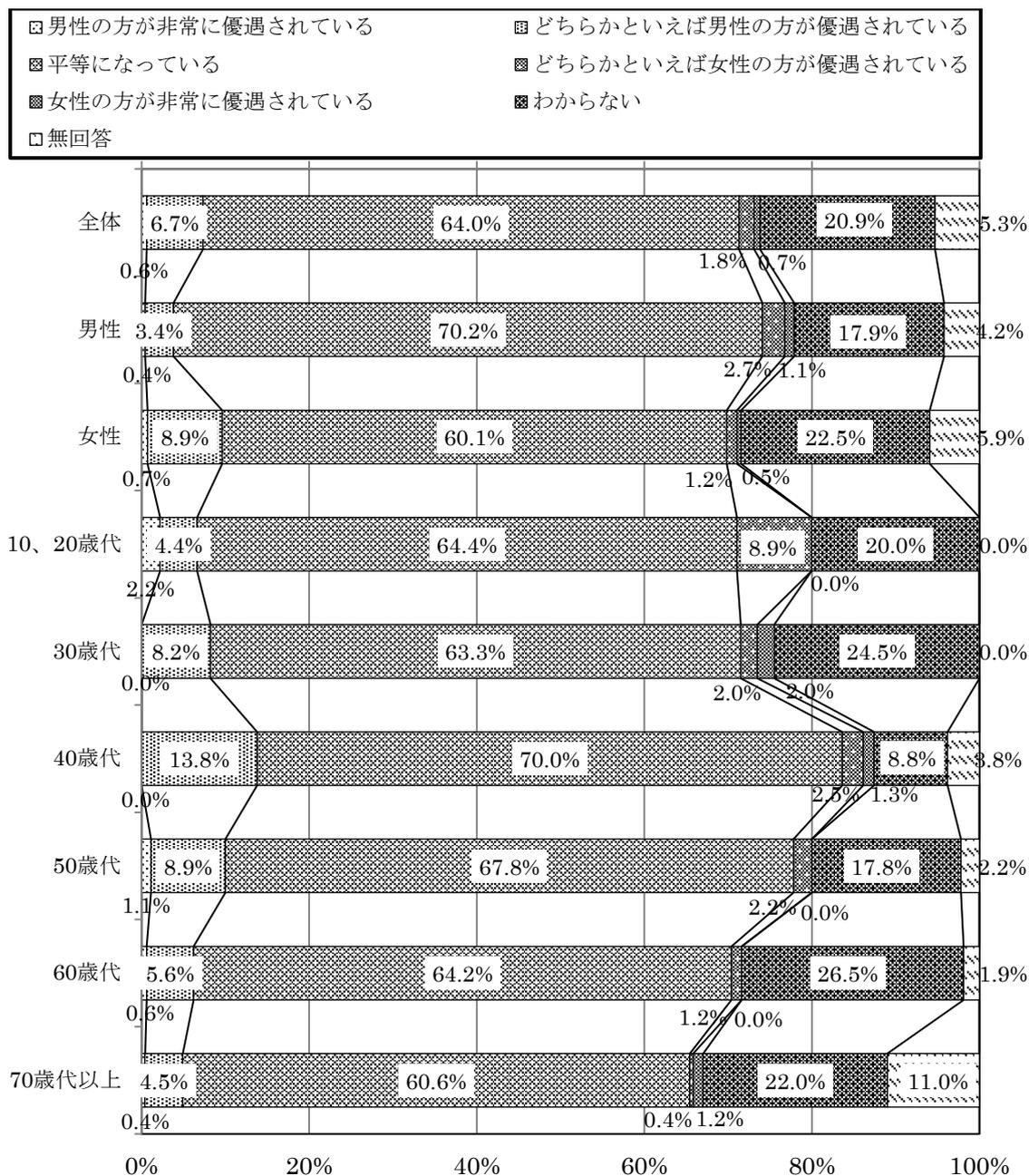


(4) 学校教育では

回答の割合は、「平等」は64.0%であり、「男性の方が優遇されている」の7.3%を大きく上回っています。

性別でみると、「平等」は男性の70.2%に対し、女性は60.1%と10.1ポイント低く、逆に「男性の方が優遇されている」は男性の3.8%に対し、女性は9.6%と5.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「平等」が60.0%を超えており、特に40歳代では70.0%と最も高くなっています。

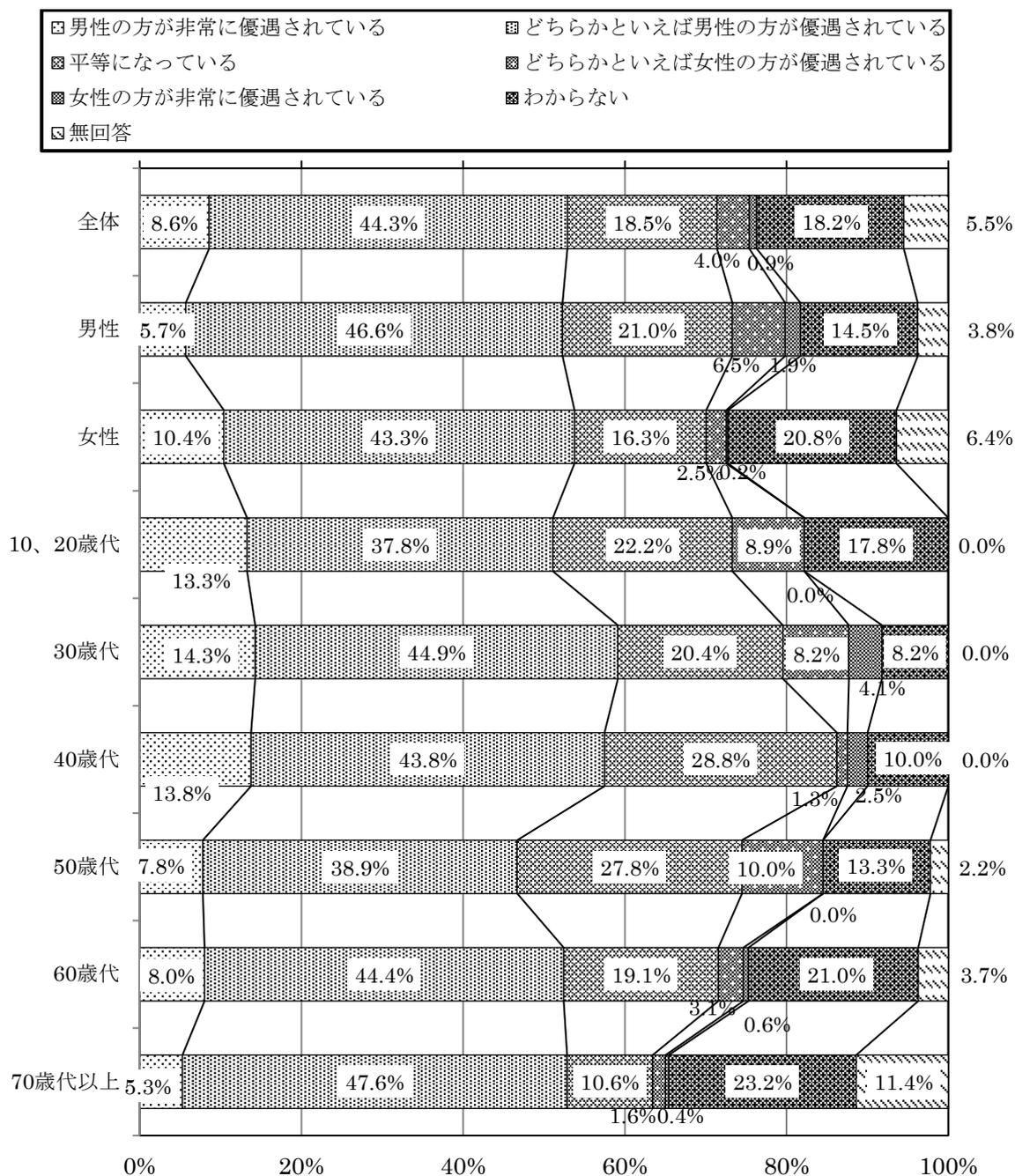


(5) 職場では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は52.9%、「平等」は18.5%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の52.3%に対し、女性は53.7%とほぼ同じ割合であり、「平等」は男性の21.0%に対し、女性は16.3%と4.7ポイント低くなっています。

年齢別でみると、50歳代を除く各年代で「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えており、特に30歳代では59.2%と最も高くなっています。

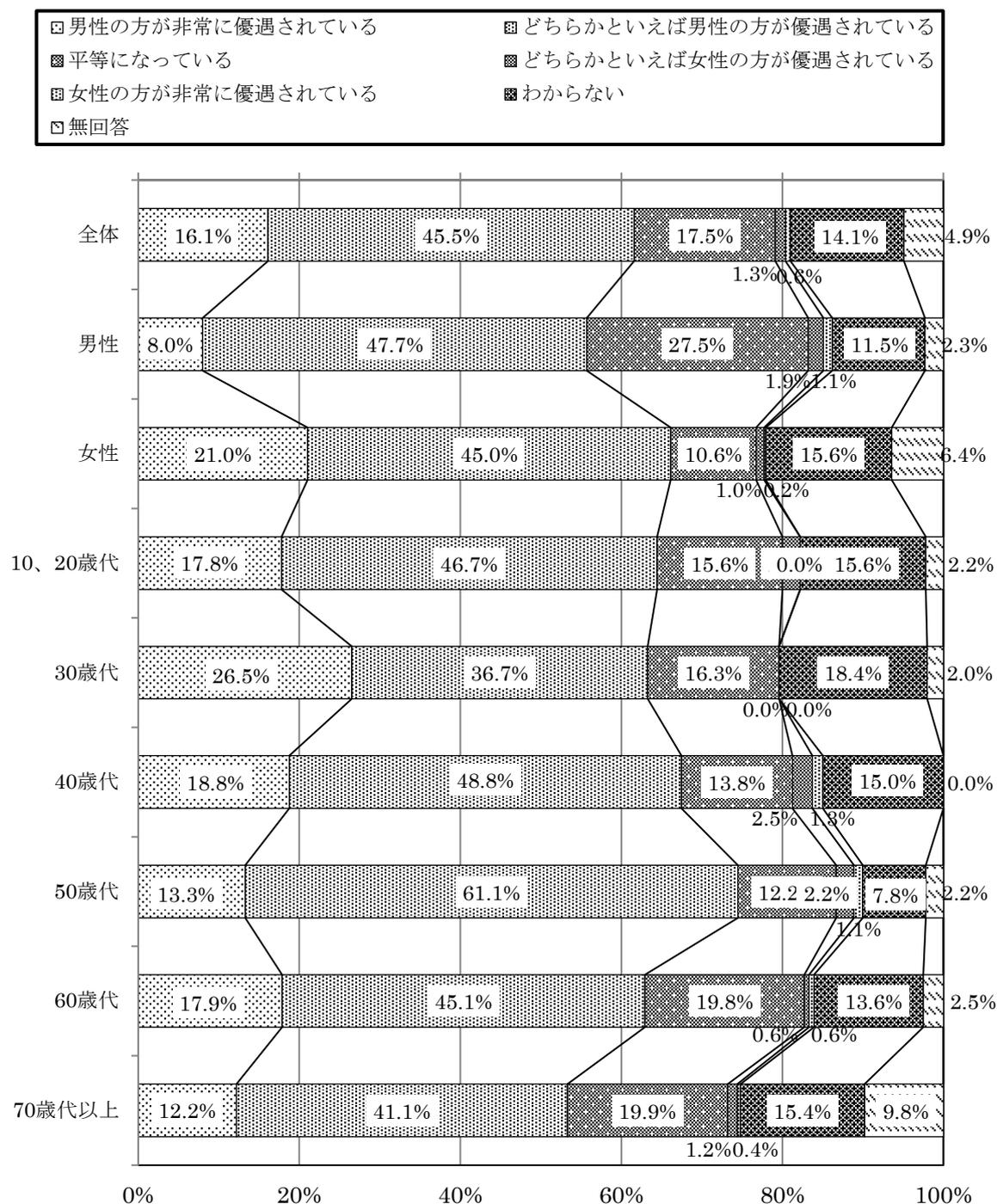


(6) 政治や行政では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は61.6%、「平等」は17.5%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の55.7%に対し、女性は66.0%と10.3ポイント高く、「平等」は男性の27.5%に対し、女性は10.6%と16.9ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」がすべての年代で50.0%を超えており、特に50歳代では74.4%と最も高くなっています。

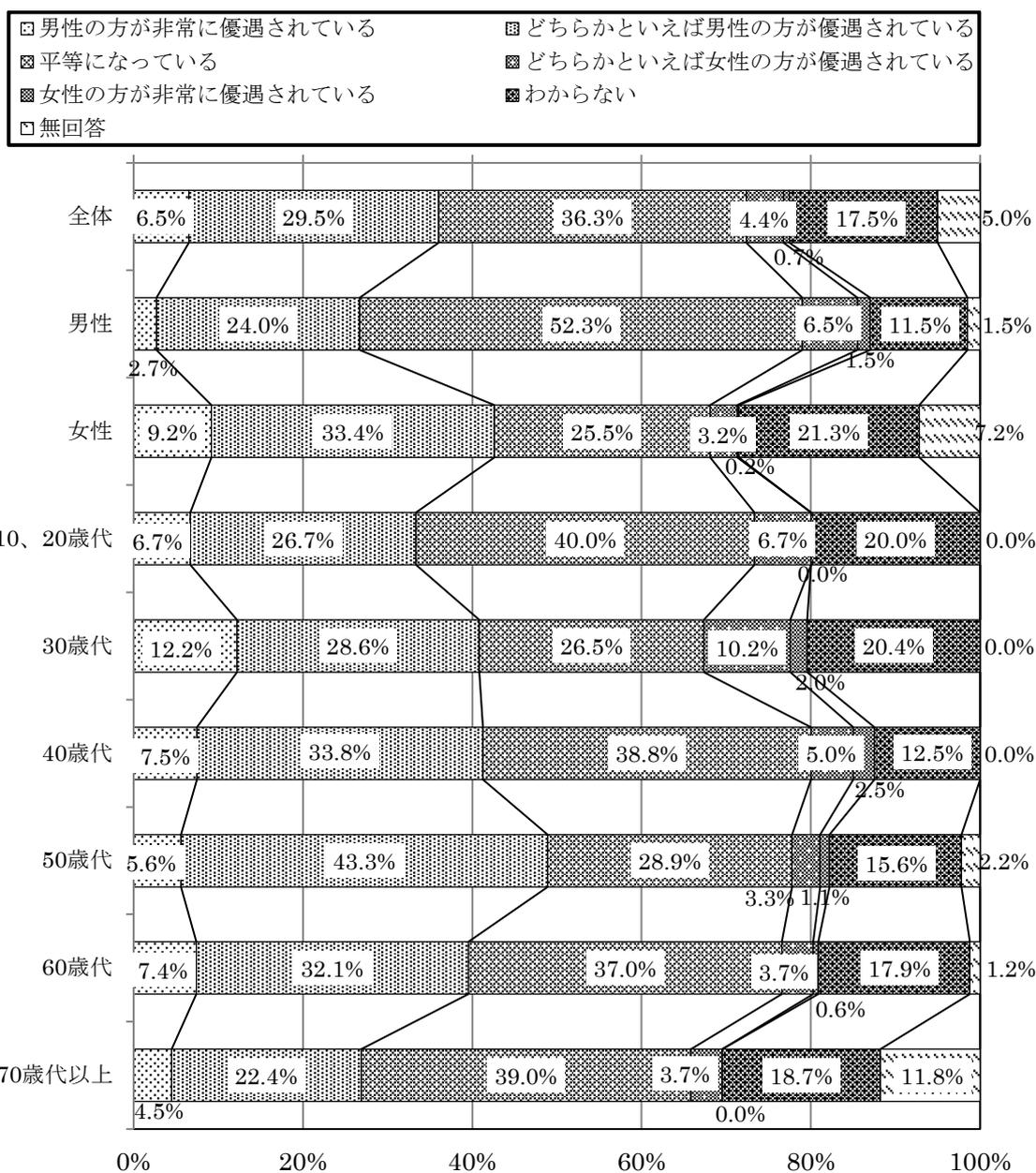


(7) 法律や制度では

回答の割合は、「平等」は36.3%であり、「男性の方が優遇されている」の36.0%とほぼ同じ割合となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の26.7%に対し、女性は42.6%と15.9ポイント高く、「平等」は男性の52.3%に対し、女性は25.5%と26.8ポイント低くなっています。

年齢別でみると、10、20歳代で「平等」が40.0%に達しています。また、30歳代、40歳代、50歳代で「男性の方が優遇されている」が40.0%を超えており、50歳代では48.9%と最も高くなっています。



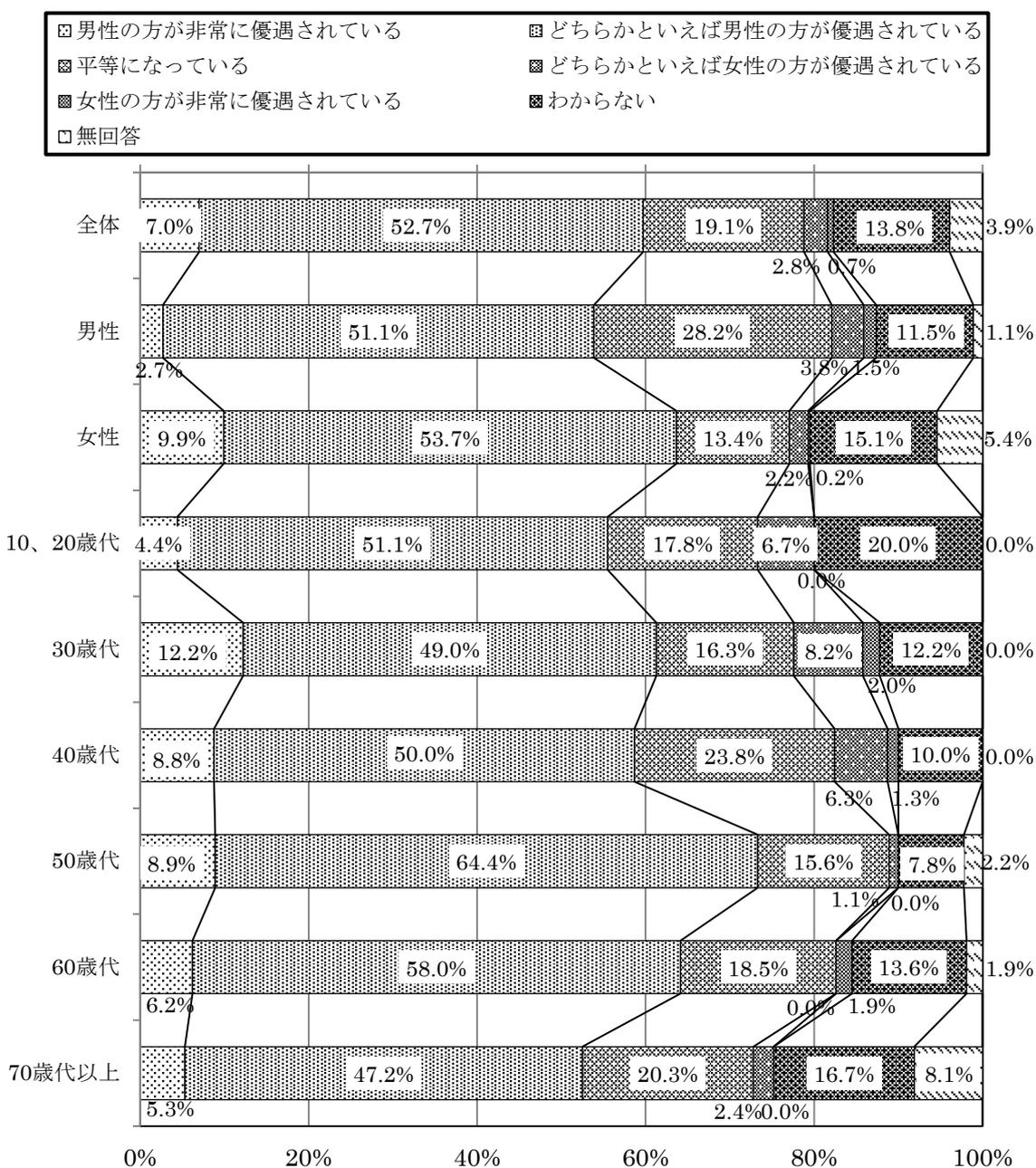
(8) 社会全体として

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は59.7%、「平等」は19.1%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の53.8%に対し、女性は63.6%と9.8ポイント高く、「平等」は男性の28.2%に対し、女性は13.4%と14.8ポイント低くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えており、特に50歳代では73.3%と最も高くなっています。

一方、「平等」は40歳代が23.8%と最も高く、50歳代で15.6%と最も低くなっています。また、30歳代では「女性の方が優遇されている」が10.2%で、他の年代に比べ高くなっています。

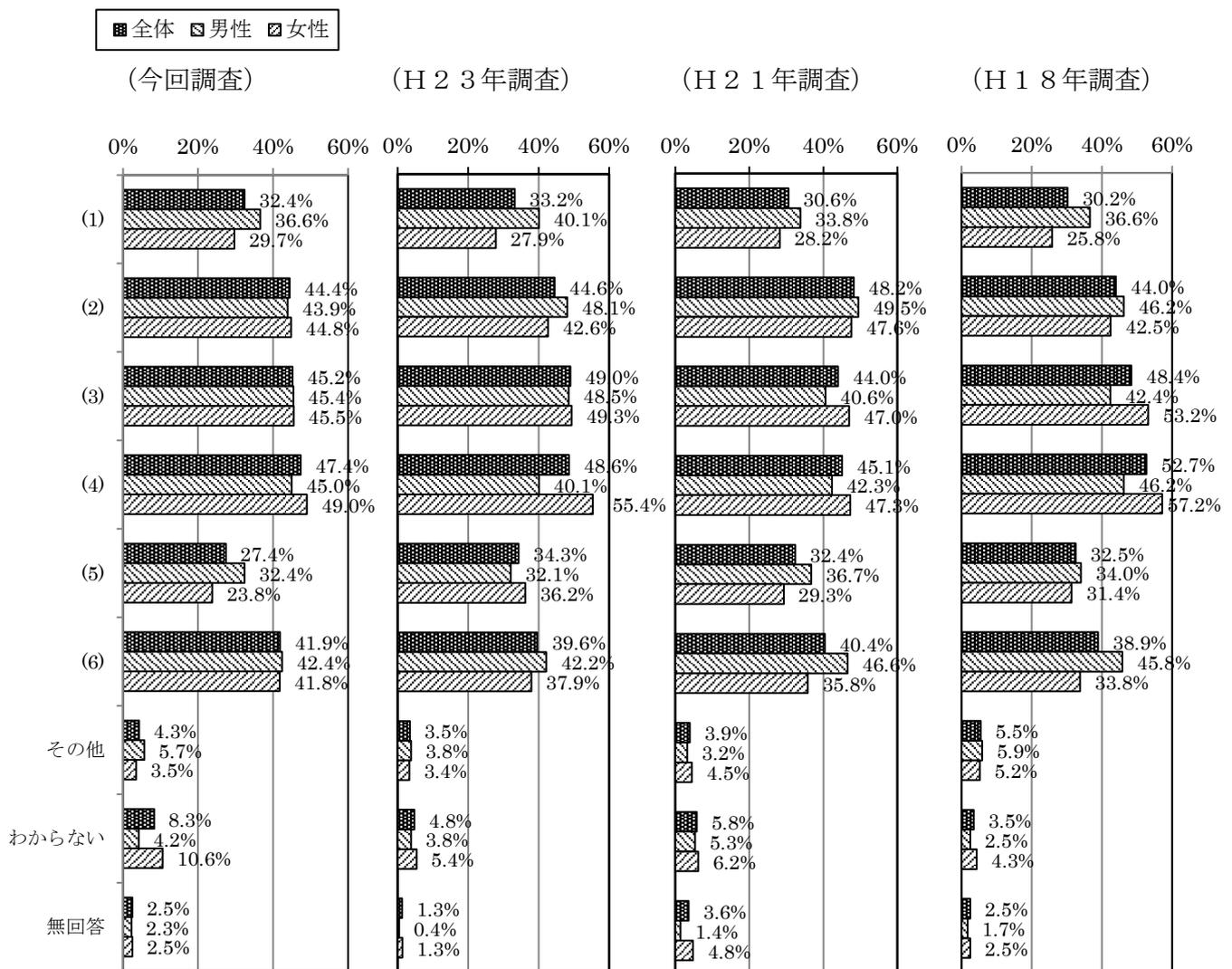


**問 2 今後、社会のあらゆる分野で、男女が不平等を感じないようにするために重要なことは何だと思えますか。(3つまで回答可)**

男女があらゆる分野で不平等を感じないようにするために重要なこととしては、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」が47.4%と最も高く、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる」(45.2%)が続き、以下「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」(44.4%)、「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える」(41.9%)の順となっています。

性別でみると、男性は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる」(45.4%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」(45.0%)、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」(43.9%)の順、女性は「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」(49.0%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる」(45.5%)、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」(44.8%)の順となっています。

また、「行政や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用する」は男性で32.4%、女性で23.8%と男性の方が8.6ポイント高くなっており、他の選択肢に比べ、男女の間での回答率の差が大きくなっています。



**【選択肢】**

- (1) 法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改める
- (2) 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める
- (3) 女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる
- (4) 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
- (5) 行政や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用する
- (6) 子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える

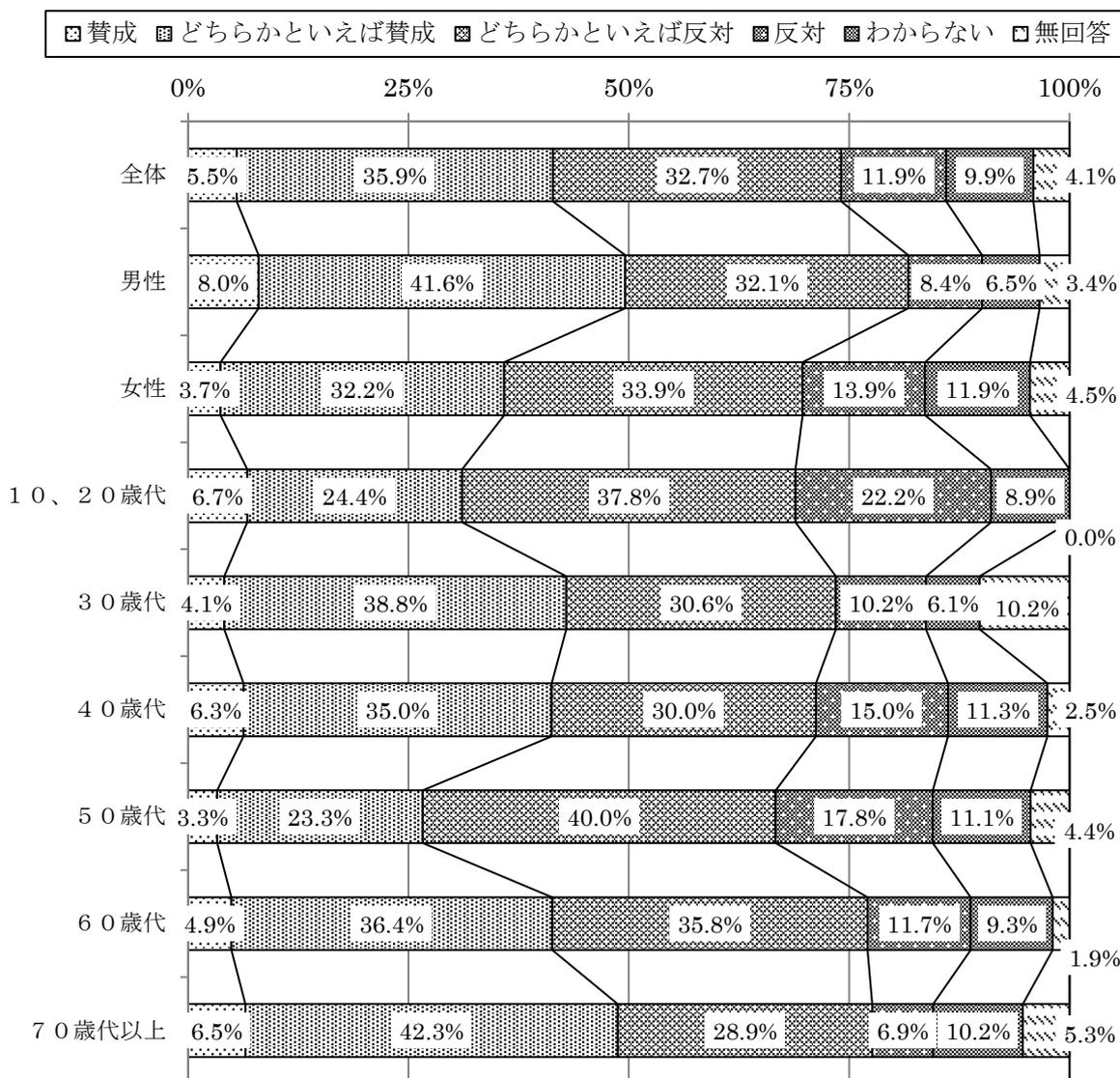
問 3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」と答えた方が41.4%、性別でみると男性が49.6%、女性が35.9%と男性が13.7ポイント高くなっています。

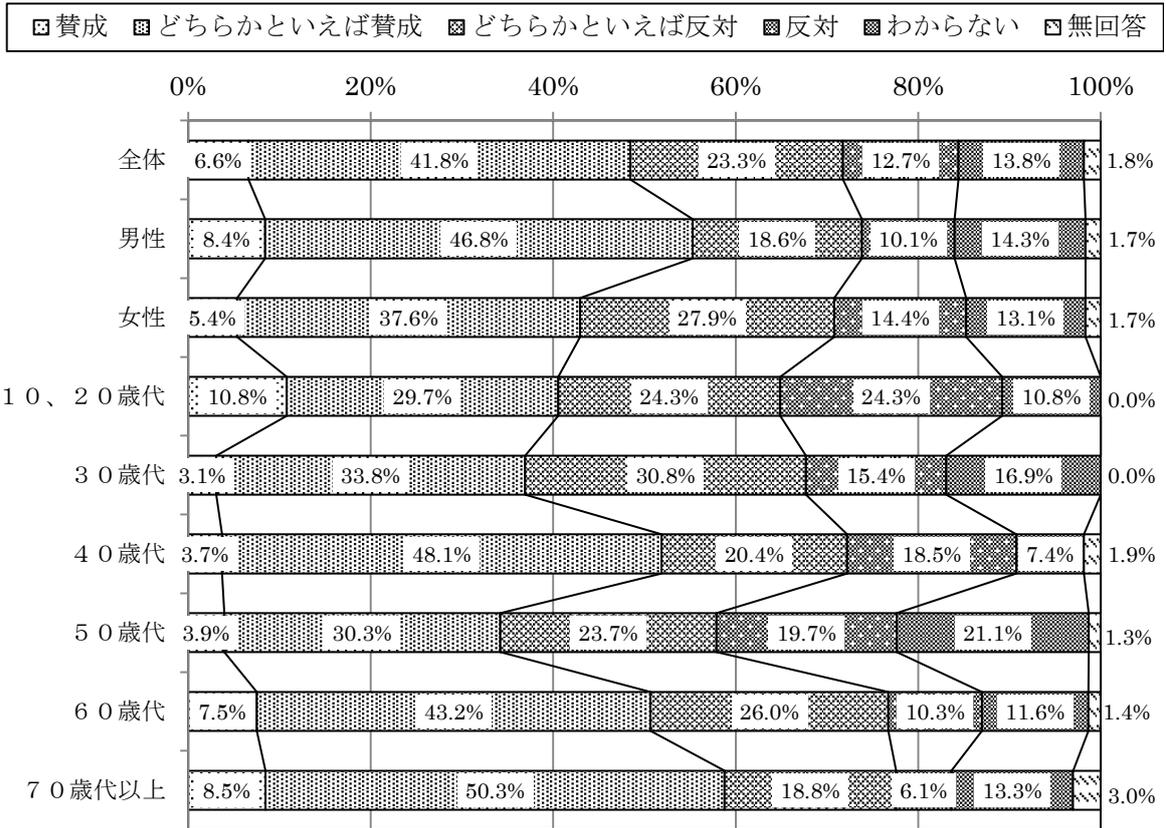
年齢別でみると、70歳代以上で「賛成」が48.8%と最も高くなっています。

また、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた「反対」と答えた方が44.6%、性別でみると男性が40.5%、女性が47.8%と女性が7.3ポイント高くなっています。

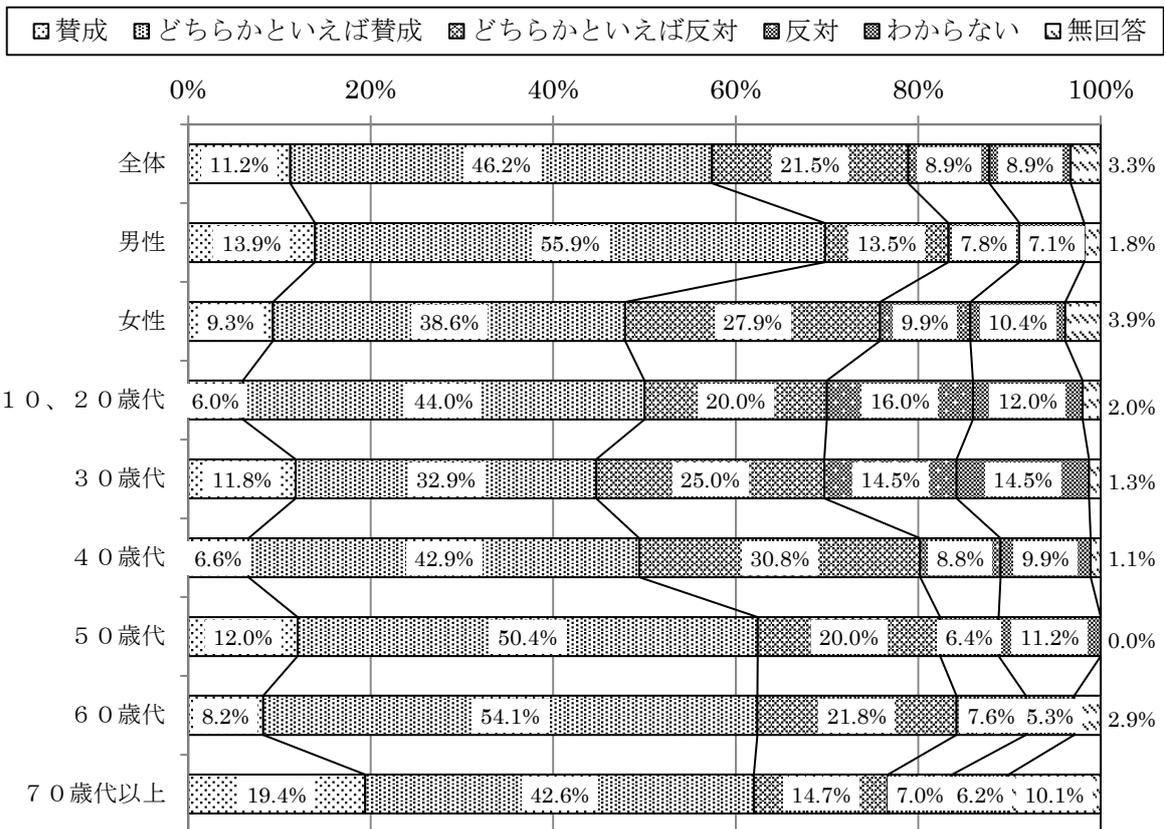
年齢別でみると、10、20歳代で「反対」が60.0%と最も高くなっています。



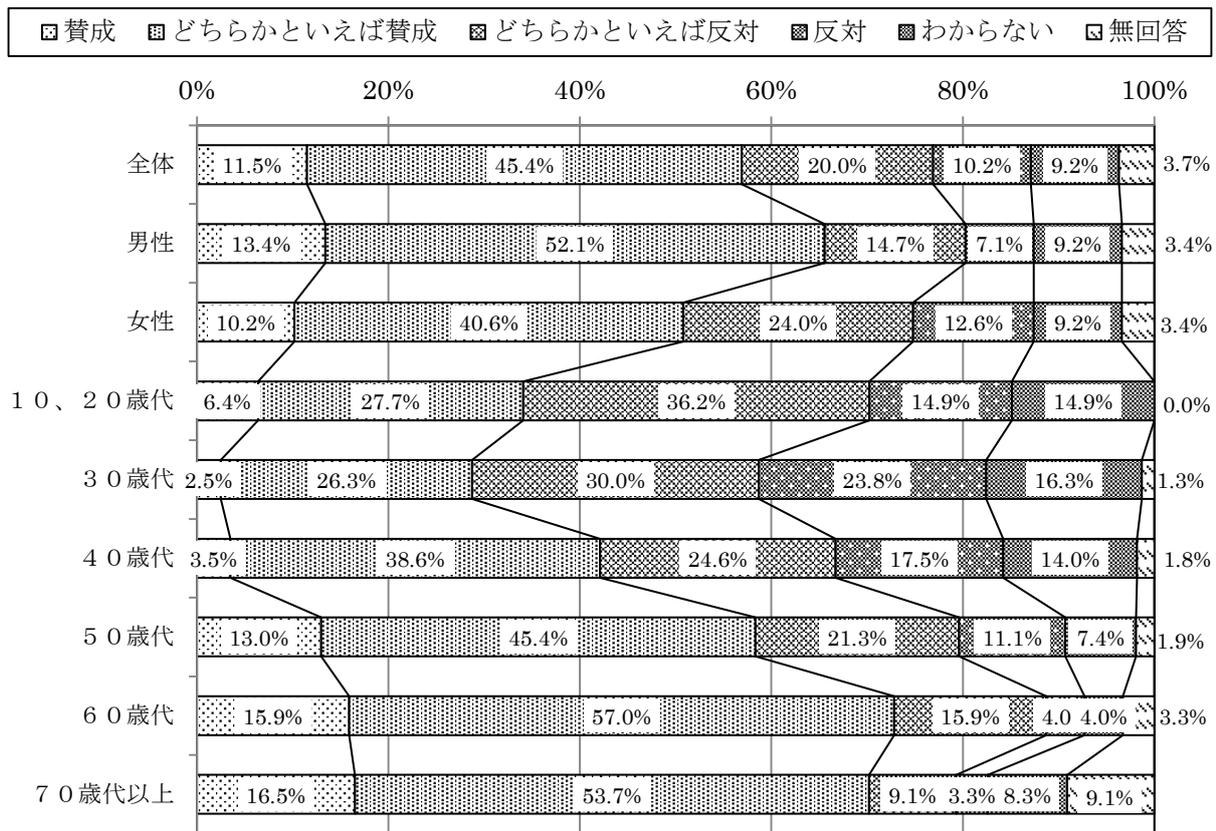
(H23年調査)



(H21年調査)



(H18年調査)



(問3で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします)

問 4 なぜそう思いましたか。

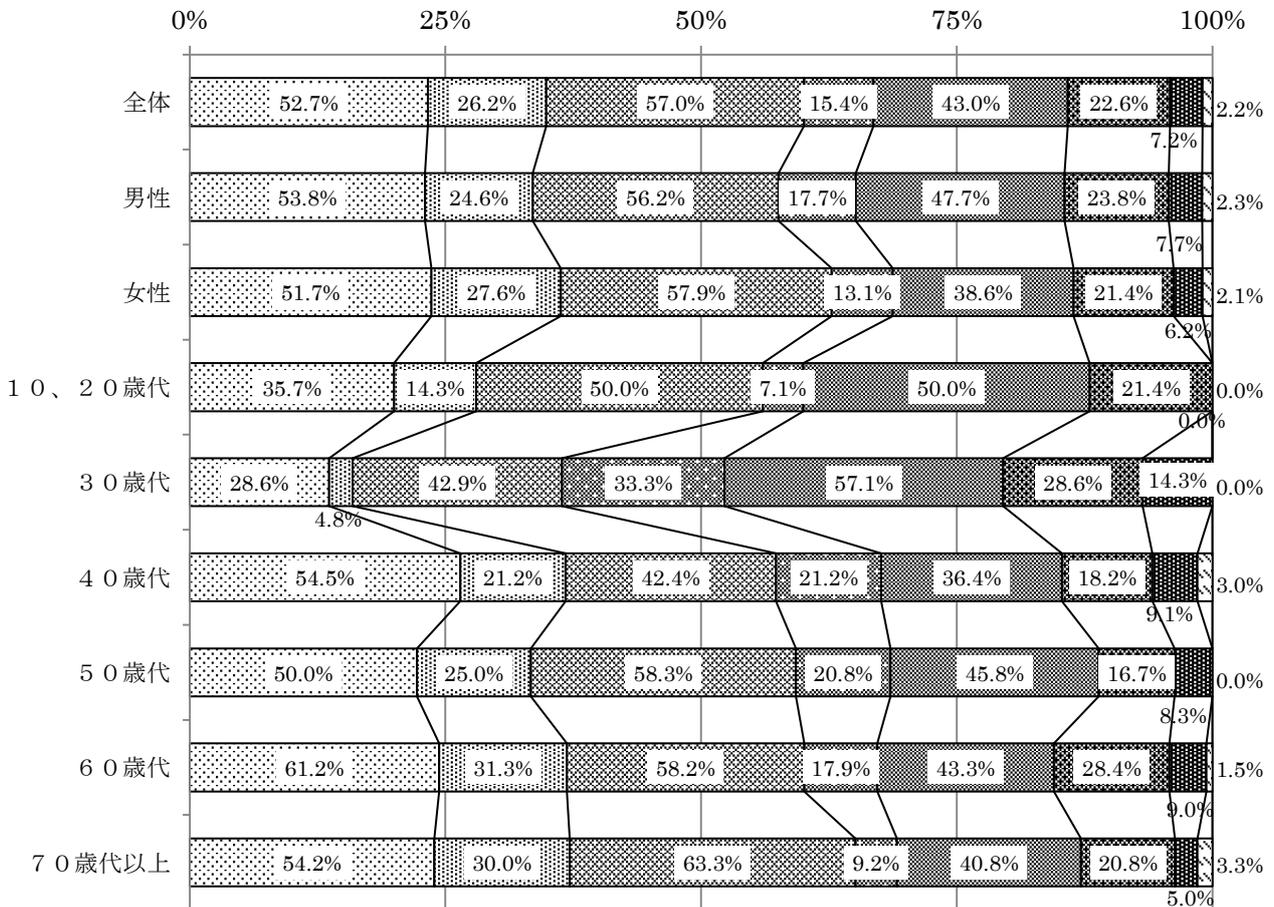
(3つまで回答可)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方の理由としては、「女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから」が57.0%と最も高く、「男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから」(52.7%)、「夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから」(43.0%)の順となっています。

性別で見ると、男性の回答は「女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから」(56.2%)、「男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから」(53.8%)、「夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから」(47.7%)の順、女性の回答は「女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから」(57.9%)、「男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから」(51.7%)、「夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから」(38.6%)の順となっています。

また、「夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから」は男性で47.7%、女性で38.6%と男性の方が9.1ポイント高くなっており、他の選択肢に比べ、男女間での回答率の差が大きくなっています。

- 男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから
- 家族を養うのは男性の責任で、家族の世話は女性の責任だから
- 女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから
- 職場で男女の待遇に差があるから
- 夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから
- 子どもに良くない影響が出るから
- その他
- 無回答



※ 3つまでの選択回答のため、合計が100%を超えます

**【選択肢】**

- (1) 男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから
- (2) 家族を養うのは男性の責任で、家族の世話は女性の責任だから
- (3) 女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから
- (4) 職場で男女の待遇に差があるから
- (5) 夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから
- (6) 子どもに良くない影響が出るから

(問3で「どちらかといえば反対」「反対」と答えた方にお聞きします)

問 5 なぜそう思いましたか。

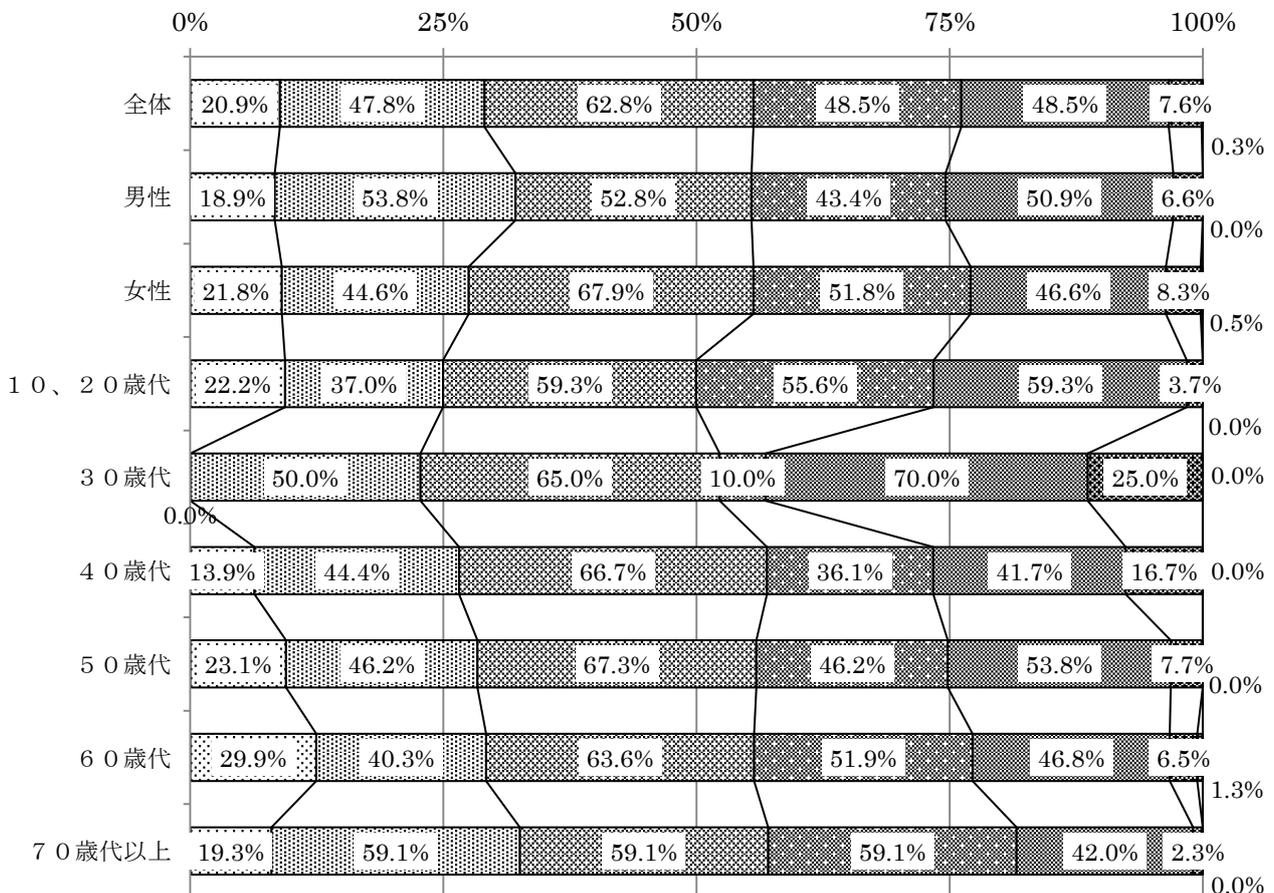
(3つまで回答可)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「どちらかといえば反対」または「反対」と答えた方の理由としては、「仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから」が62.8%と最も高く、「子育て・家事・介護がおろそかにならない範囲であれば仕事をして良いと思うから」(48.5%)、「女性がそう望むのであれば反対する理由がないから」(48.5%)の順となっています。

性別でみると、男性の回答は「男女平等の観点から」(53.8%)、「仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから」(52.8%)、「女性がそう望むのであれば反対する理由がないから」(50.9%)の順、女性の回答は「仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから」(67.9%)、「子育て・家事・介護がおろそかにならない範囲であれば仕事をして良いと思うから」(51.8%)、「女性がそう望むのであれば反対する理由がないから」(46.6%)の順となっています。

また、「仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから」は男性で52.8%、女性で67.9%と女性の方が15.1ポイント高くなっており、他の選択肢に比べ、男女間での回答率の差が大きくなっています。

- ▣ 女性が家庭にいると社会的に孤立し、良くないから
- ▣ 男女平等の観点から
- ▣ 仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから
- ▣ 子育て・家事・介護がおろそかにならない範囲であれば仕事をして良いと思うから
- ▣ 女性がそう望むのであれば反対する理由がないから
- ▣ その他
- ▣ 無回答



※ 3つまでの選択回答のため、合計が100%を超えます

**【選択肢】**

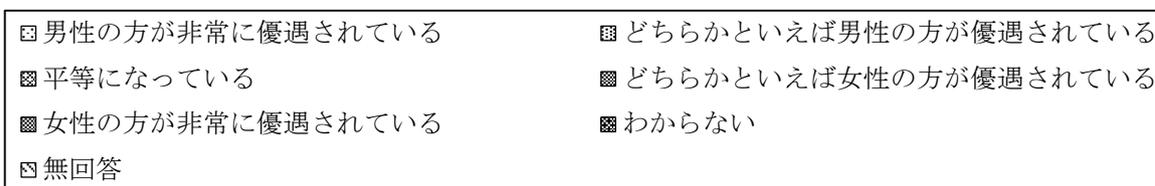
- (1) 女性が家庭にいると社会的に孤立し、良くないから
- (2) 男女平等の観点から
- (3) 仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから
- (4) 子育て・家事・介護がおろそかにならない範囲であれば仕事をしても良いと思うから
- (5) 女性がそう望むのであれば反対する理由がないから

問6 仕事における男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。

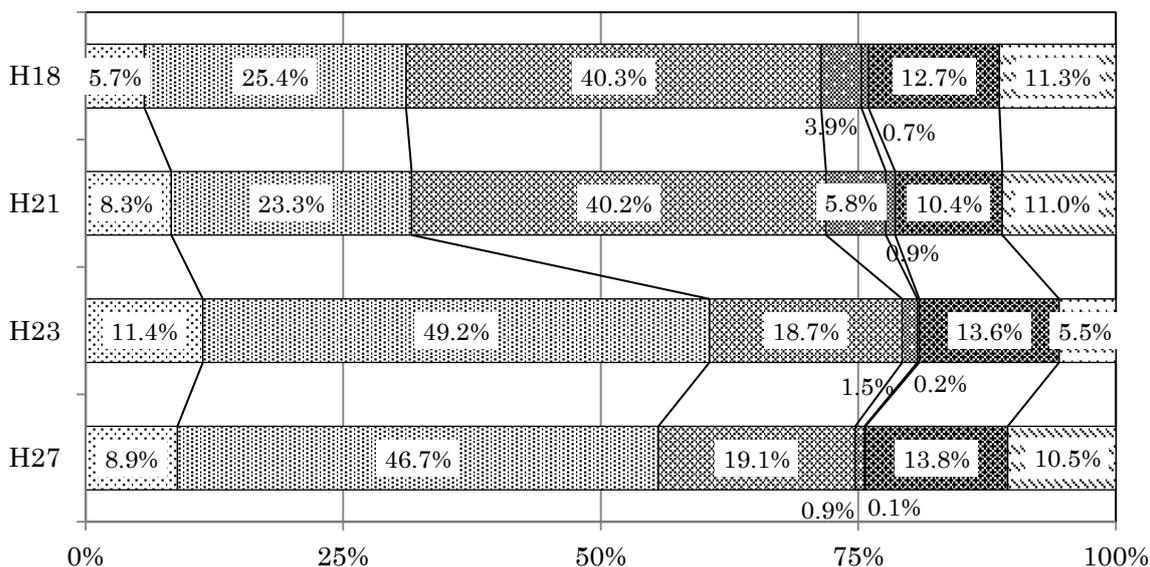
仕事における男女の扱いについて、「平等になっている」が最も多かったものは1項目もなく、「退職・解雇」が20.3%（前回27.2%）、「募集や採用」が19.1%（前回18.7%）、「仕事の内容」が18.5%（前回18.9%）、「賃金」が12.9%（前回12.8%）、「昇進・昇格」が6.5%（前回10.8%）となっています。

また、「男性の方が優遇されている」が全ての項目で多く、「昇進・昇格」が69.9%（前回69.8%）、「賃金」が63.8%（前回68.1%）、「募集や採用」が55.6%（前回60.6%）、「仕事の内容」が47.1%（前回51.4%）、「退職・解雇」が43.1%（前回42.9%）となっています。

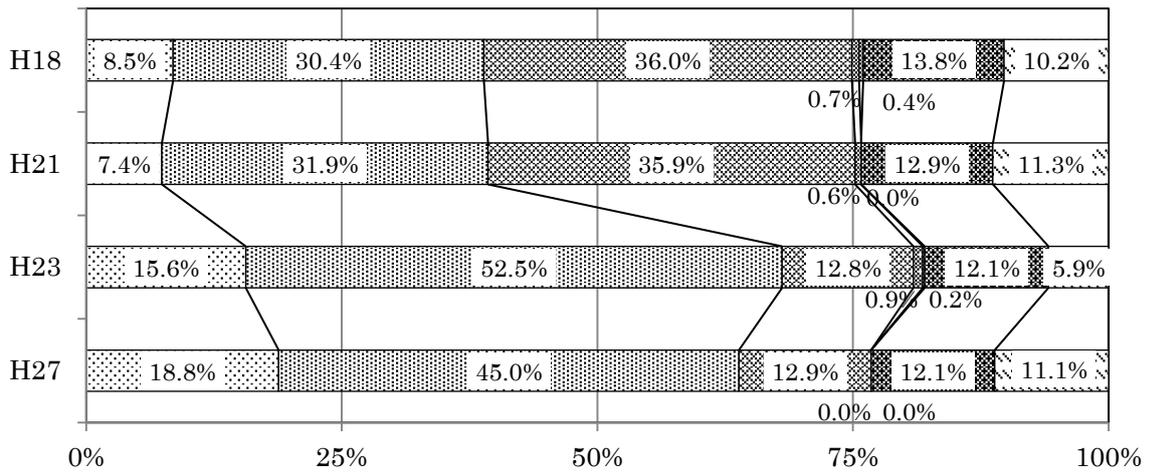
なお、「女性の方が優遇されている」はいずれの項目でも低くなっています。



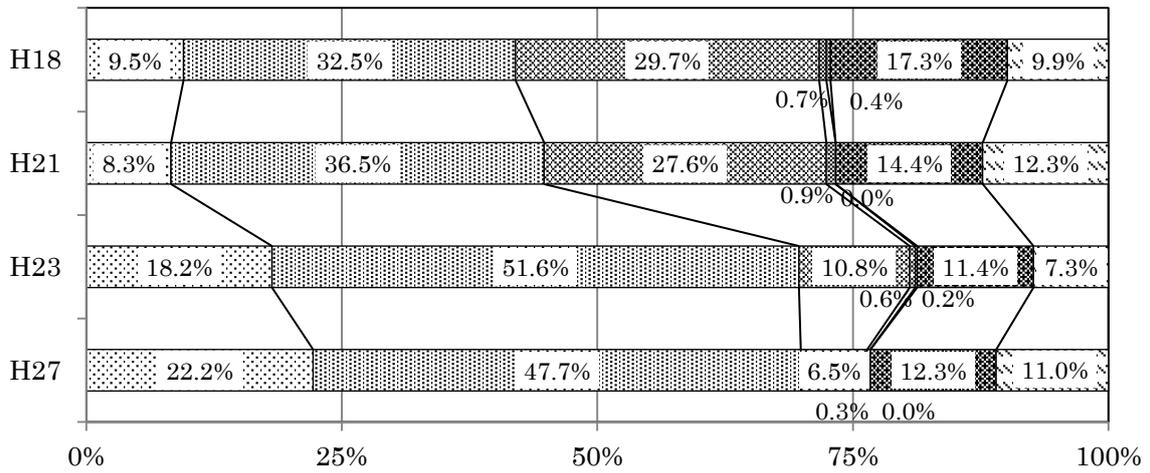
(1) 募集や採用



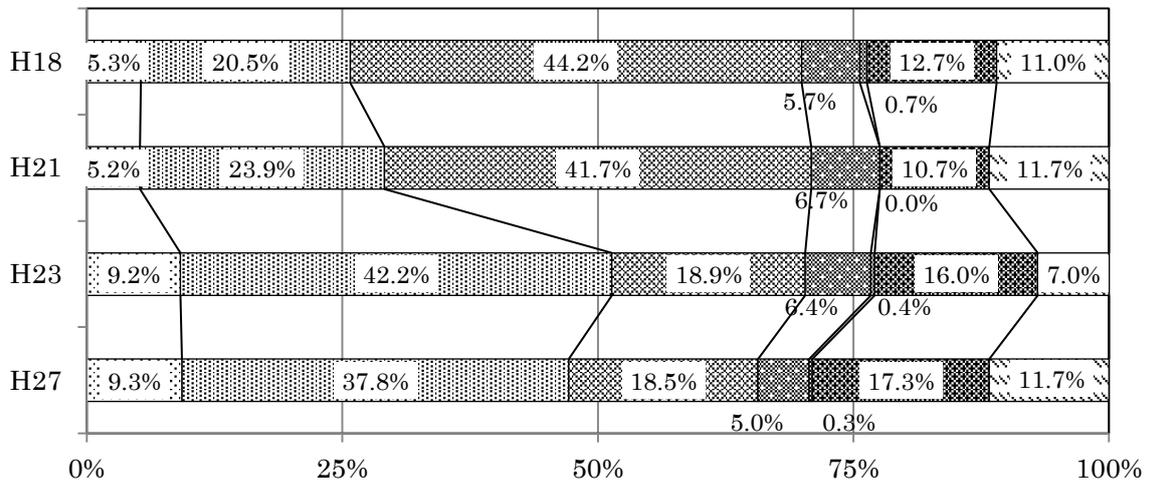
(2) 賃金



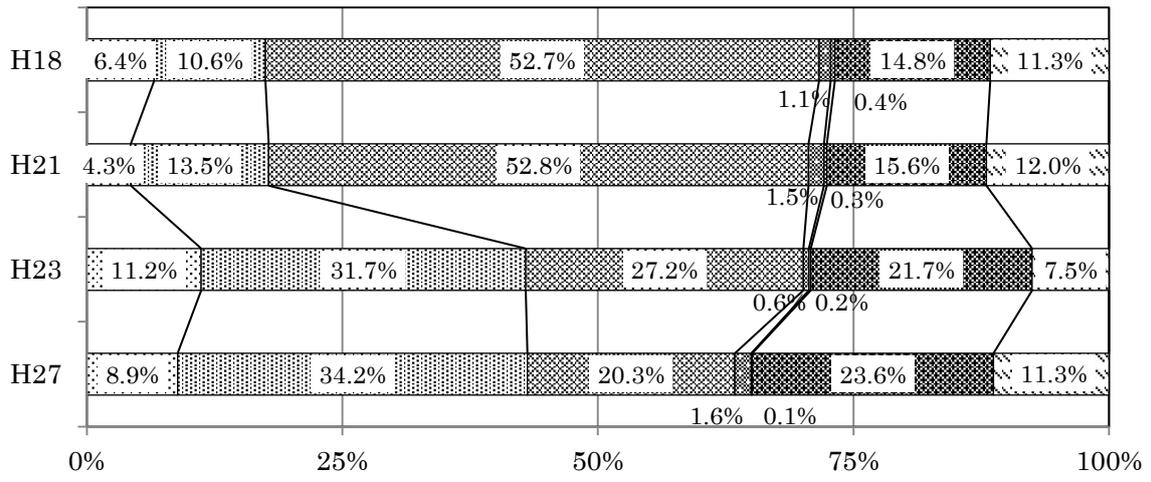
(3) 昇進・昇格



(4) 仕事の内容



(5) 退職・解雇

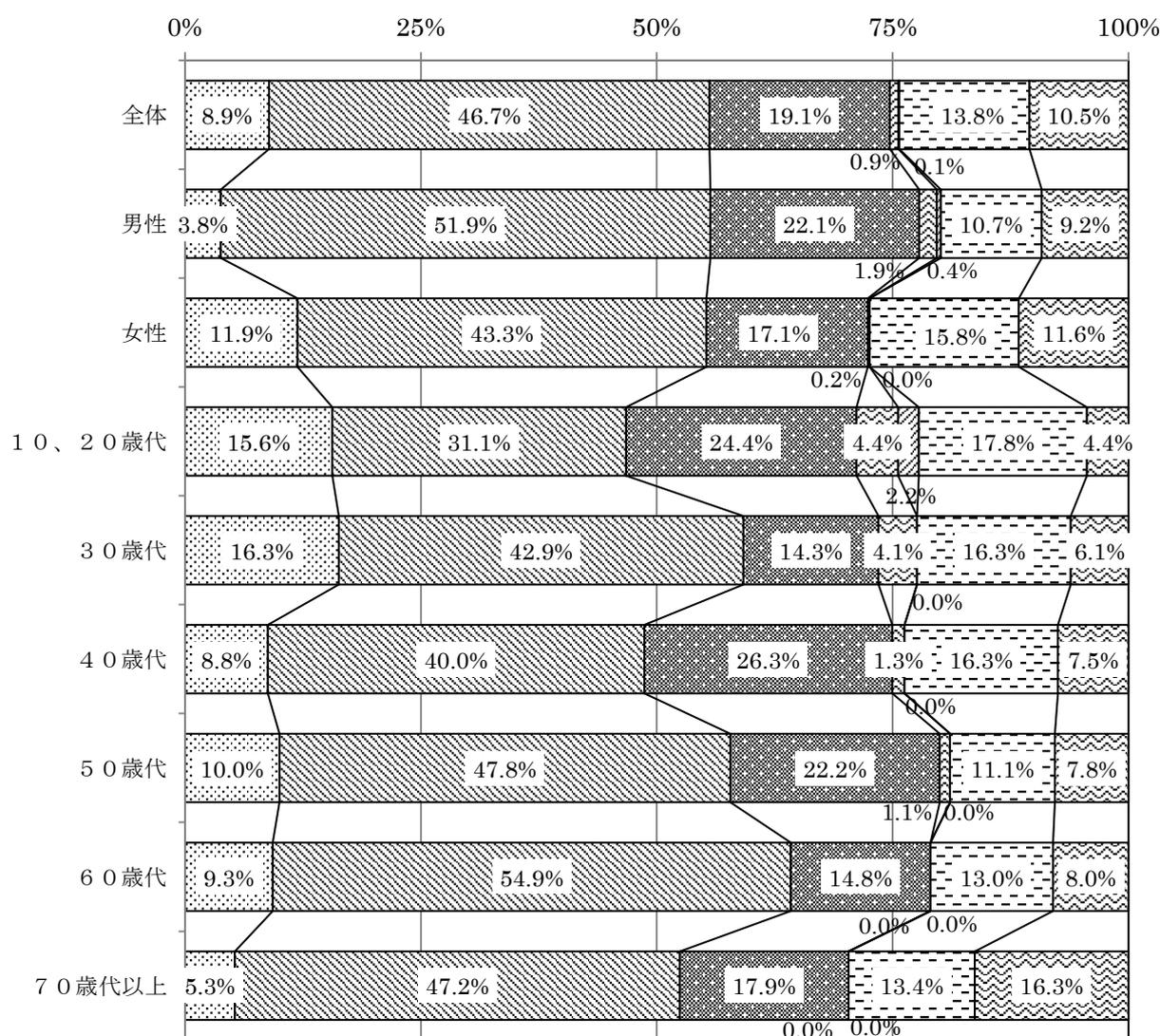
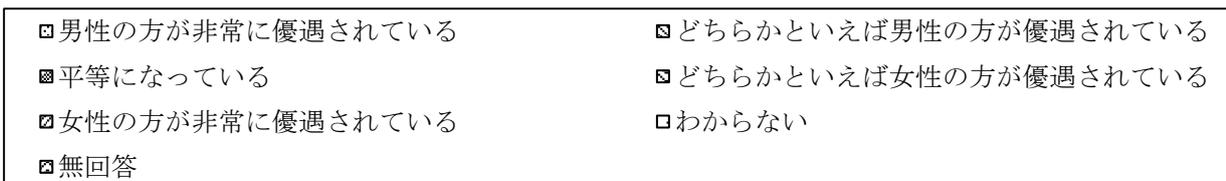


(1) 募集や採用

募集や採用については、「平等になっている」は19.1%、「男性の方が優遇されている」は55.6%となっています。

性別でみると、「平等になっている」は男性の22.1%に対し、女性は17.1%と5.0ポイント低くなっています。

年齢別でみると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

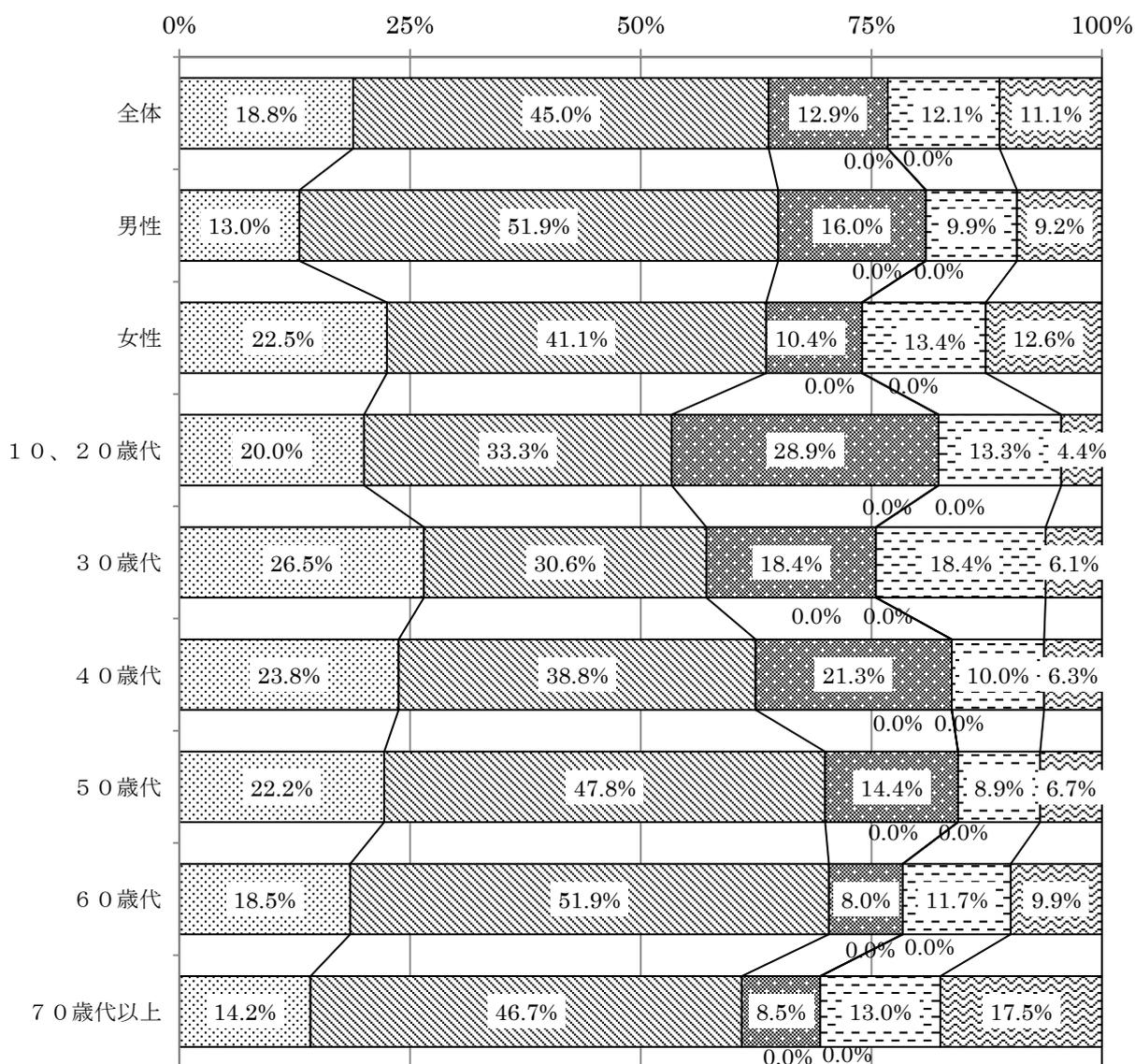
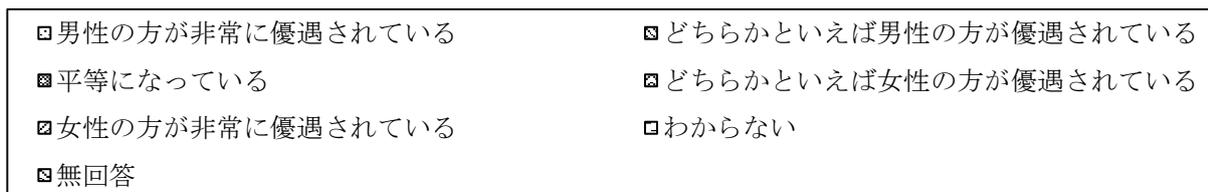


(2) 賃金

賃金については、「男性の方が優遇されている」は63.8%、「平等になっている」は12.9%となっています。

性別で見ると、「男性の方が優遇されている」は男性の64.9%に対し、女性は63.6%とほぼ同じで、「平等になっている」は男性の16.0%に対し、女性は10.4%と5.6ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

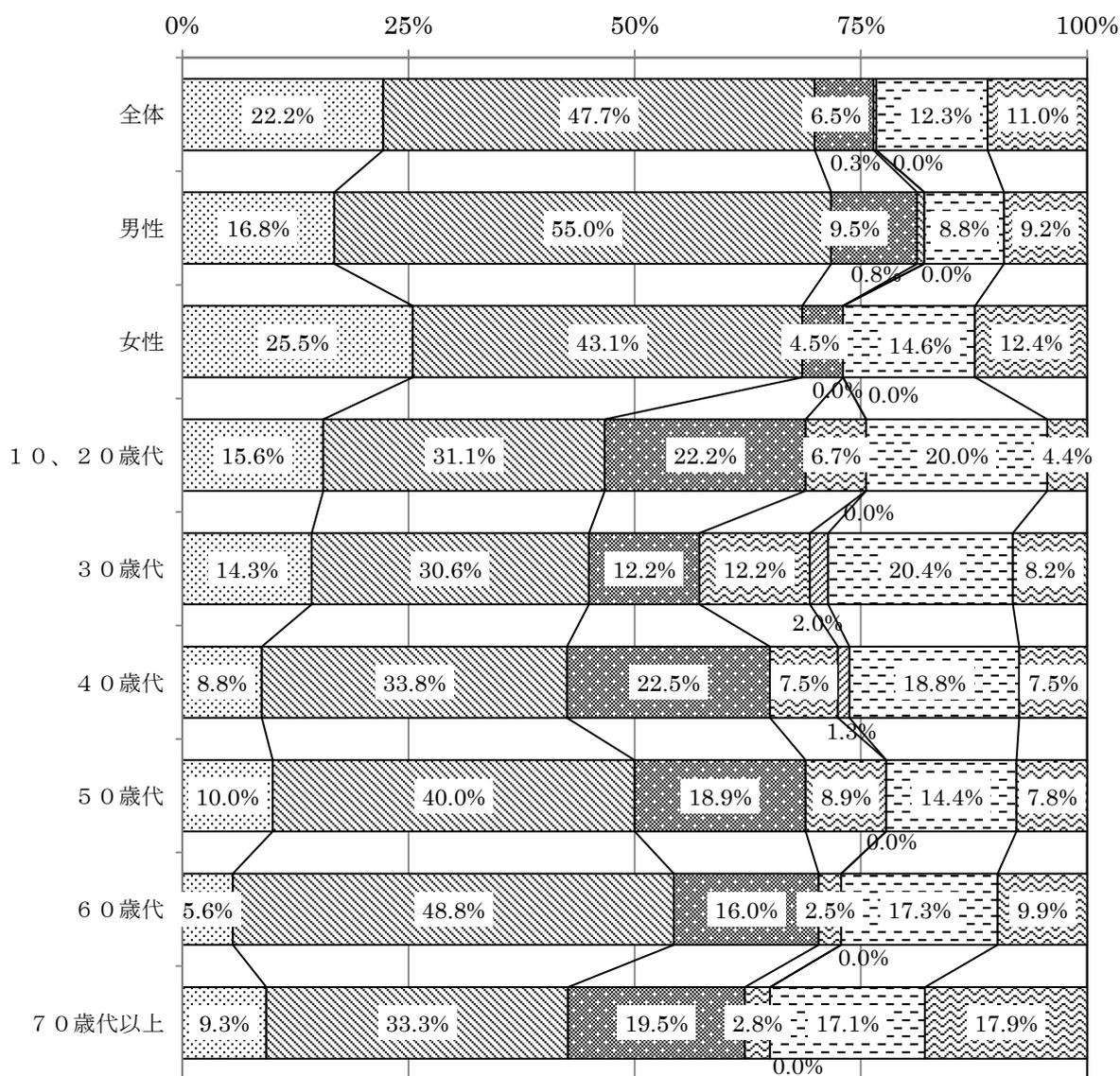
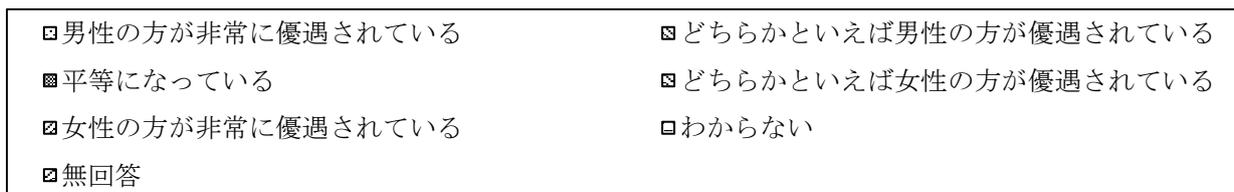


### (3) 昇進・昇格

昇進・昇格については、「男性の方が優遇されている」は69.9%、「平等になっている」は6.5%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の71.8%に対し、女性は68.6%と3.2ポイント低く、「平等になっている」は男性の9.5%に対し、女性は4.5%と5.0ポイント低くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

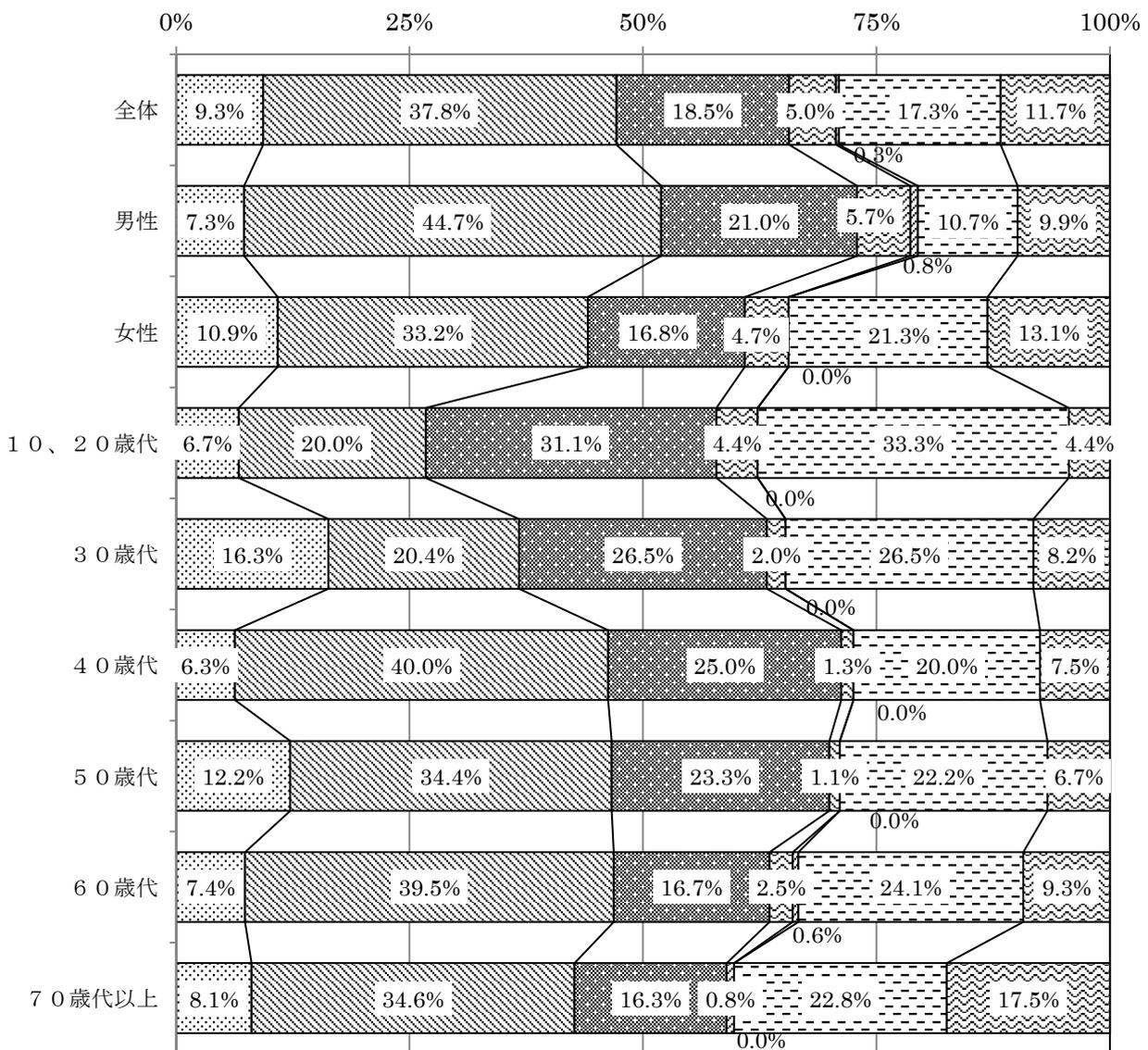
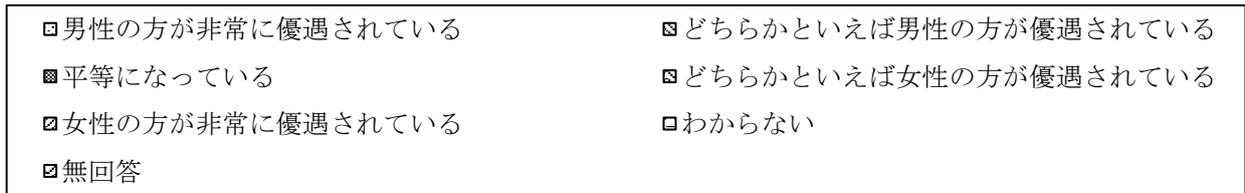


(4) 仕事の内容

仕事の内容については、「平等になっている」は18.5%、「男性の方が優遇されている」は47.1%となっています。

性別でみると、「平等になっている」は男性の21.0%に対し、女性は16.8%と4.2ポイント低く、「男性の方が優遇されている」は男性の52.0%に対し、女性は44.1%と7.9ポイント低くなっています。

年齢別でみると、40歳代以上の各年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

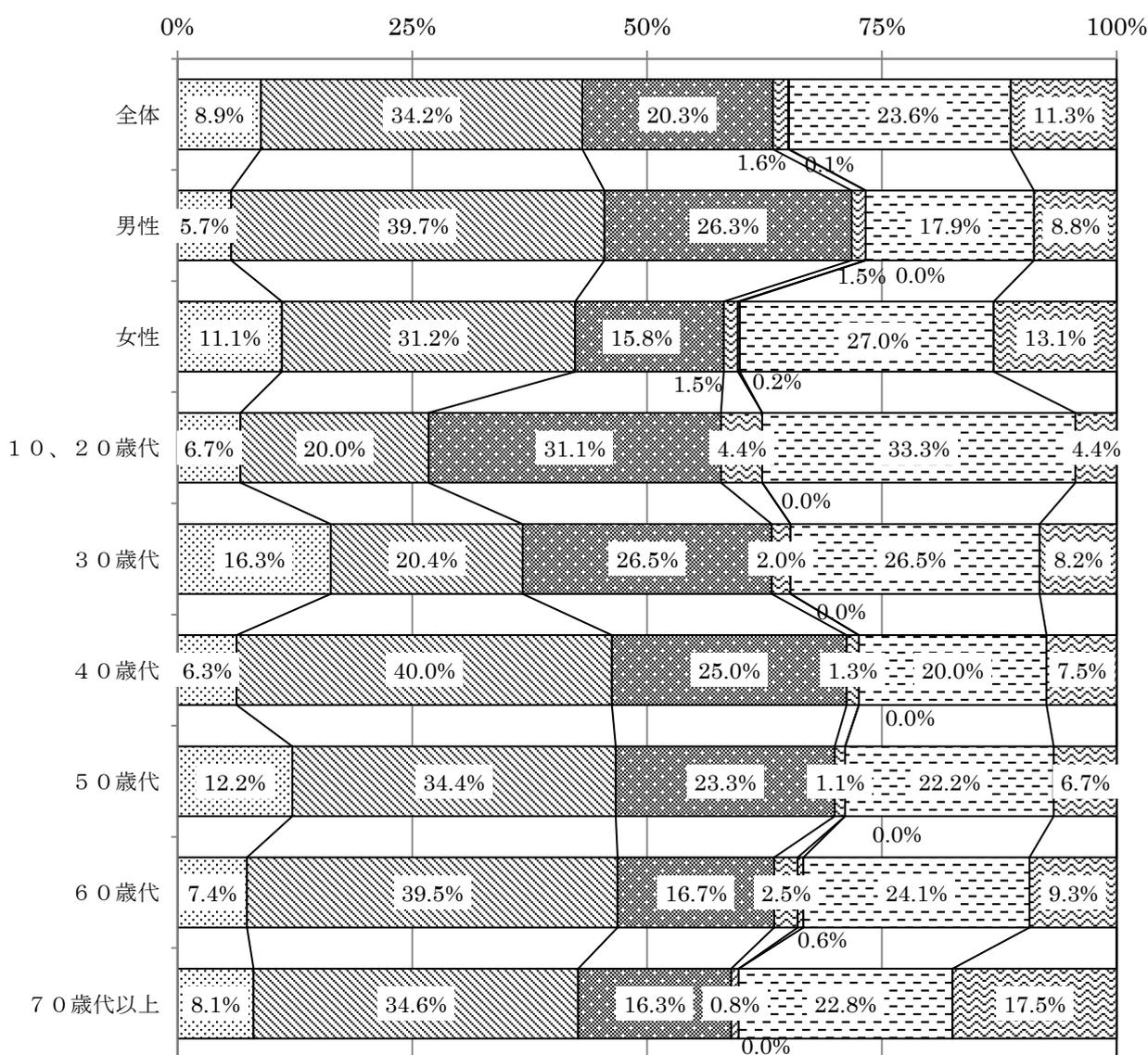
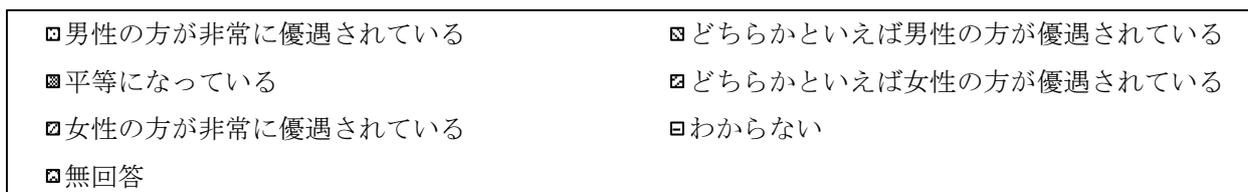


(5) 退職・解雇

退職・解雇については、「平等になっている」は20.3%、「男性の方が優遇されている」は43.1%となっています。

性別でみると、「平等になっている」は男性の26.3%に対し、女性は15.8%と10.5ポイント低く、「男性の方が優遇されている」は男性の45.4%に対し、女性は42.3%と3.1ポイント低くなっています。

年齢別でみると、40歳代以上の各年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

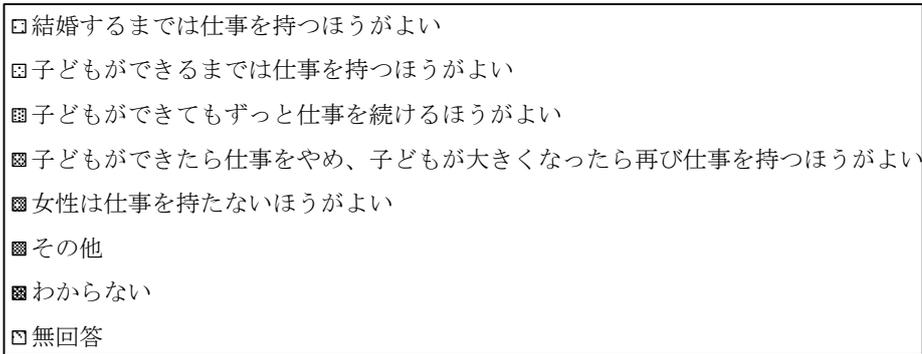


**問 7 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。**

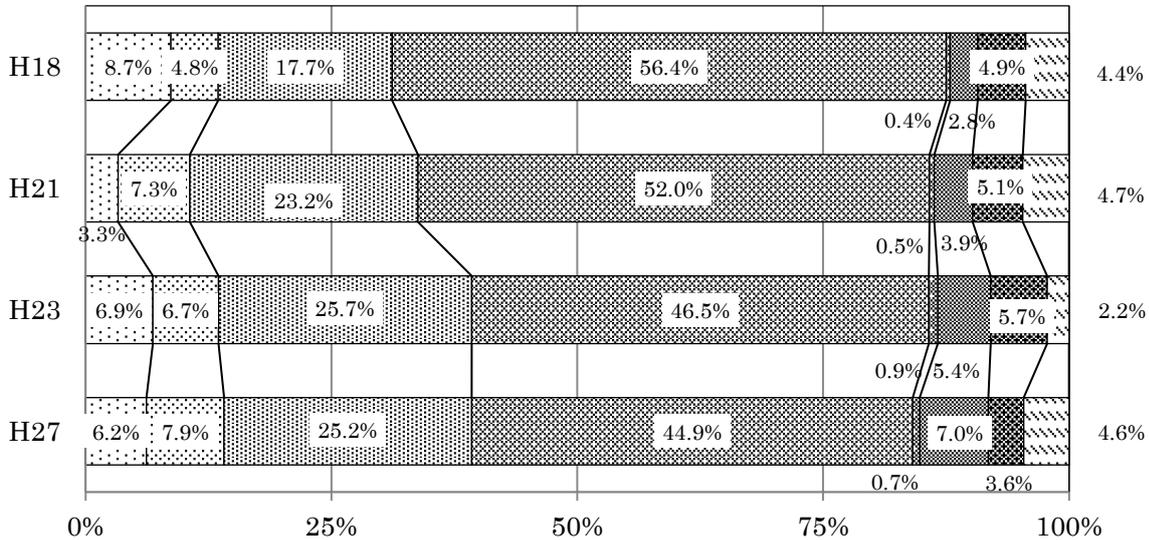
女性が仕事を持つことについては、「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」が44.9%（前回46.5%）と最も高く、以下「子どもができてずっと仕事を続けるほうがよい」（25.2%、前回25.7%）、「子どもができるまでは仕事を持つほうがよい」（7.9%、前回6.7%）の順となっています。

性別でみると、「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」は男性の42.7%に対し、女性は46.5%と3.8ポイント高くなっています。

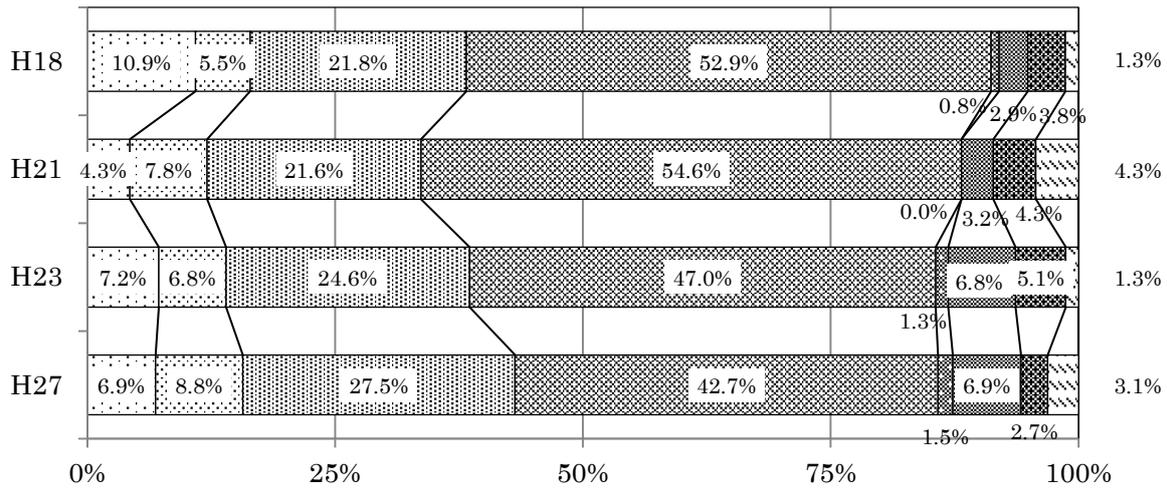
年齢別でみると、各年代ともに「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」が最も高くなっています。



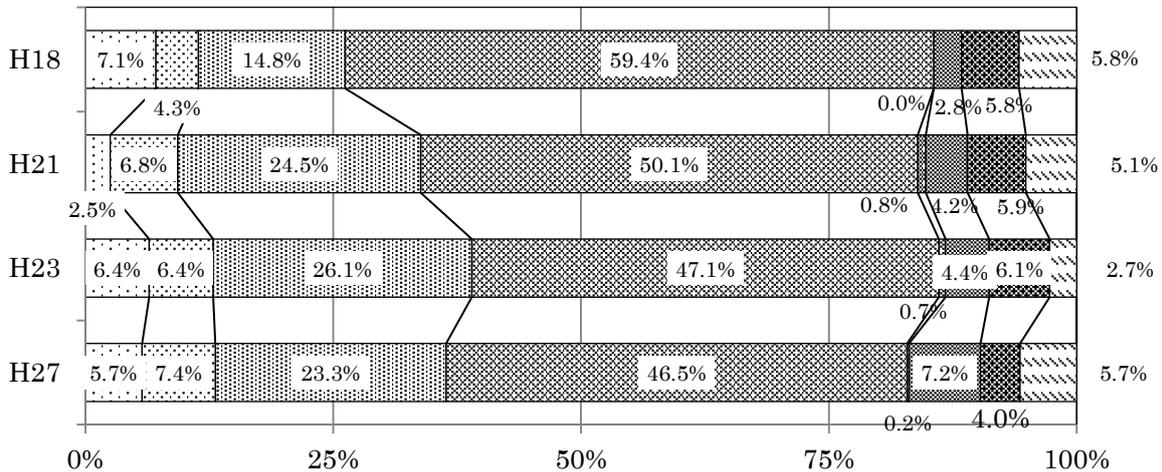
全体



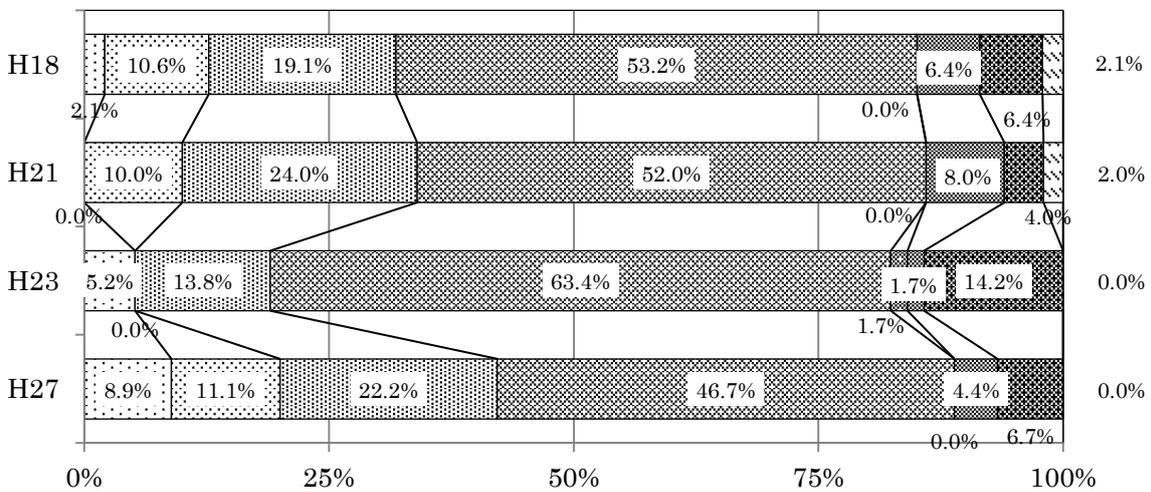
男性



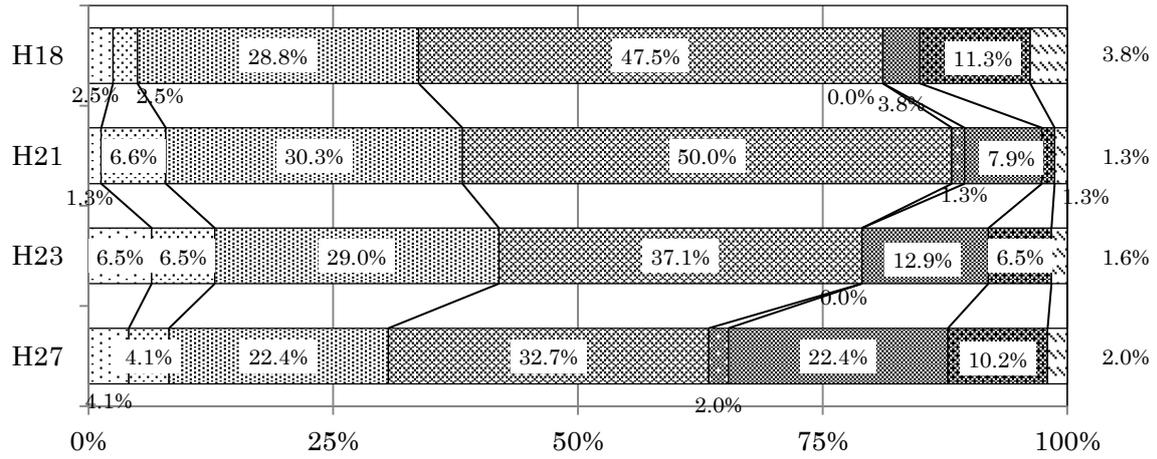
女性



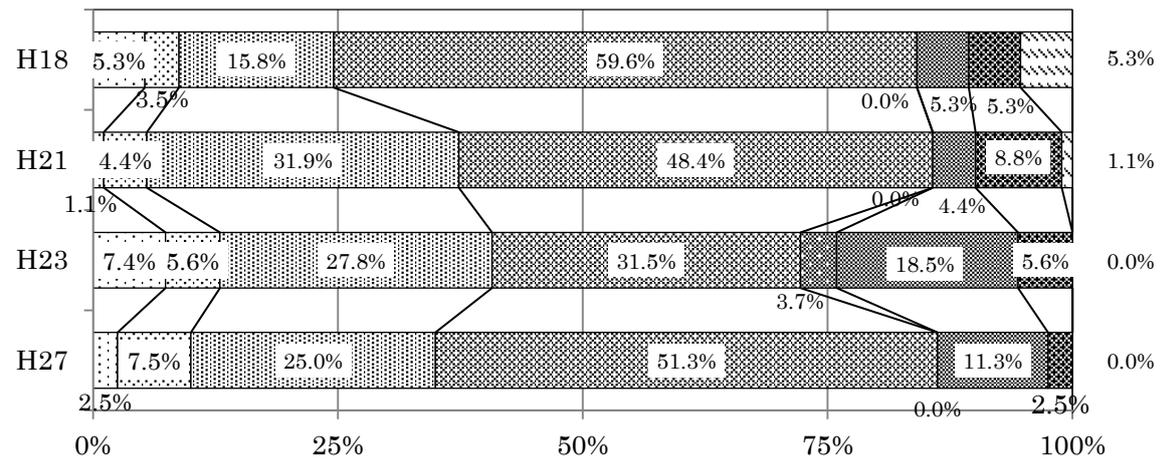
10、20歳代



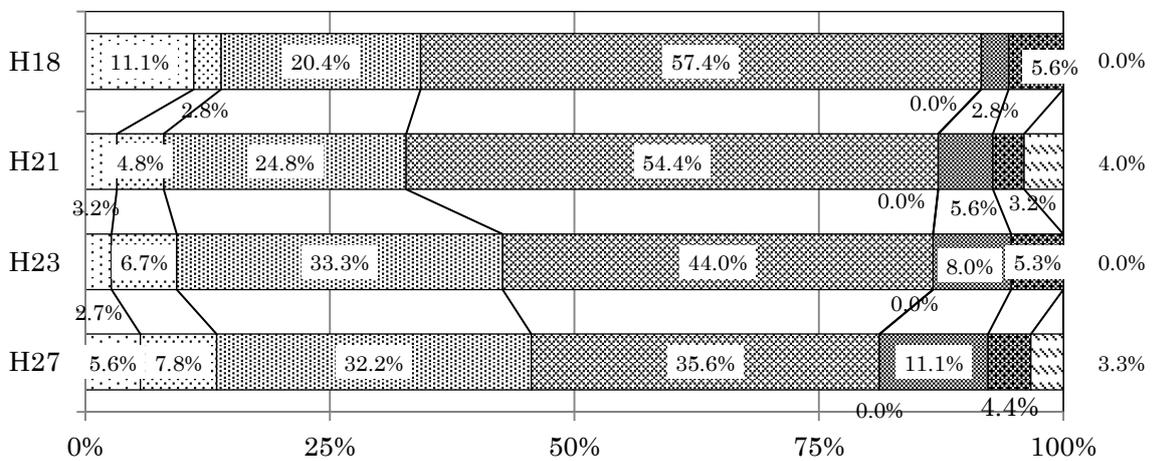
30歳代



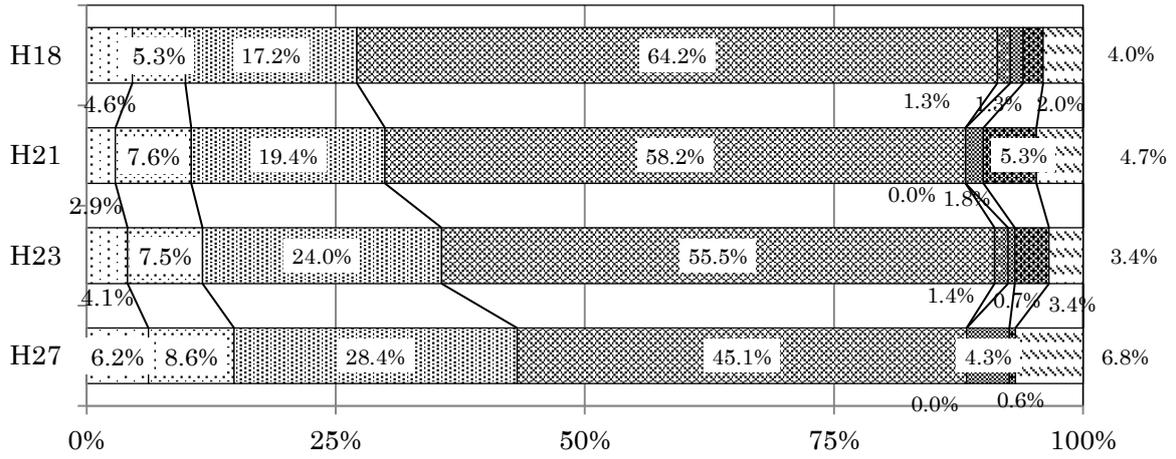
40歳代



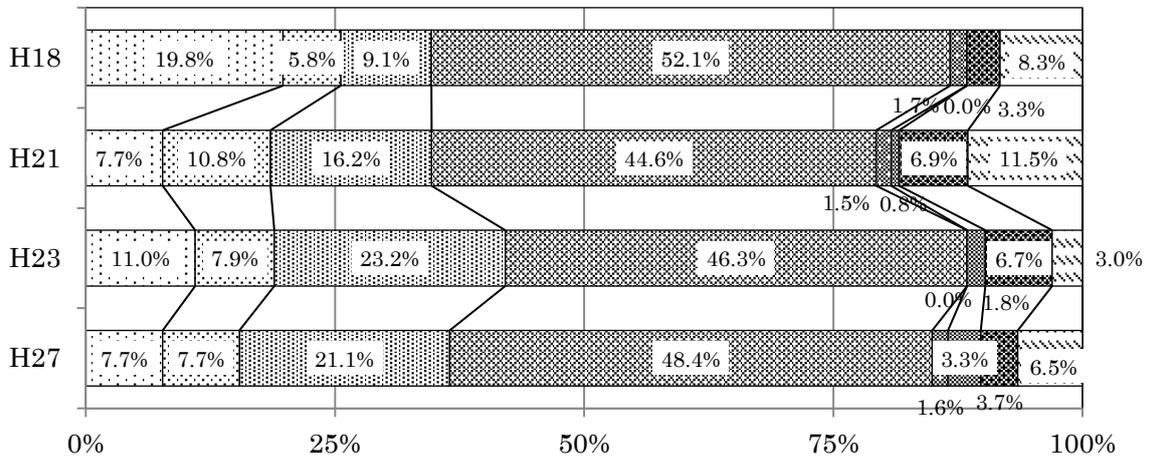
50歳代



60歳代



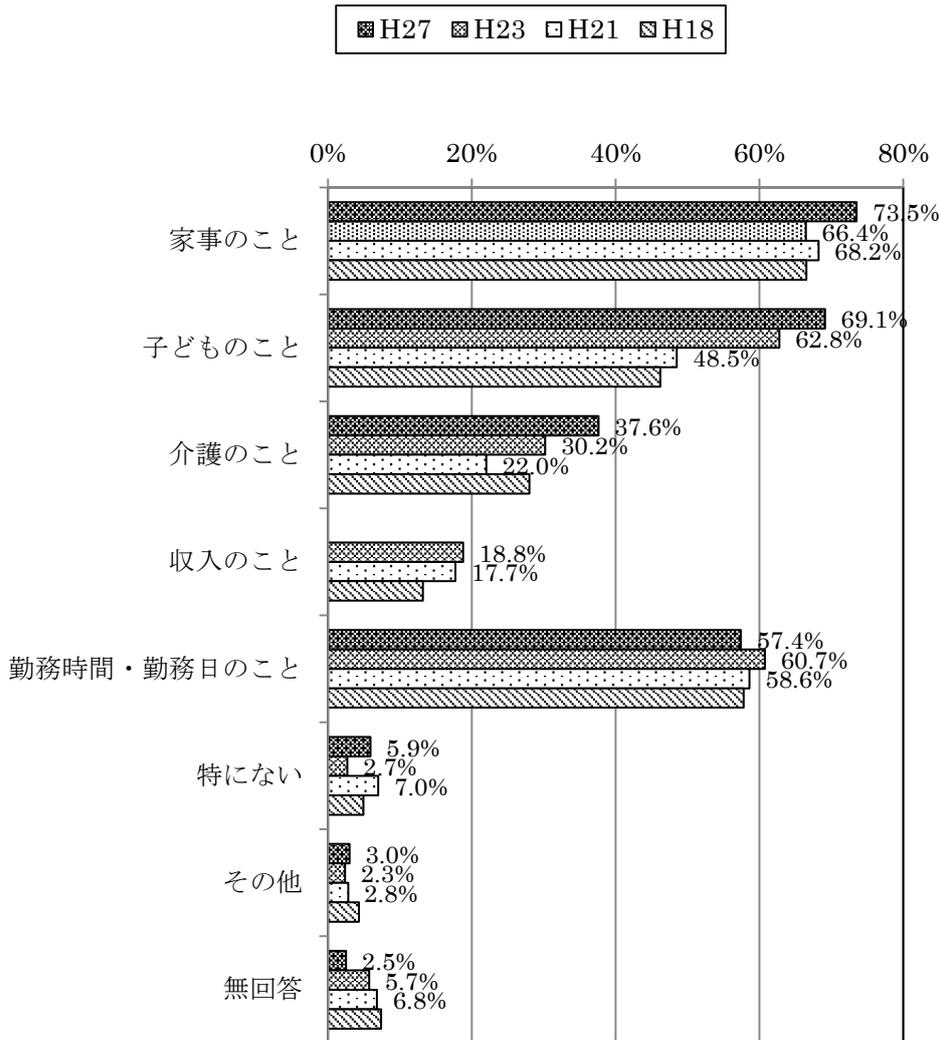
70歳代以上



**問 8 女性の方におたずねします。仕事を持つ上で負担になることは何ですか。  
(3つまで回答可)**

女性の方の、仕事を持つ場合の負担については、「家事のこと」が全体の73.5%（前回66.4%）と最も高く、以下「子どものこと」（69.1%、前回62.8%）、「勤務時間・勤務日のこと」（57.4%、前回60.7%）、「介護のこと」（37.6%、前回30.2%）の順となっています。

年齢別でみると、50歳代での「家事のこと」の82.3%、40歳代での「家事のこと」の80.0%と「子どものこと」の78.0%が、他の年代に比べて高くなっています。

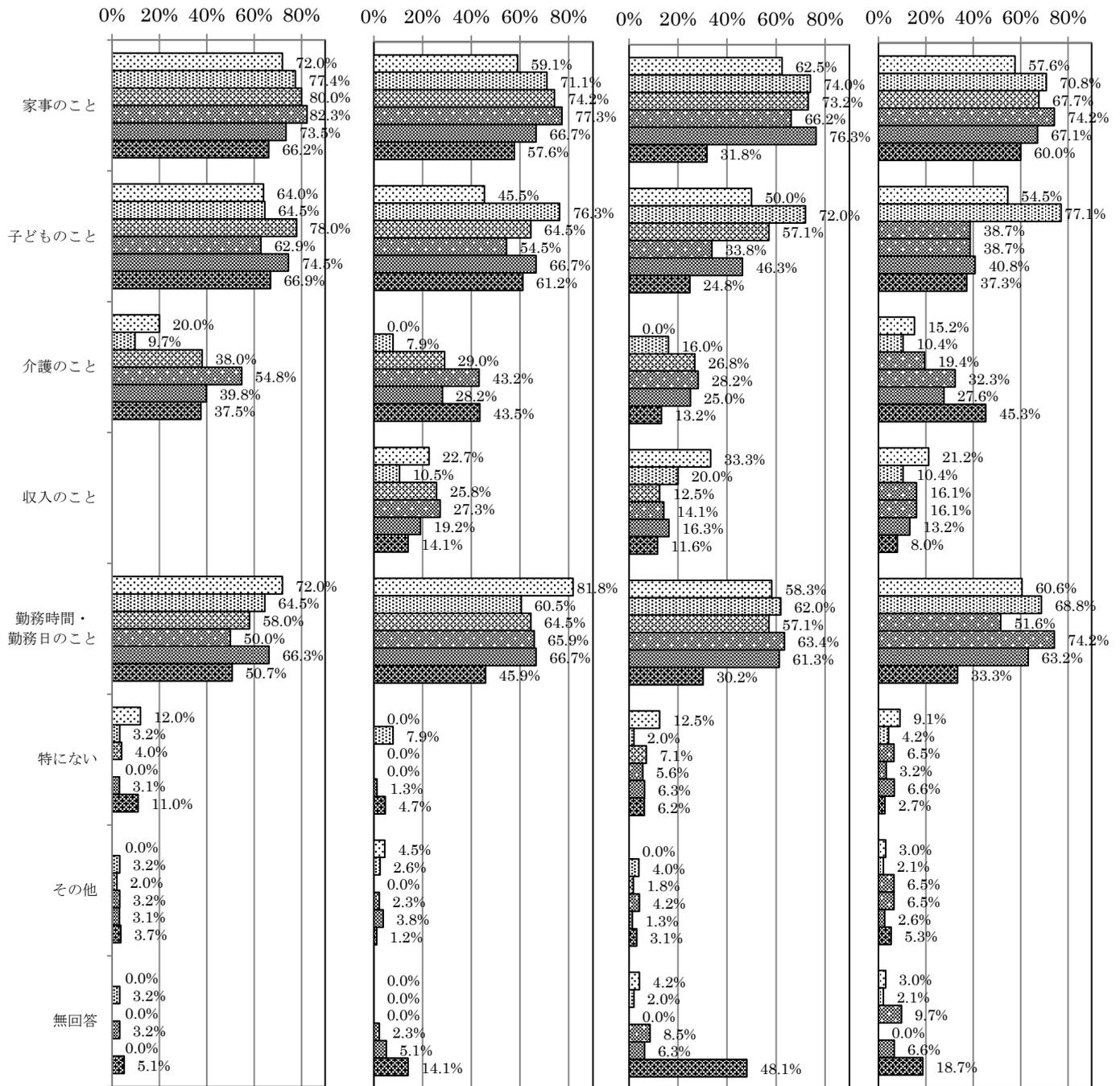


(今回調査)

(H23年調査)

(H21年調査)

(H18年調査)



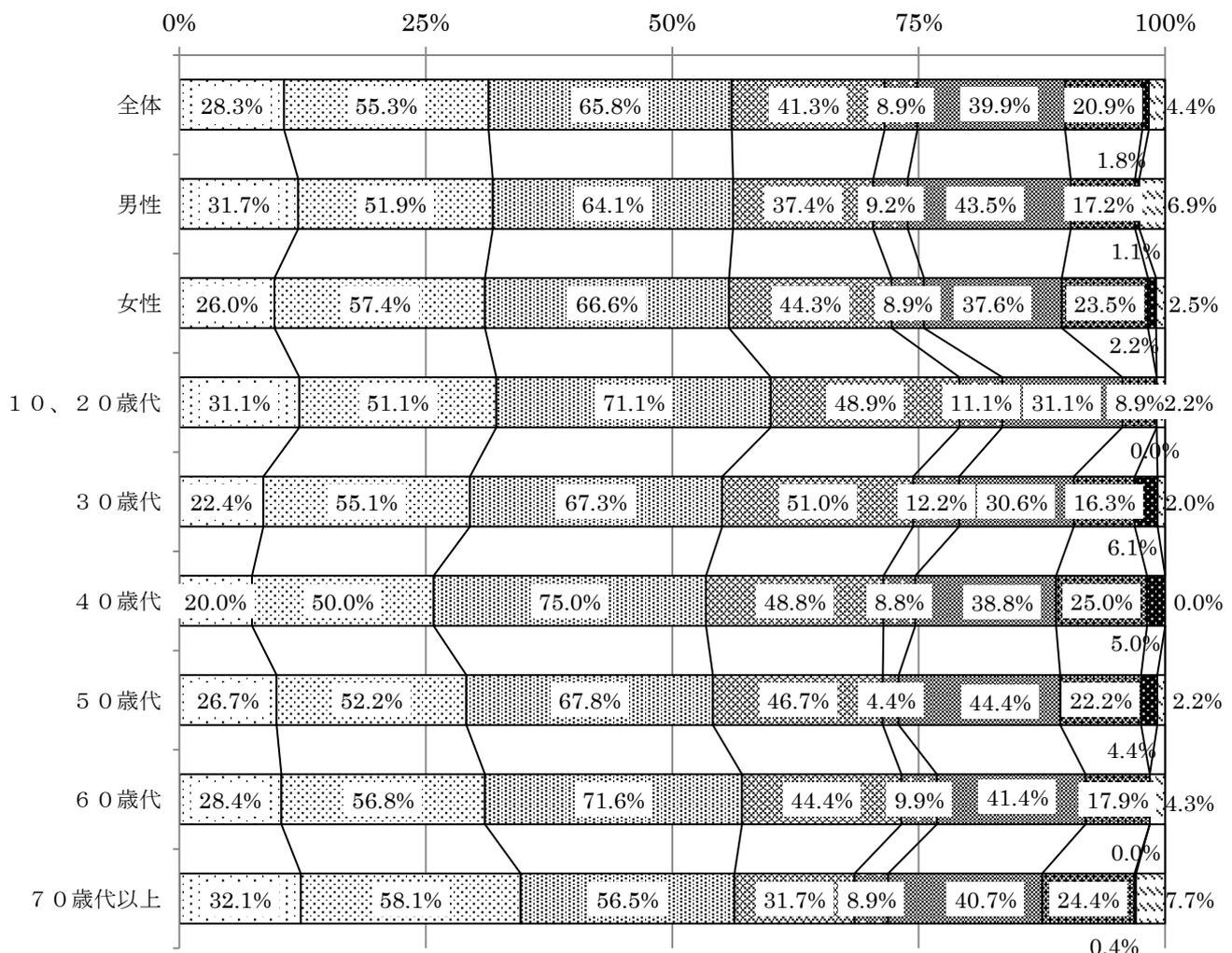
**問 9 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために何が重要だと思いますか  
(3つまで回答可)**

女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要なことについては、「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」が65.8%と最も高く、以下「職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」(55.3%)、「勤務時間が柔軟であること、長時間労働の必要がないこと」(41.3%)の順となっています。

性別でみると、「勤務時間が柔軟であること、長時間労働の必要がないこと」は男性の37.4%に対し、女性は44.3%と6.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、70歳代以上を除く各年代で「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」が最も高くなっています。

- 経営者が女性の活躍の促進に積極的であること
- 職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること
- 育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること
- 勤務時間が柔軟であること、長時間労働の必要がないこと
- 身近に相談できて目標になる女性がいること
- 性別に関係なく仕事が適正に評価されること
- 仕事にやりがいがあること
- その他
- 無回答



※ 3つまでの選択回答のため、合計が100%を超えます

仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）の両立についておたずねします

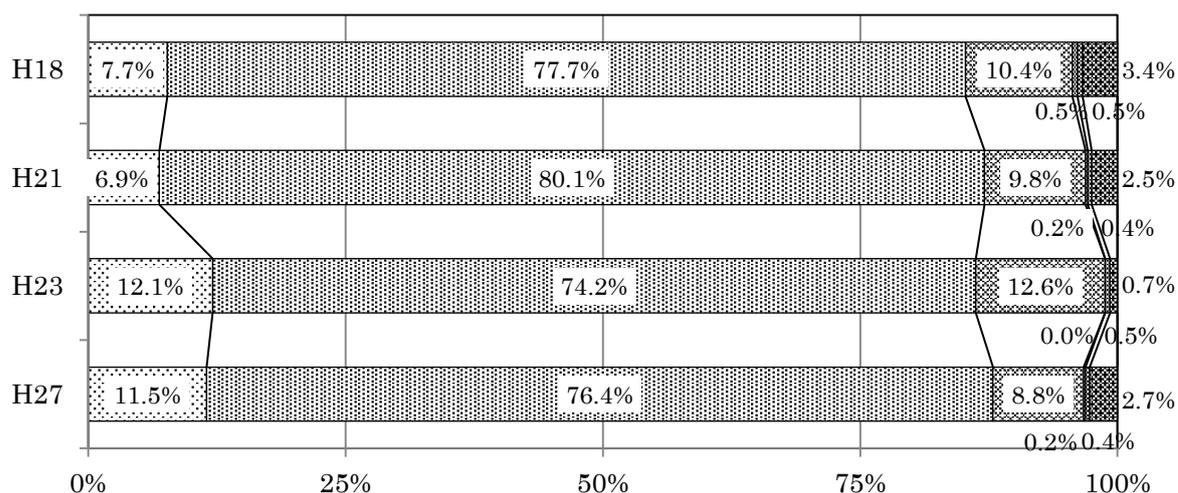
問10 結婚されている方におたずねします。あなたの家庭では、日常生活の役割分担をどのようにされていますか。

既婚者の実際の家事分担については、「妻が中心」が最も多かったのは8項目中6項目で、「日常の家計管理」（76.4%、前回74.2%）、「食事づくり」（88.5%、前回90.8%）、「食事のあとかたづけ」（73.9%、前回80.2%）、「洗濯」（82.3%、前回78.7%）、「掃除」（68.8%、前回68.4%）、「子どものしつけや家庭教育」（41.9%、前回36.5%）となっています。

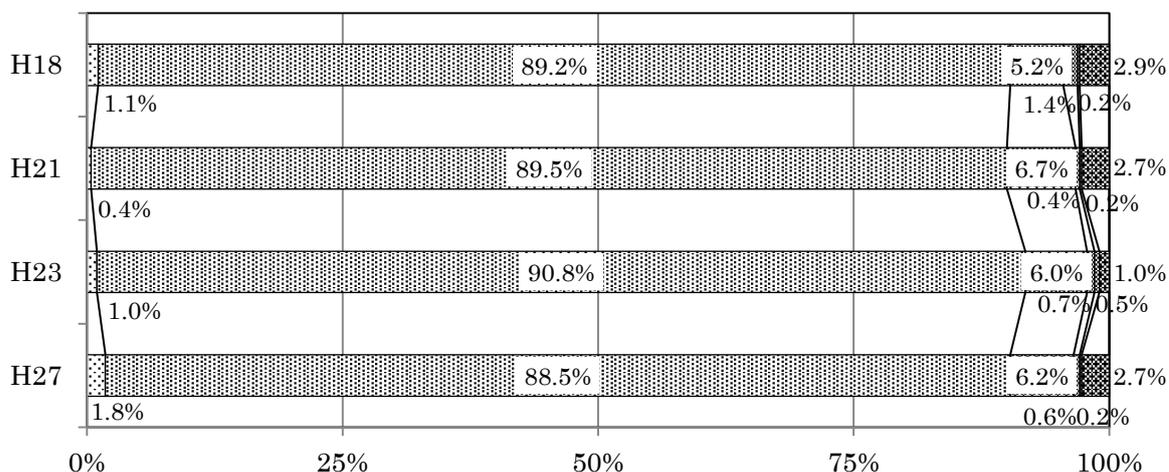
また「夫が中心」が最も多かったのは8項目中1項目で「地域行事等への参加」（32.6%、前回30.0%）となっています。

夫が中心 妻が中心 家族で分担 その他の人 わからない・該当しない 無回答

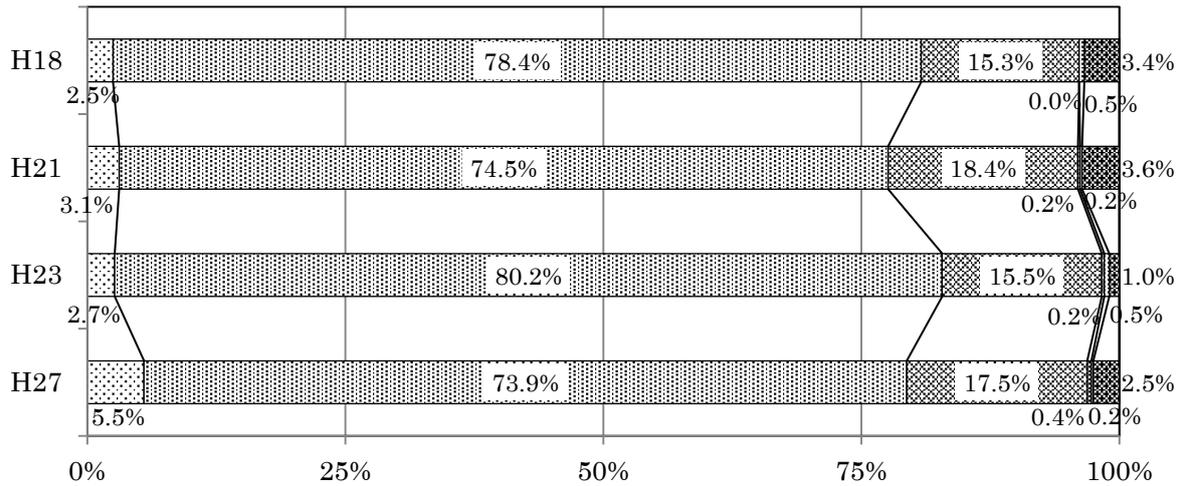
(1) 日常の家計管理



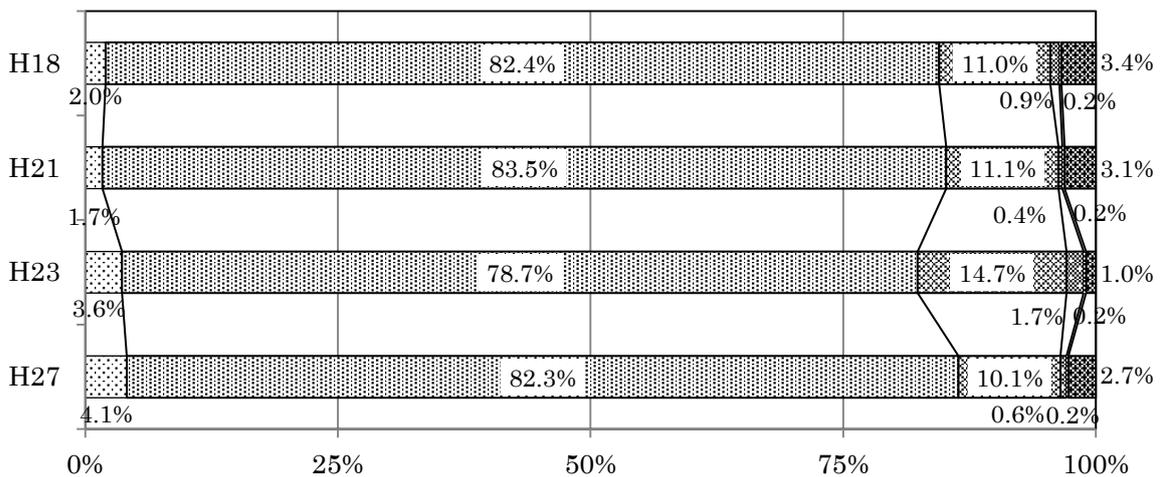
(2) 食事づくり



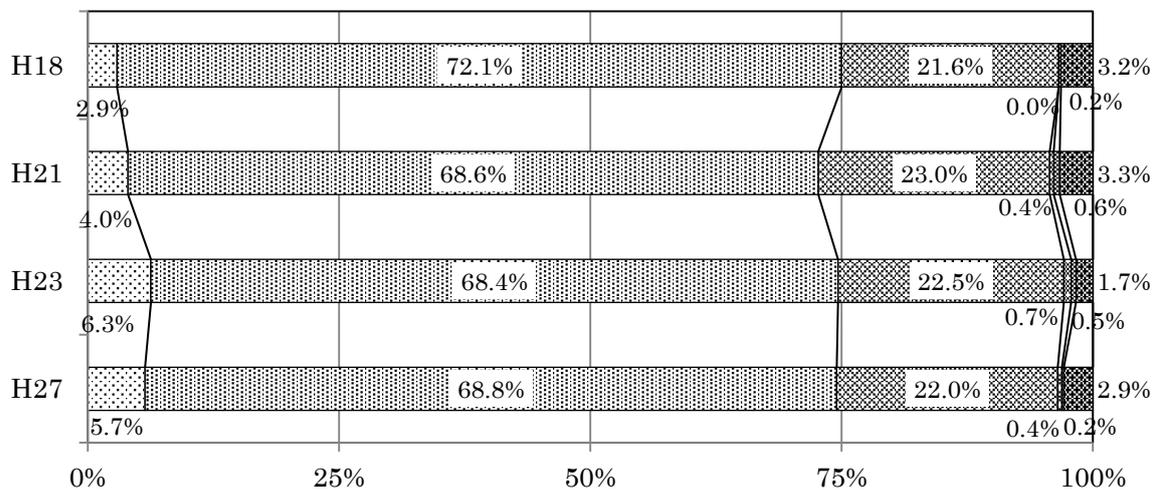
(3) 食事のあとかたづけ



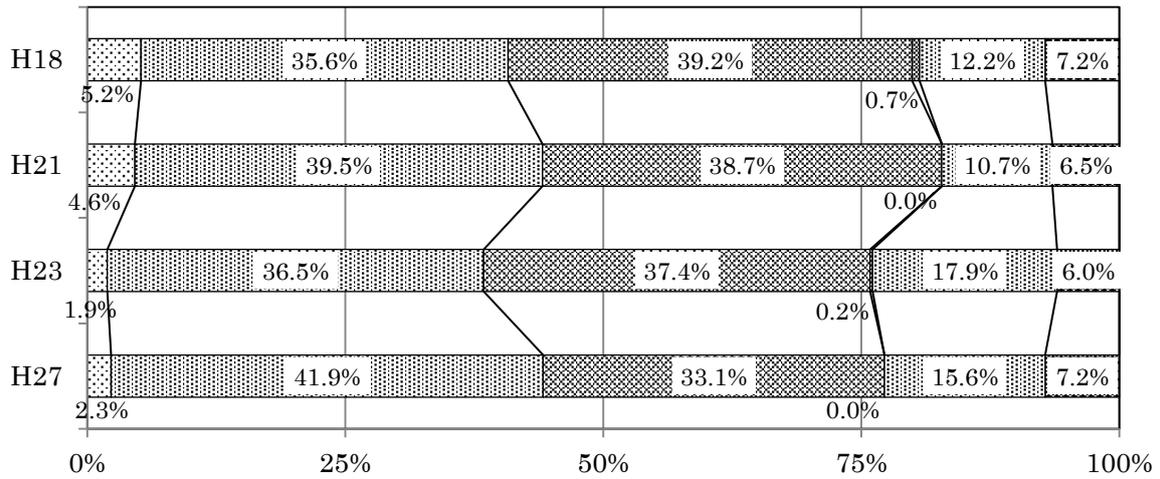
(4) 洗濯



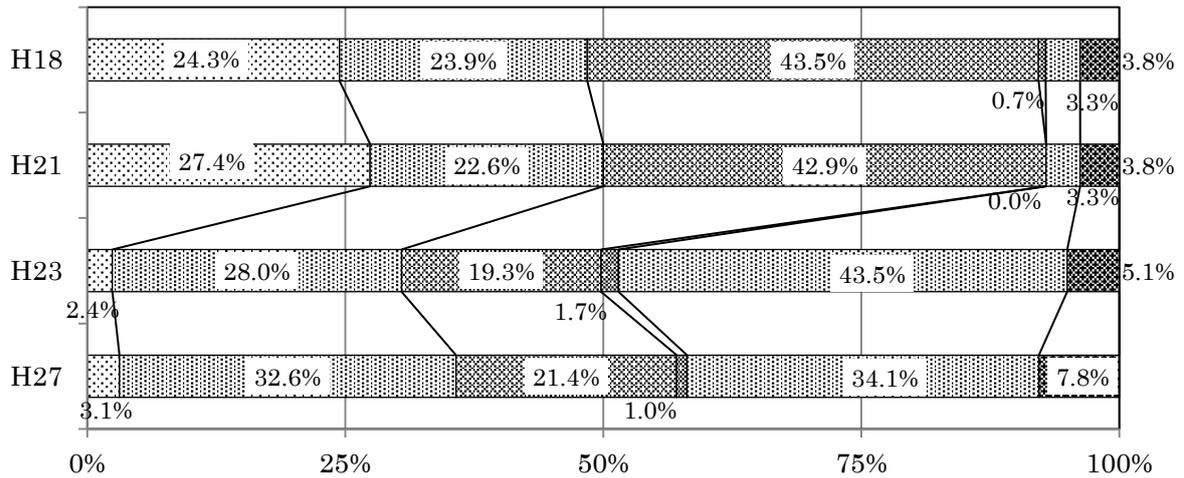
(5) 掃除



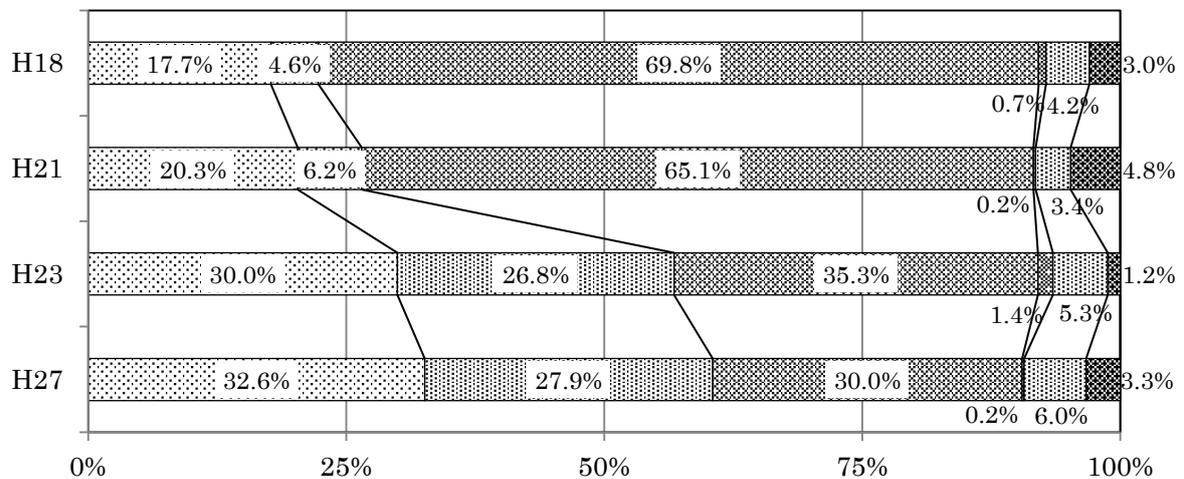
(6) 子どものしつけや家庭教育



(7) 家族の介護



(8) 地域行事等への参加



**問11 すべての方におたずねします。あなたは、仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）について、どのようにお考えですか。**

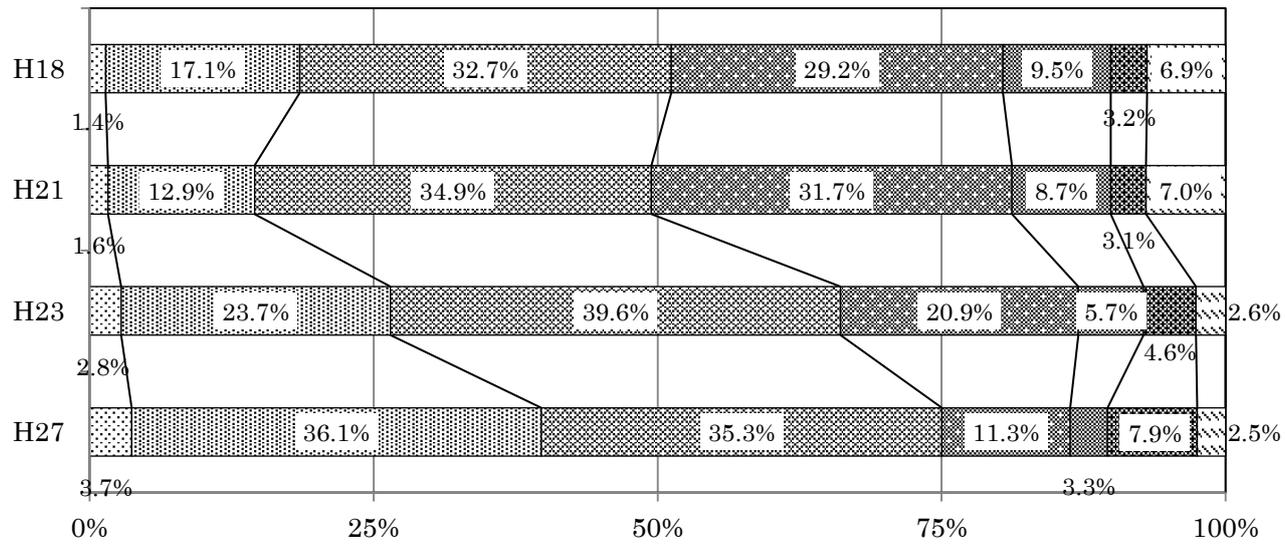
仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先させるかについては、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が全体の36.1%（前回23.7%）と最も高く、次に「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」（35.3%、前回39.6%）が続き、以下「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」（11.3%、前回20.9%）の順となっています。

性別でみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は男性48.1%（前回35.2%）に対し、女性28.5%（前回14.9%）と男性の方が19.6ポイント高くなっています。逆に、「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」は男性31.7%（前回39.0%）に対し、女性37.6%（前回40.3%）と女性の方が5.9ポイント高くなっています。

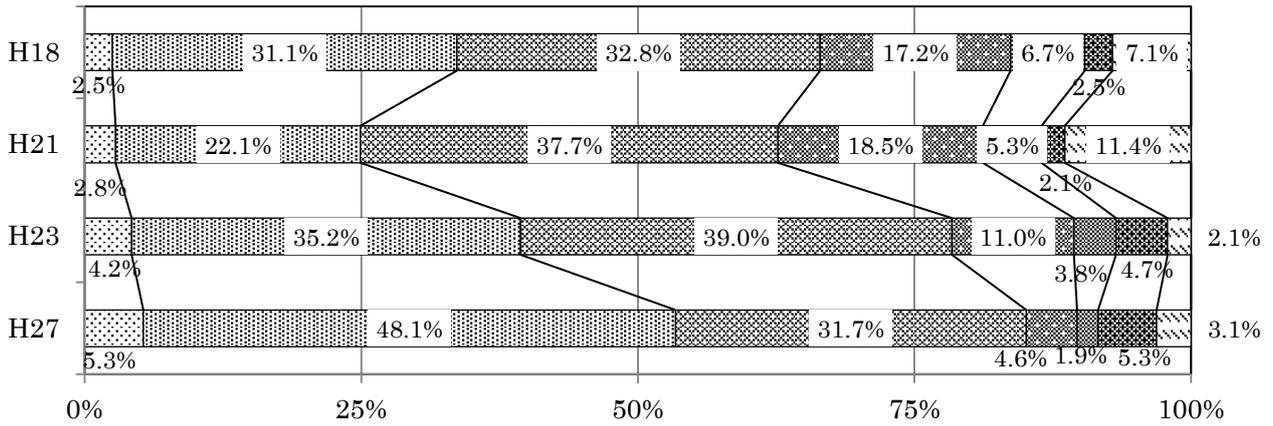
年齢別でみると、10、20歳代、30歳代、40歳代では「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳代以上では「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が最も高くなっています。

- ▣ 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- ▤ 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- ▥ 家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる
- ▦ 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- ▧ 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- ▨ わからない
- ▩ 無回答

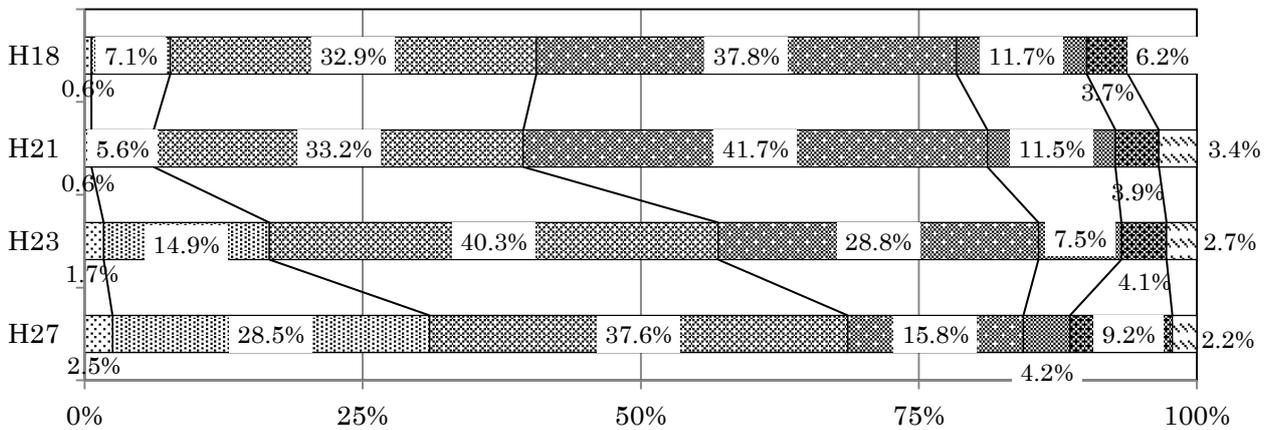
全体



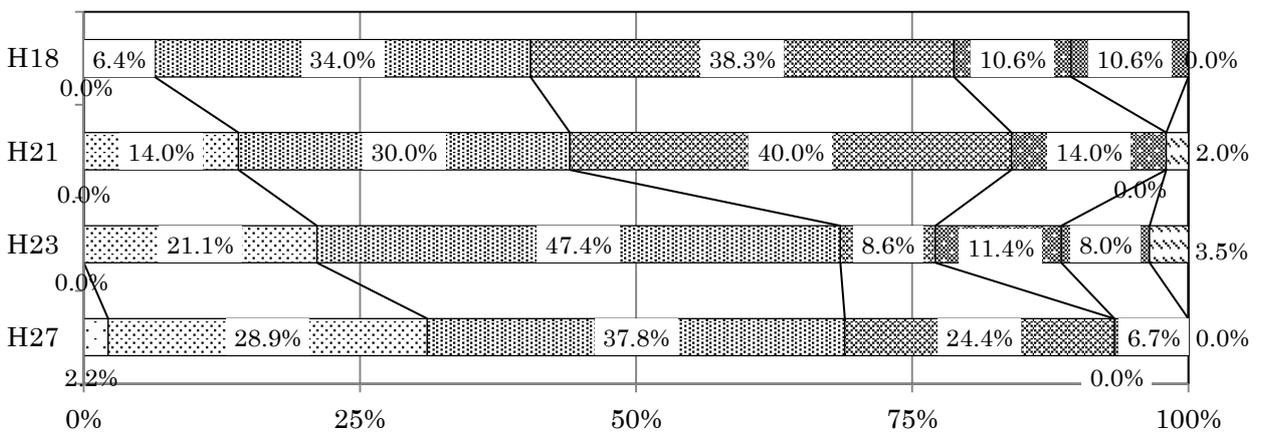
男性



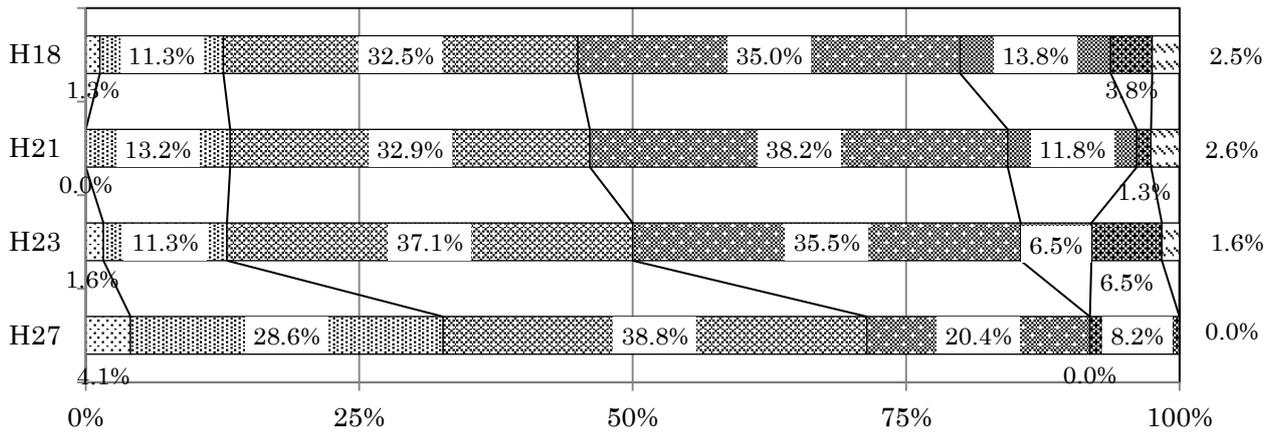
女性



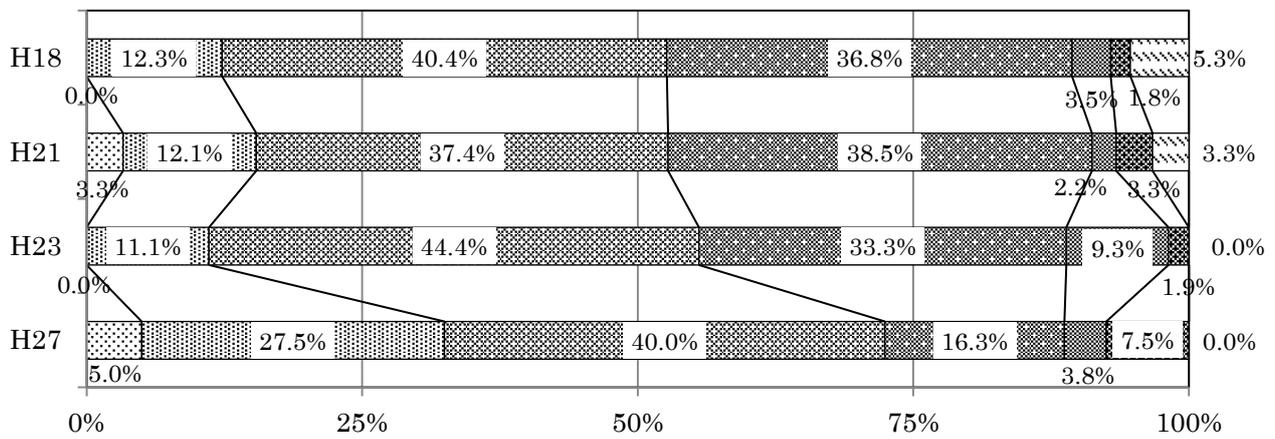
10、20歳代



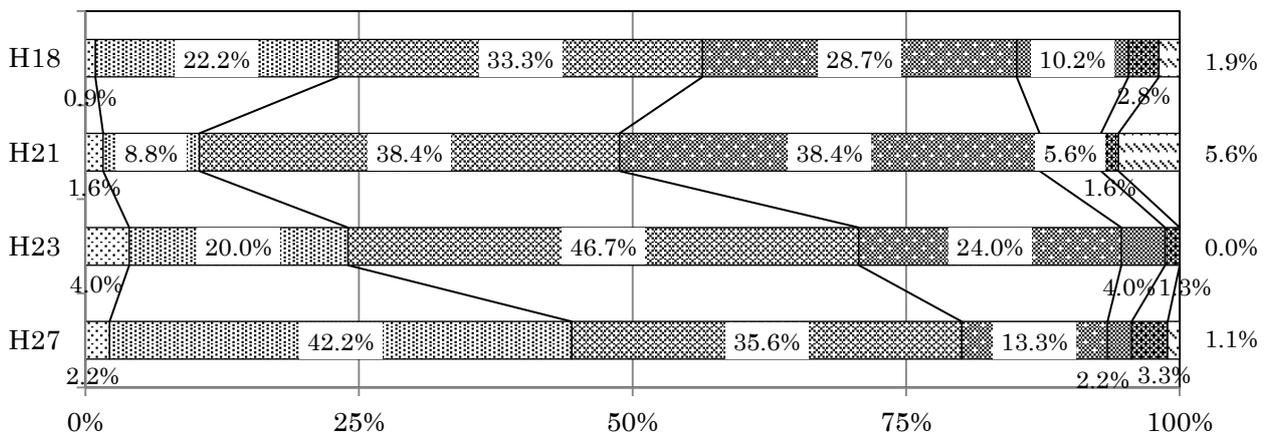
30歳代



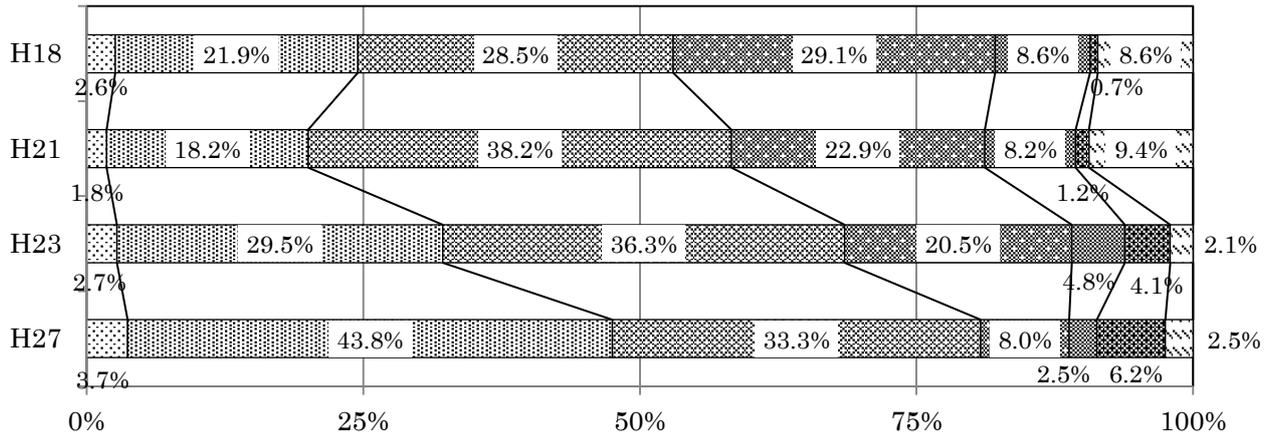
40歳代



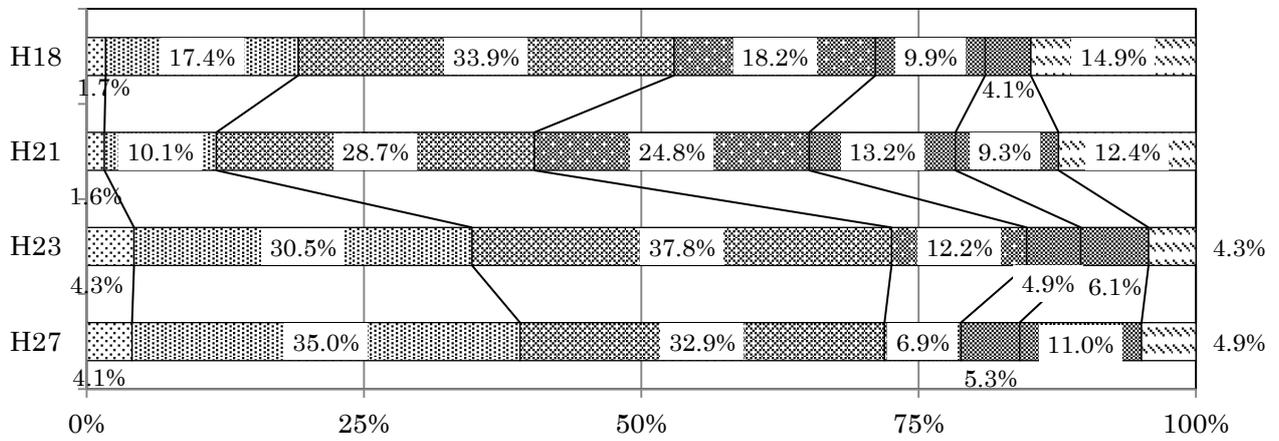
50歳代



60歳代



70歳代以上



問12 現在仕事をしている方におたずねします。

あなたは今、仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先していますか。

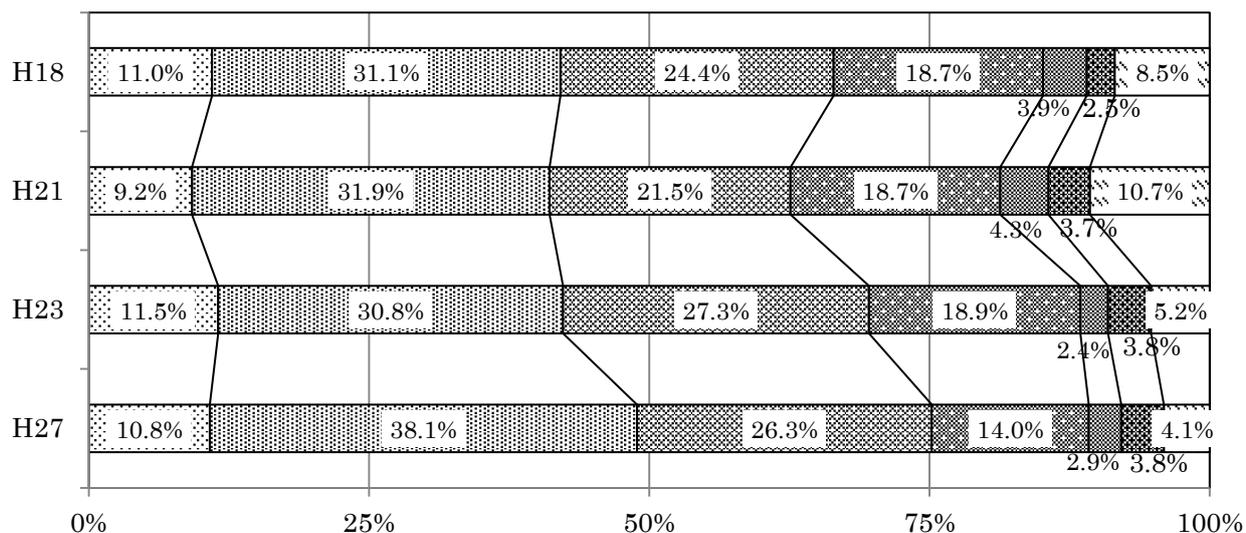
仕事をしている方が実際には仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先しているかについては、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」が38.1%（前回30.8%）と最も高く、以下「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させている」（26.3%、前回27.3%）、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている」（14.0%、前回18.9%）の順となっています。

性別でみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」は男性の54.7%（前回40.3%）に対し、女性は24.7%（前回21.5%）と、男性の方が30.0ポイント高くなっています。逆に、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている」は男性の4.4%（前回11.5%）に対し、女性は21.8%（前回26.4%）と、女性の方が17.4ポイント高くなっています。

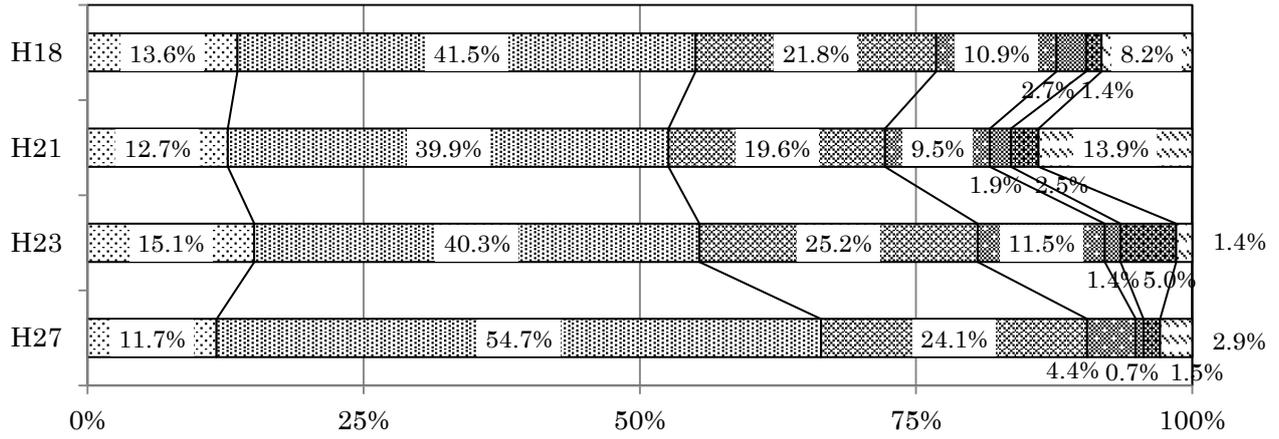
年齢別でみると、50歳代で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」が最も多くなっています。

- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念している
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている
- 家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させている
- 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念している
- わからない
- 無回答

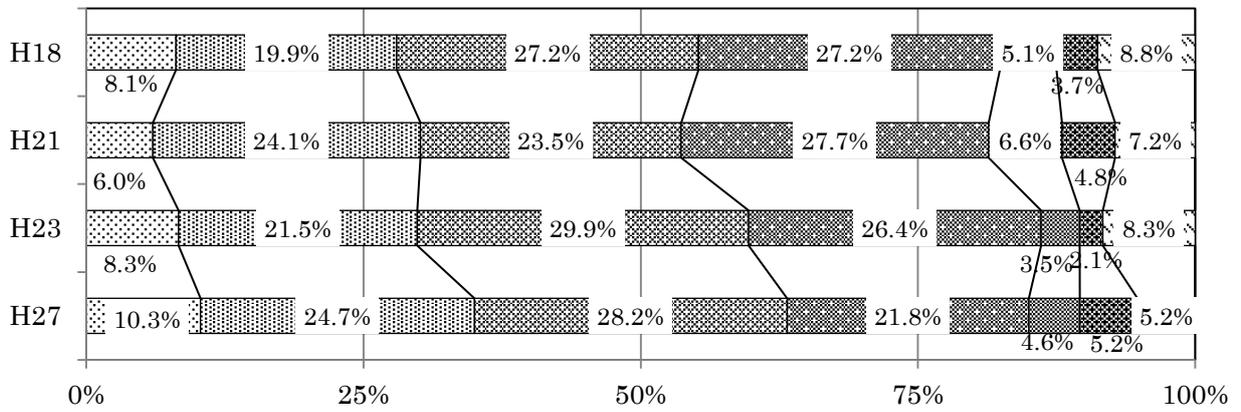
全体



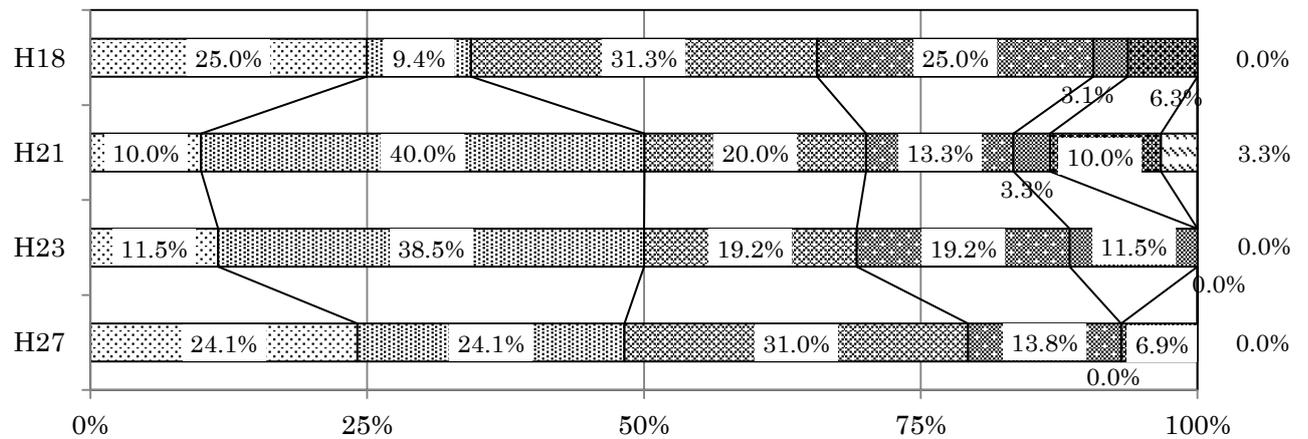
男性



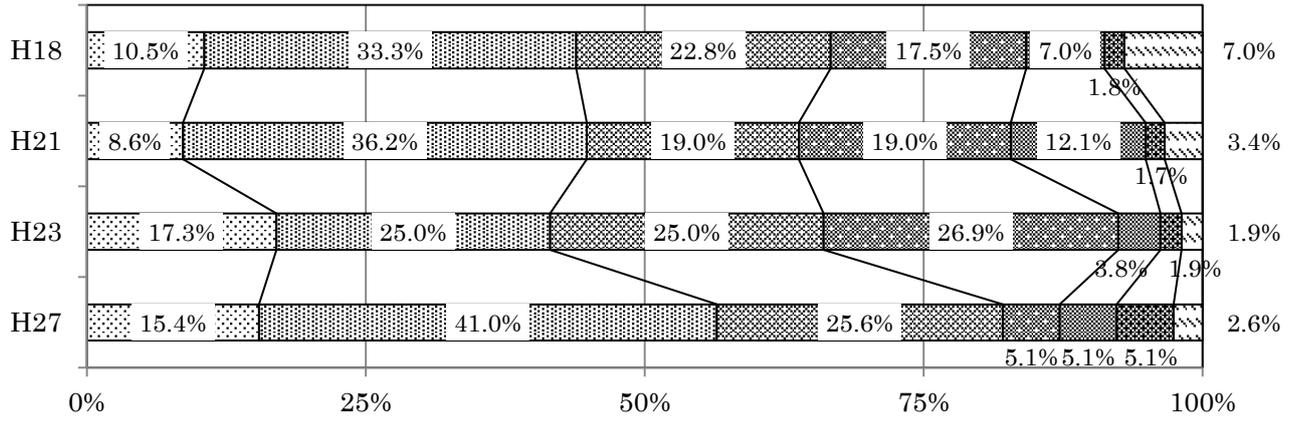
女性



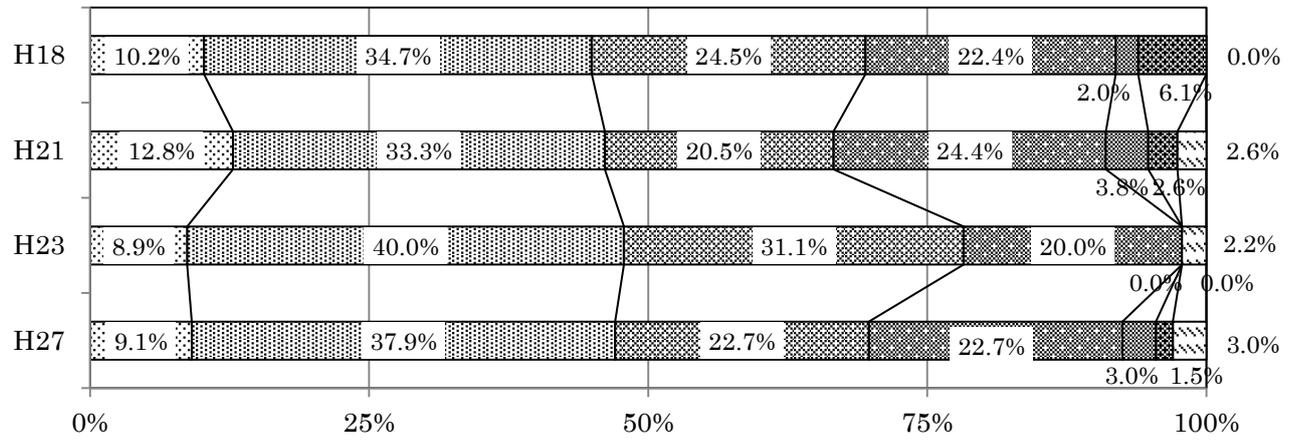
10、20歳代



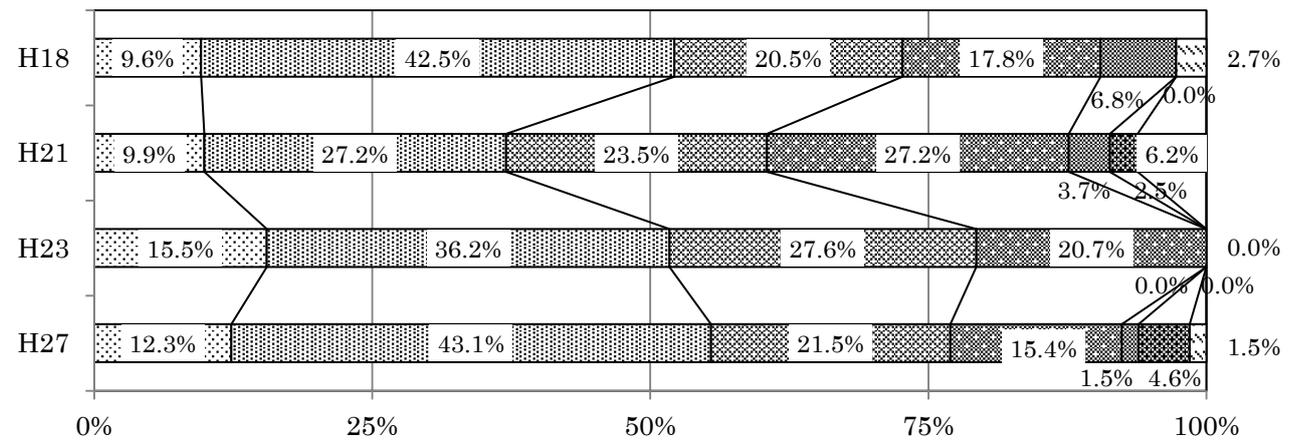
30歳代



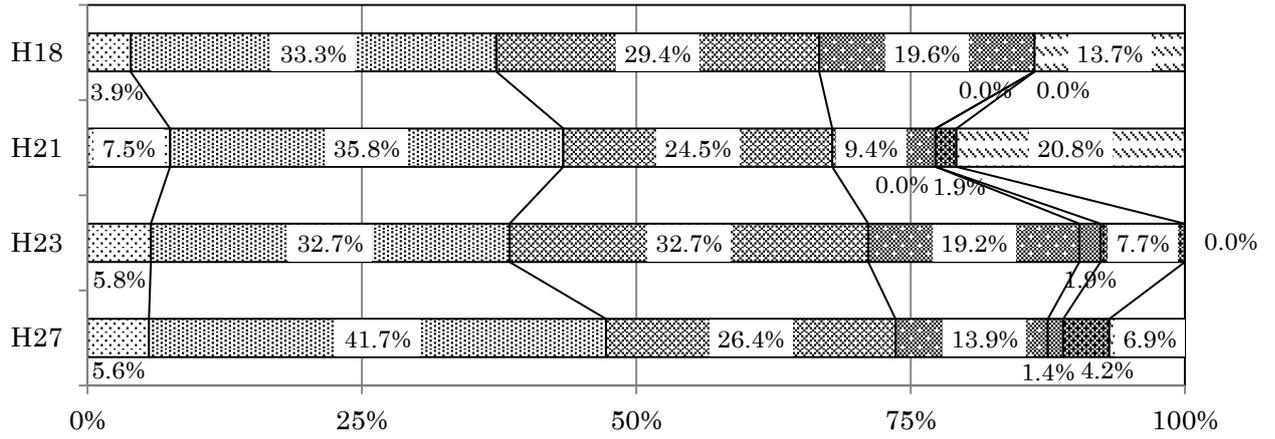
40歳代



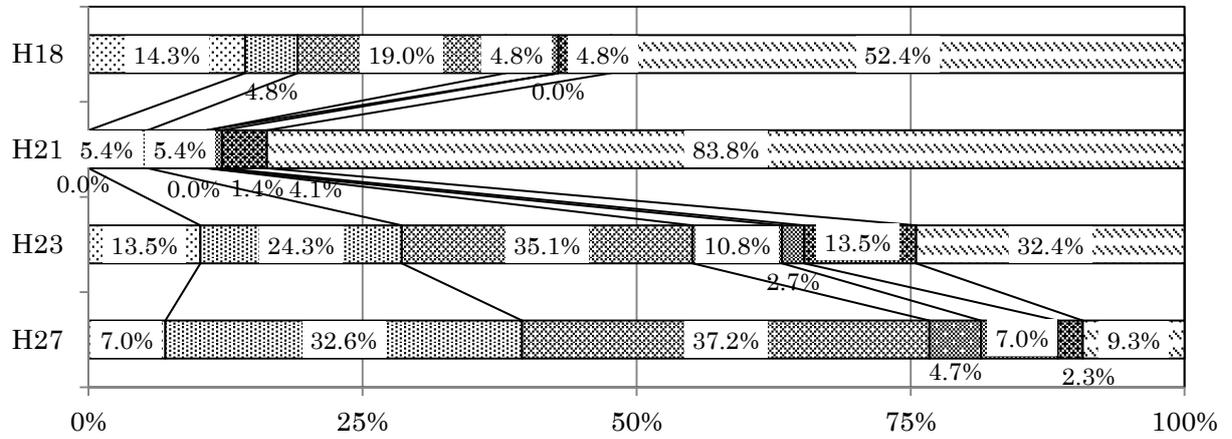
50歳代



60歳代



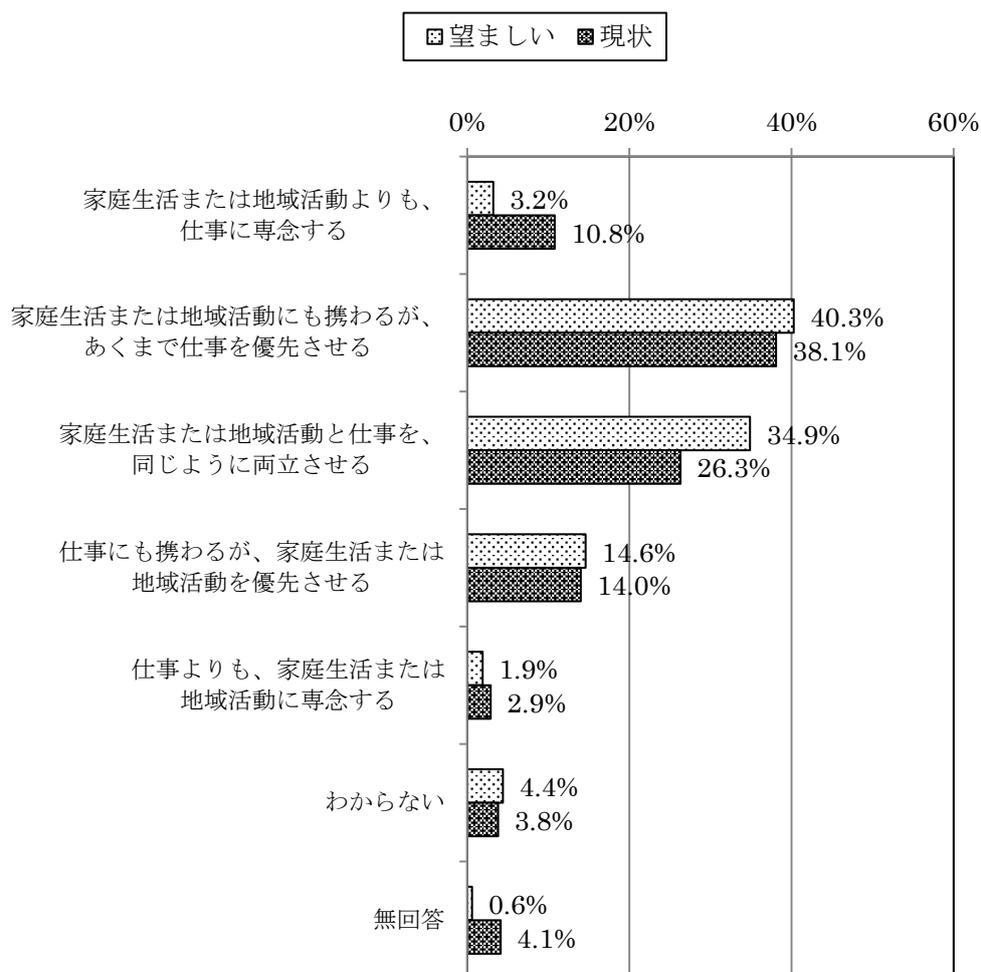
70歳代以上



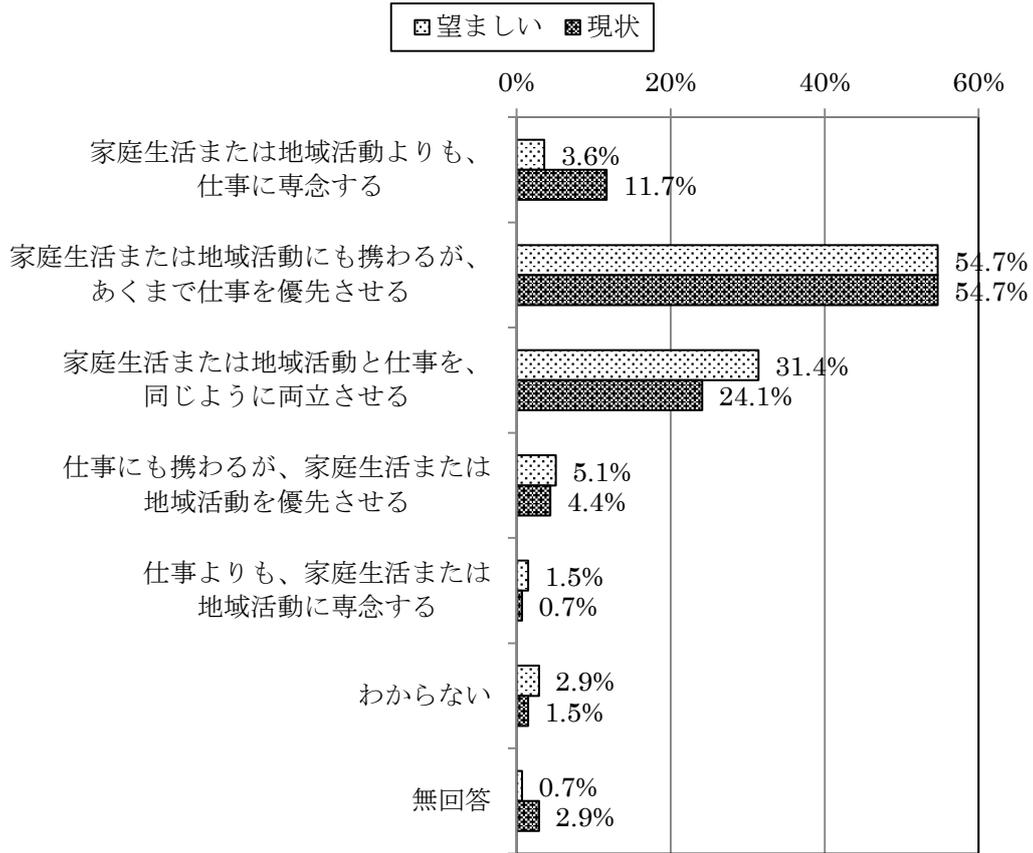
(勤労者の理想（問11のうち、就労者のみの結果）と現実（問12の結果）の比較）

仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先させるかについては、「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が理想の34.9%に対し、現実には26.3%で8.6ポイント低くなっています。逆に、「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」が理想の3.2%に対し、現実には10.8%で7.6ポイント高くなっています。

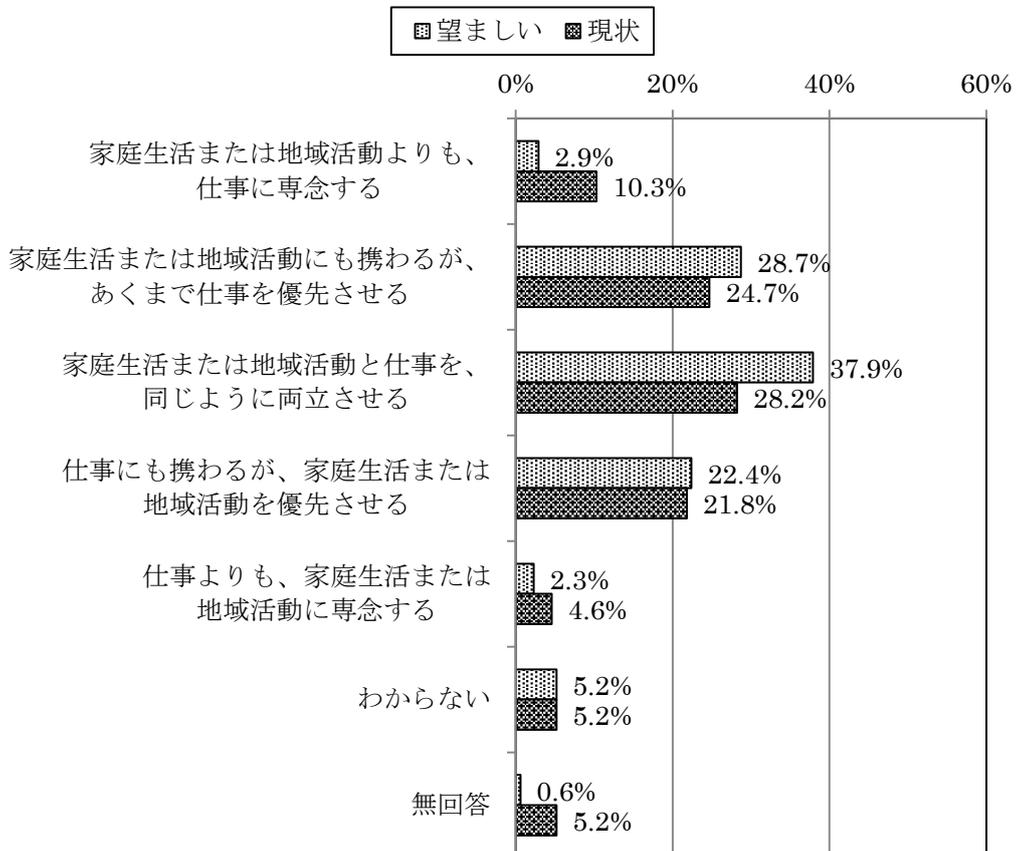
性別でみると、男性では「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が理想、現実ともに54.7%、女性では「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が理想の37.9%に対し、現実には28.2%で9.7ポイント低くなっています。



(男性)



(女性)



問13 男性が女性とともにあらゆる場面（家事、子育て、介護、地域活動など）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

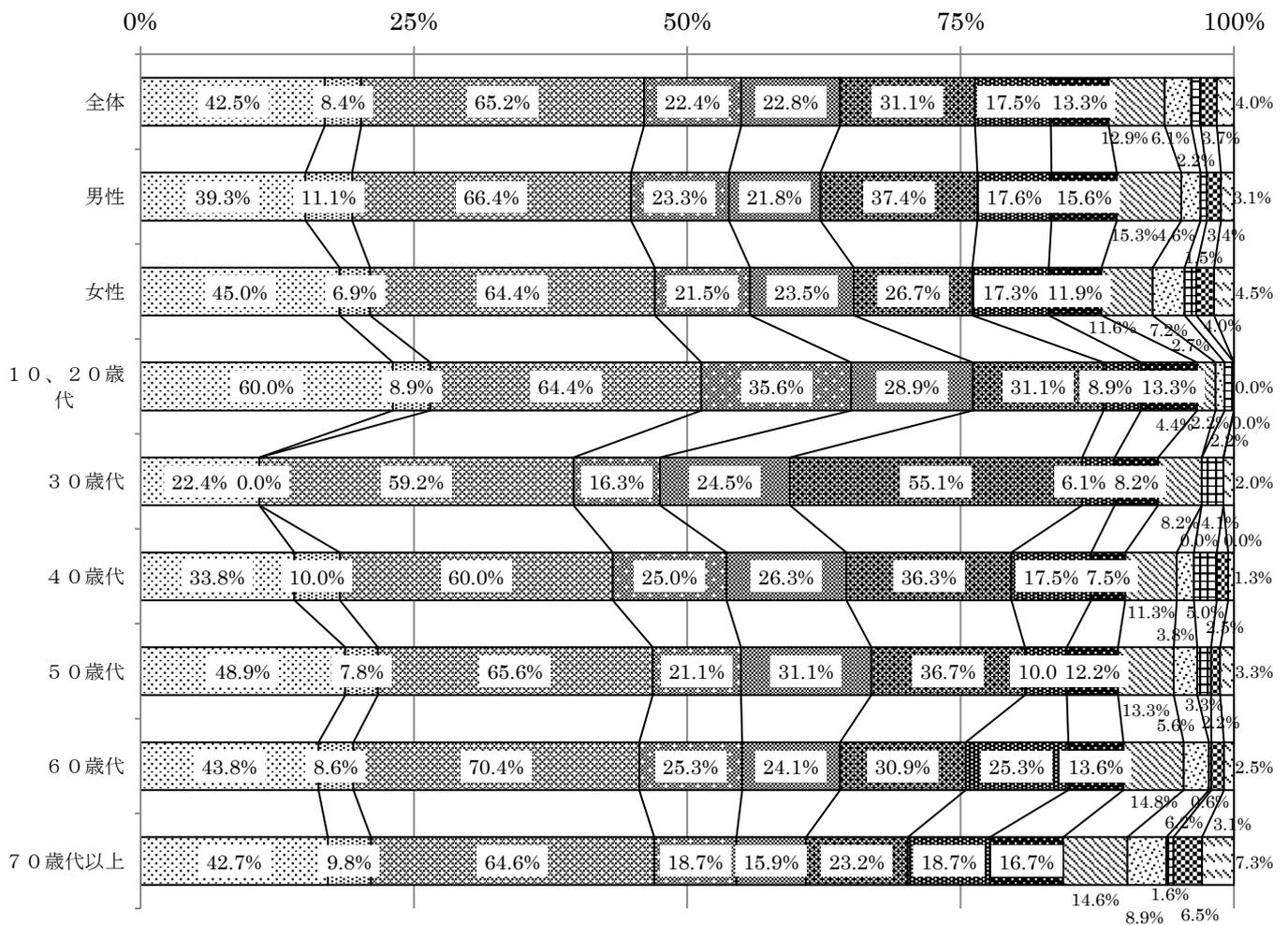
（3つまで選択可）

男性が女性とともにあらゆる場面（家事、子育て、介護、地域活動など）に積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が65.2%と最も高く、以下「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（42.5%）、「労働時間の短縮などで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（31.1%）、「社会の中で、男性による家事などについても、その評価を高めること」（22.8%）、「周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」（22.4%）の順となっています。

性別でみると、「労働時間の短縮などで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は、男性の37.4%に対し、女性が26.7%と、男性が10.7ポイント高く、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は男性の39.3%に対し、女性は45.0%と女性の方が5.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高くなっています。

- ☐ 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- ☐ 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- ☐ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
- ☐ 周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- ☐ 社会の中で、男性による家事などについても、その評価を高めること
- ☐ 労働時間の短縮などで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- ☐ 男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- ☐ 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- ☐ 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること
- ☐ 男性が相談しやすい窓口を設けること
- 田 その他
- ☐ 特に必要なことはない
- ☐ 無回答



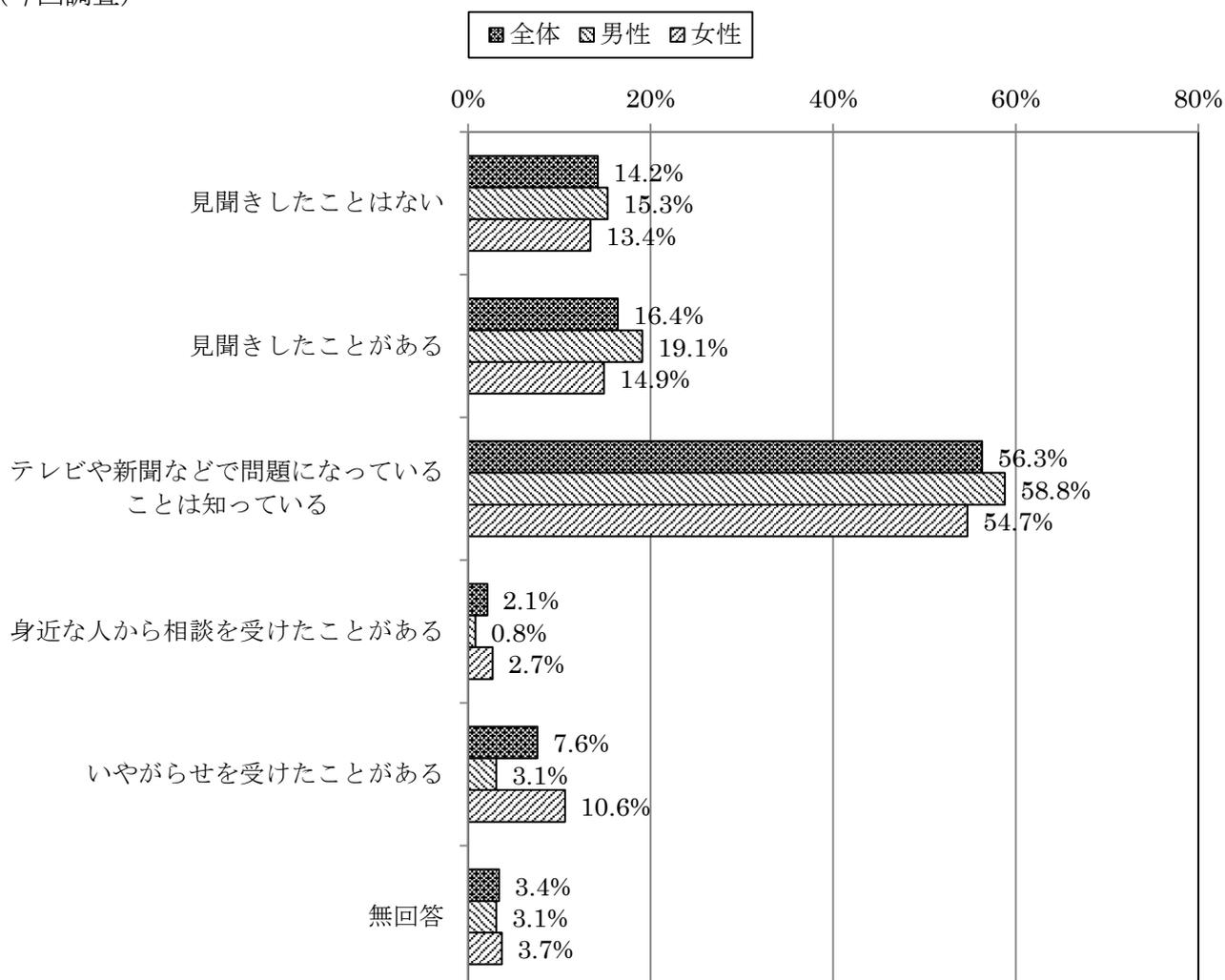
※ 3つまでの選択回答のため、合計が100%を超えます

問 14 あなたは、セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）・パワーハラスメント（職権を濫用したいやがらせ）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。

セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）・パワーハラスメント（職権を濫用したいやがらせ）を受けたり、身近で見聞きしたことがあるかについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が56.3%（前回54.9%）と最も高くなっています。

性別でみると、「いやがらせを受けたことがある」は、男性の3.1%（前回4.2%）に対し、女性は10.6%（前回7.4%）と7.5ポイント高くなっています。

（今回調査）

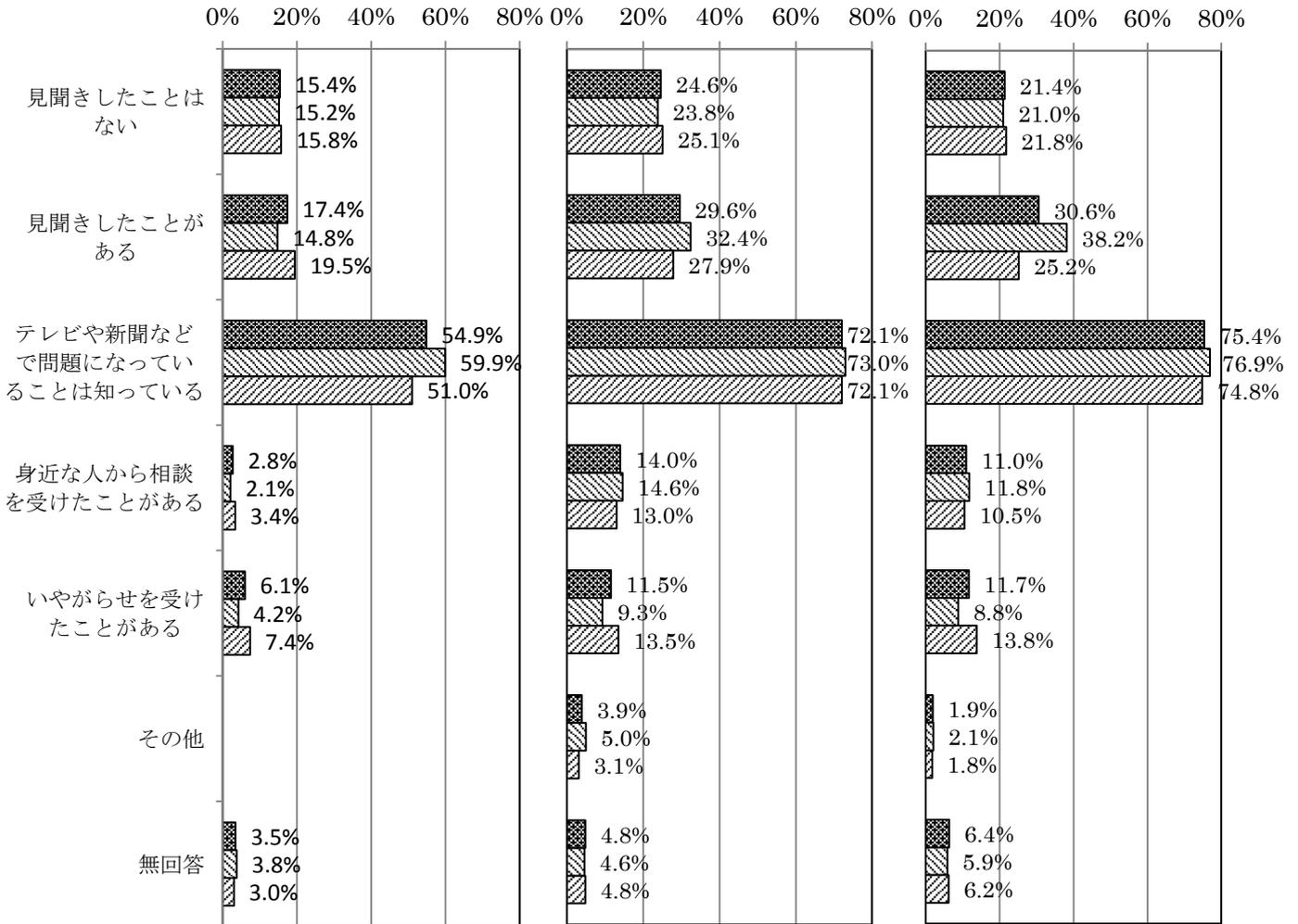


(H23年調査)

(H21年調査)

(H18年調査)

■全体 □男性 ▨女性



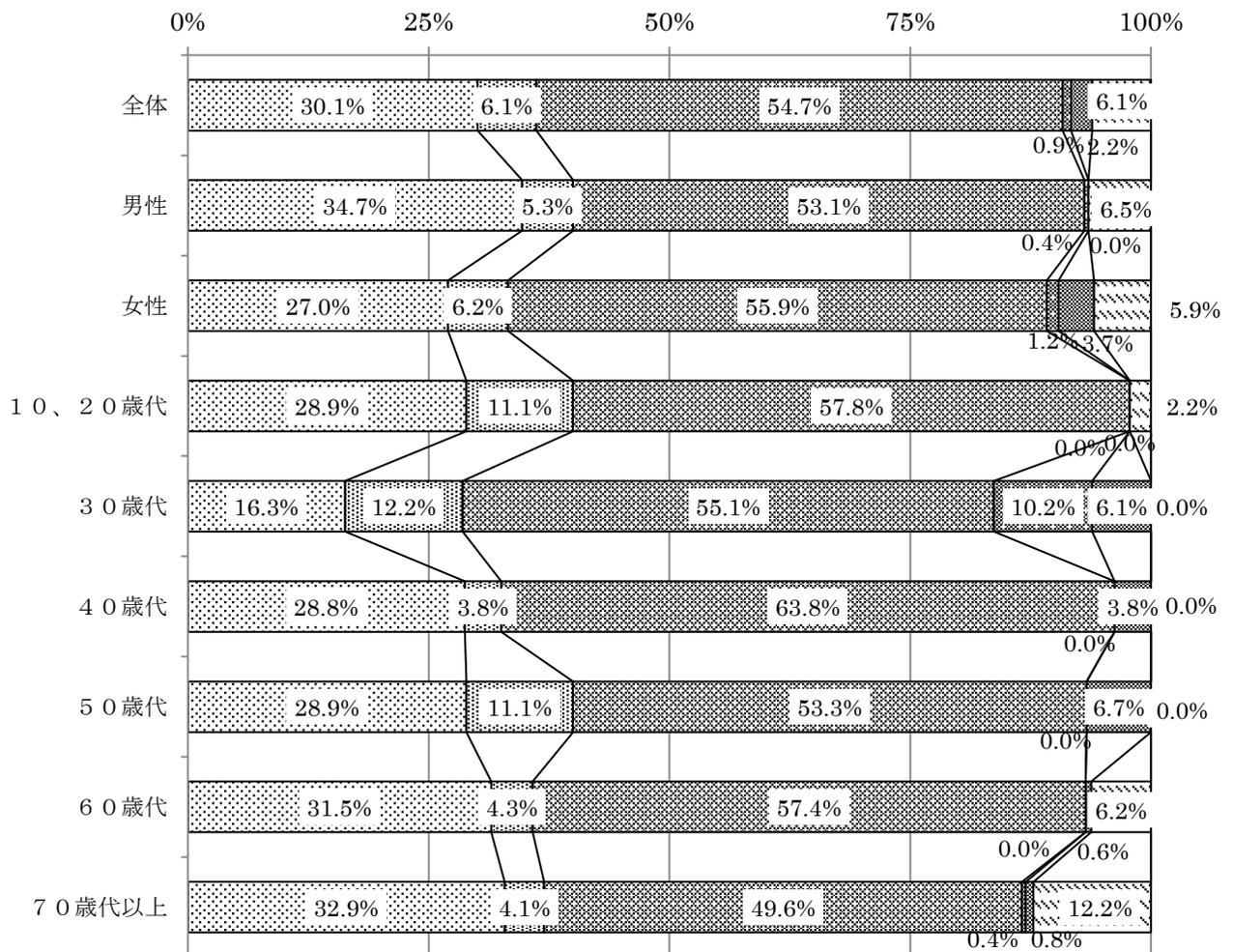
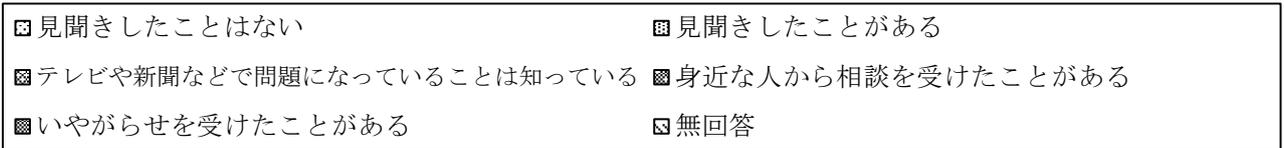
※H23年調査から選択肢の中に「その他」なし

**問15 あなたは、マタニティーハラスメント（妊娠や出産に対するいやがらせ）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。**

マタニティーハラスメント（妊娠や出産に対するいやがらせ）を受けたり、身近で見聞きしたことがあるかについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が54.7%と最も高くなっています。

性別でみると、「見聞きしたことはない」は男性の34.7%に対し、女性は27.0%と7.7ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「身近な人から相談を受けたことがある」が30歳代で10.2%、また、「いやがらせを受けたことがある」が30歳代で6.1%、50歳代で6.7%となっています。

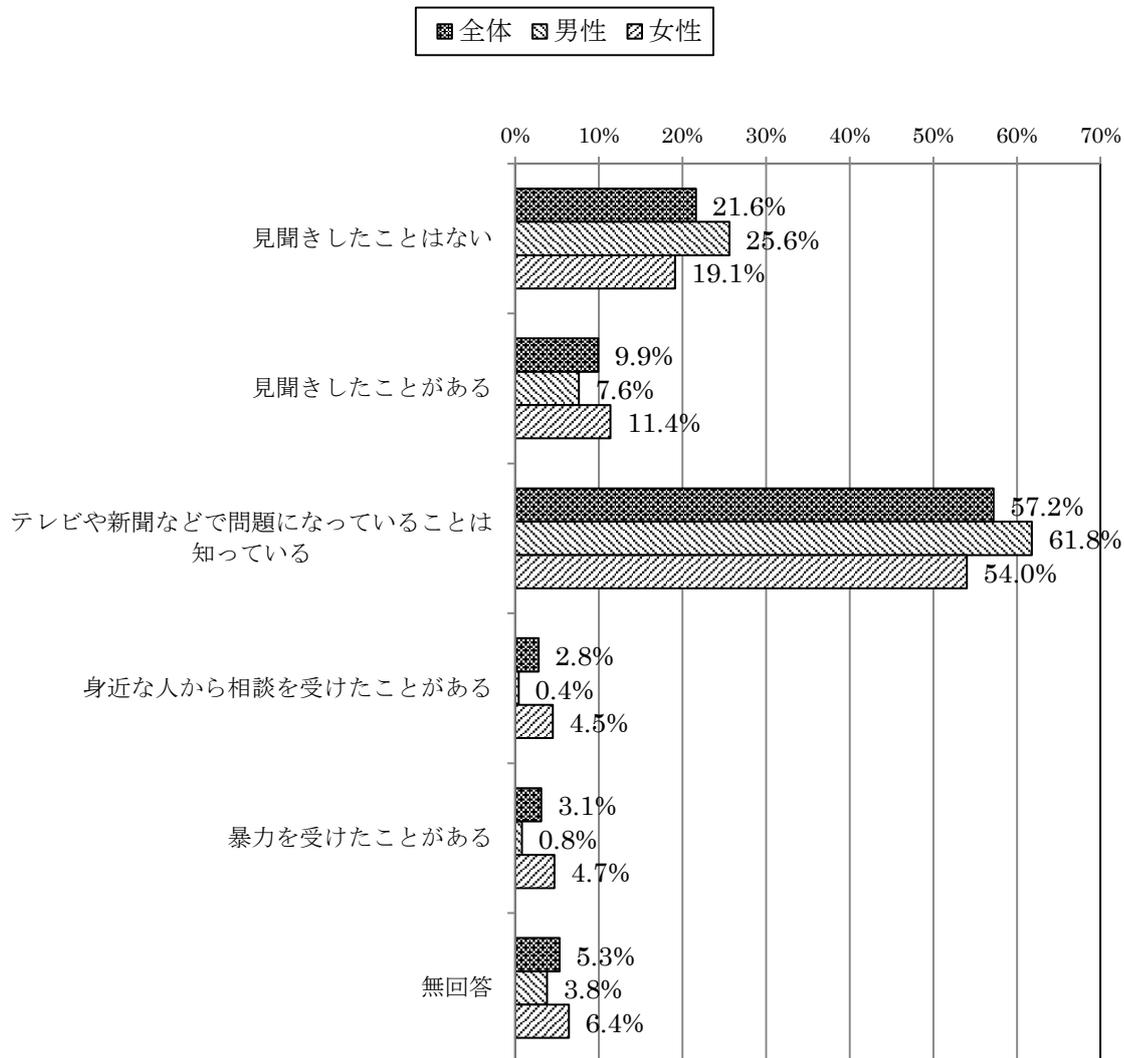


問 16 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること）を経験したことや、身近で見聞きしたことがありますか。

ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること）を経験したり、身近で見聞きしたことがあるかについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が57.2%（前回56.5%）と最も高くなっています。

性別でみると、「暴力を受けたことがある」は、男性の0.8%（前回1.3%）に対し、女性は4.7%（前回6.0%）と女性の方が高くなっています。

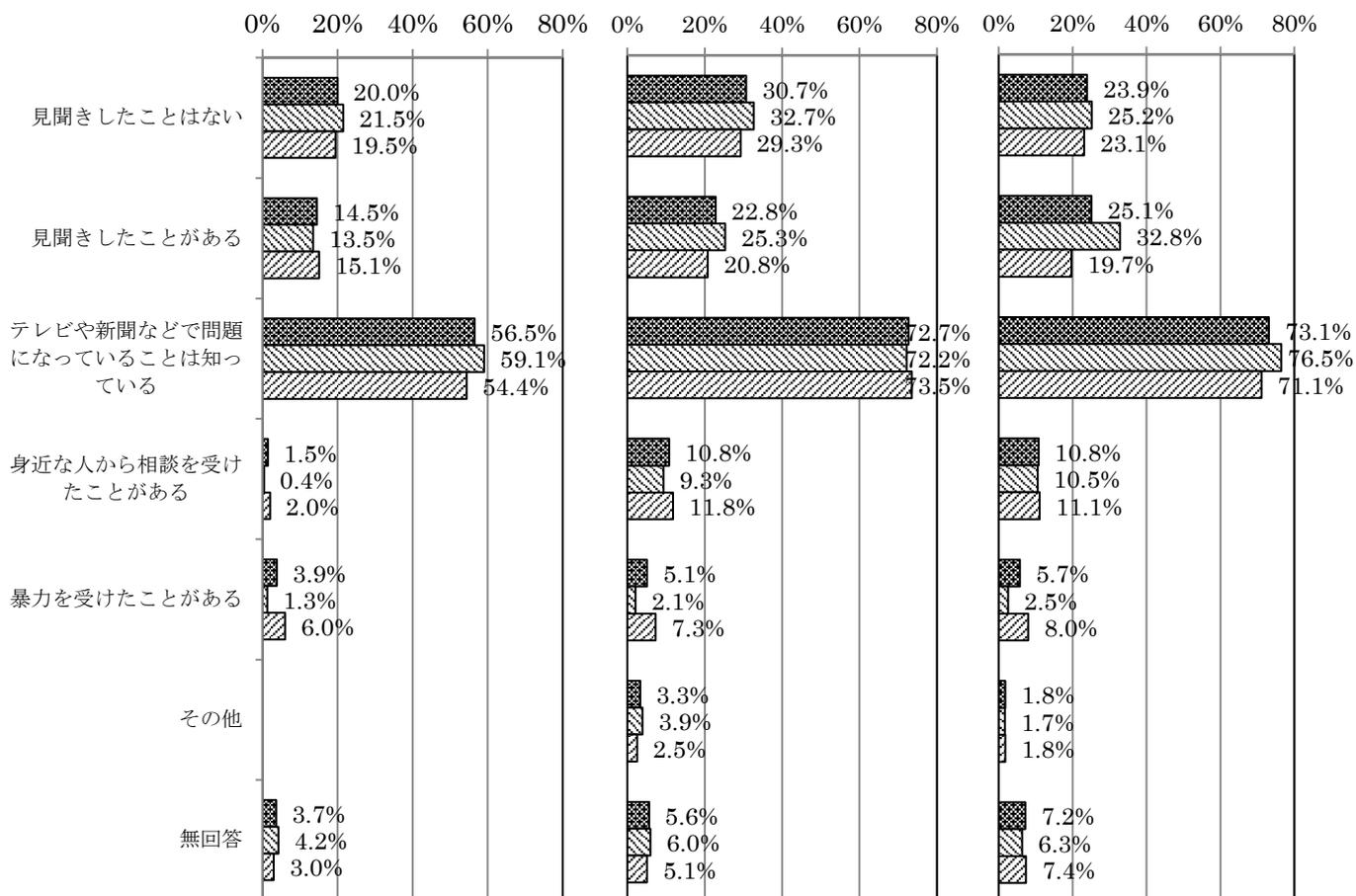
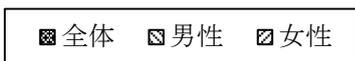
（今回調査）



(H23年調査)

(H21年調査)

(H18年調査)



※H23年調査から選択肢の中に「その他」なし

(問16で5と回答した方におたずねします)

問17 これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。  
(3つまで回答可)

問16で「暴力を受けたことがある」と回答した方(男性2名、女性19名、前は男性3名、女性18名)が誰かに打ち明けたり、相談したことがあるかについては、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が52.4%(前回42.9%)、以下「家族に相談した」(33.3%、前回28.6%)、「友人・知人に相談した」(19.0%、前回38.1%)の順となっています。

性別でみると、男性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」(50.0%、前回33.3%)、「公的な相談窓口や電話相談に相談した」(50.0%、前回66.7%)となっています。女性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」(52.6%、前回44.4%)、以下「家族に相談した」(36.8%、前回27.8%)、「友人・知人に相談した」(21.1%、前回44.4%)となっています。

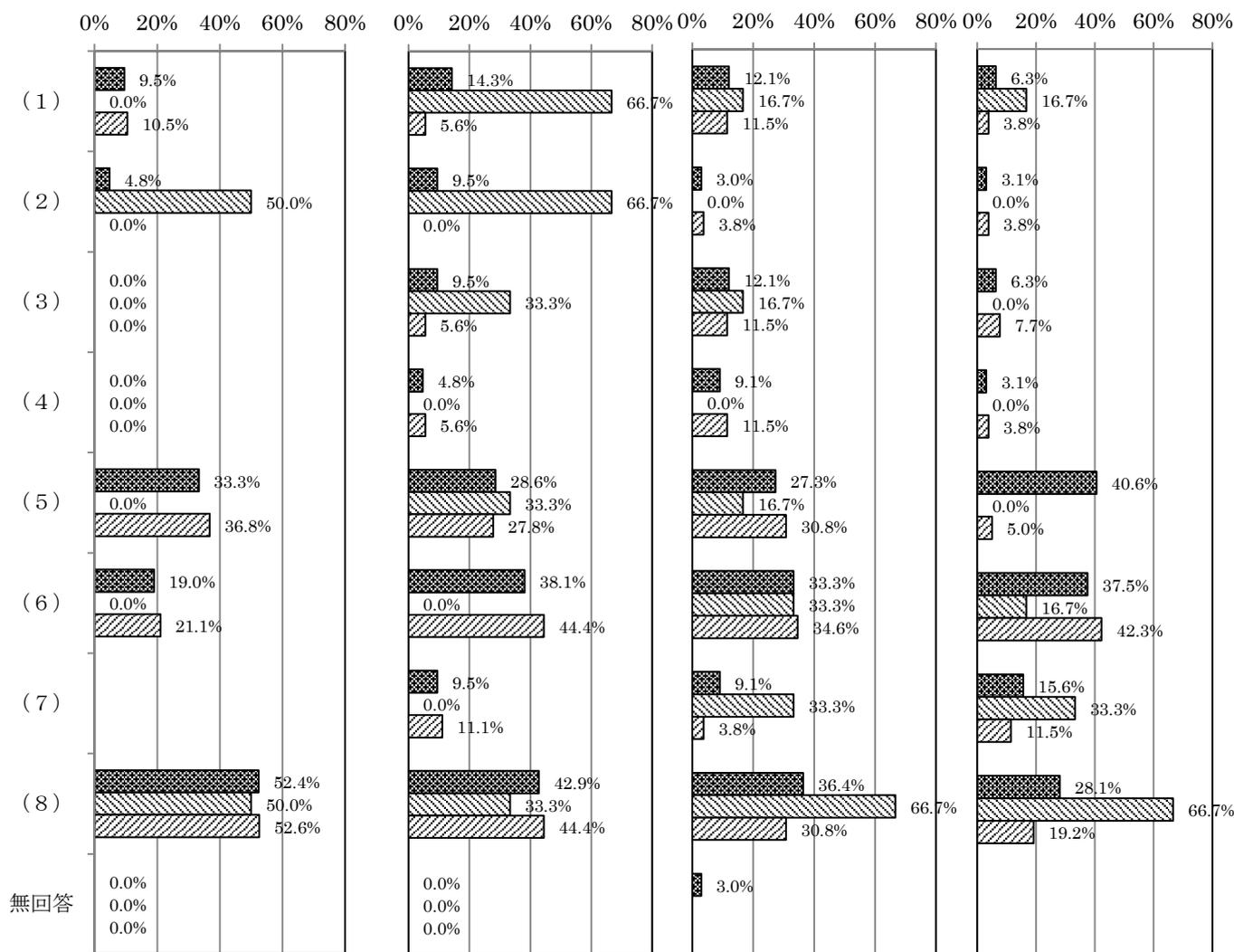
■全体 ■男性 ■女性

(今回調査)

(H23年調査)

(H21年調査)

(H18年調査)



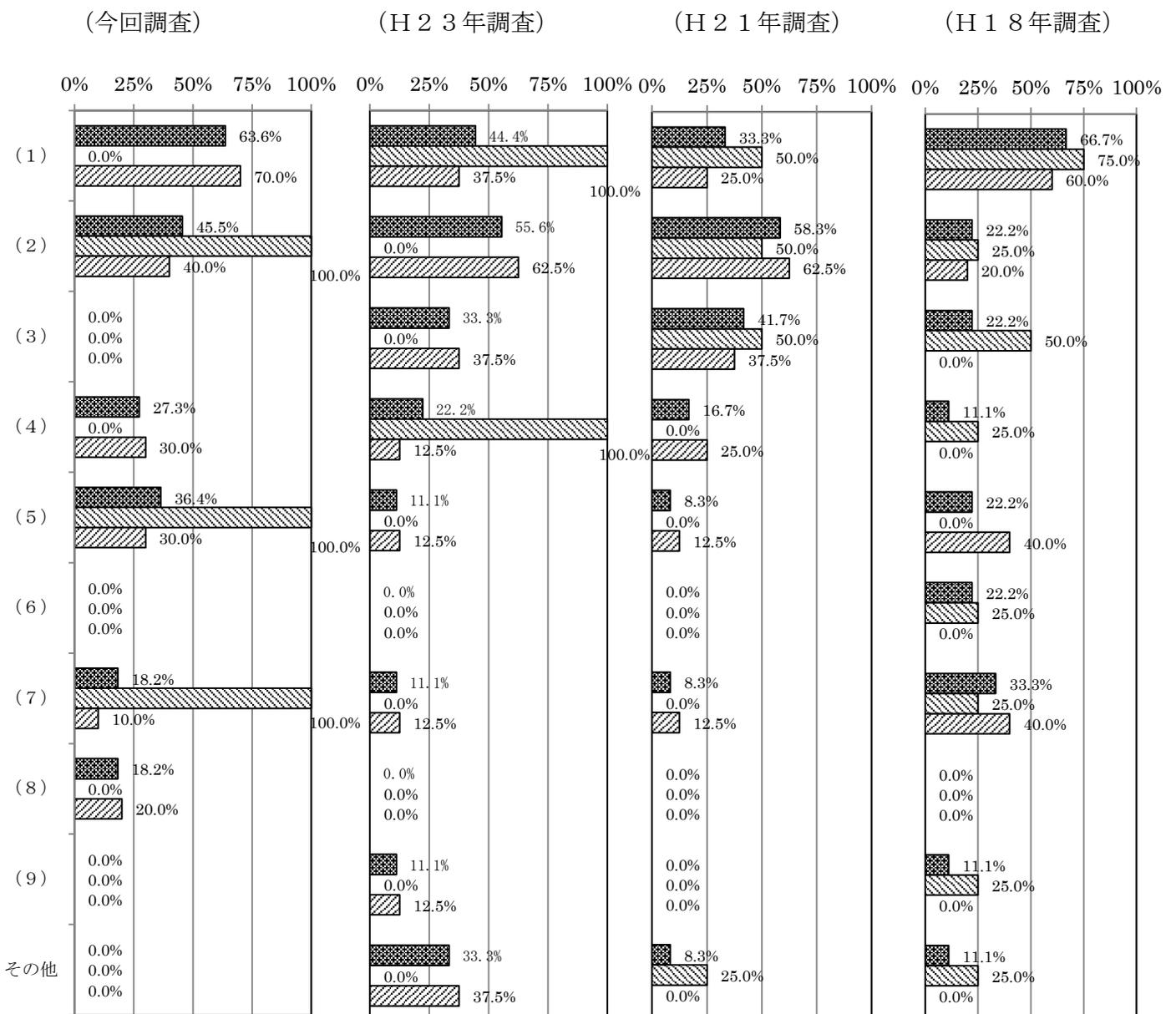
**【選択肢】**

- (1) 警察に連絡・相談した
- (2) 公的な相談窓口や電話相談に相談した
- (3) 民間の機関（弁護士など）に相談した
- (4) 医師・カウンセラーに相談した
- (5) 家族に相談した
- (6) 友人・知人に相談した
- (7) 相談するところがわからない（今回調査では選択肢から除く）
- (8) どこ（だれ）にも相談しなかった

**問17で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方におたずねします**  
**問18 相談しなかったのはなぜですか。（3つまで回答可）**

問17で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方（男性1名、女性10名、前回は男性1名、女性8名）の相談しなかった理由については、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が63.6%（前回44.4%）と最も高く、以下「相談しても無駄だと思ったから」（45.5%、前回55.6%）、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（36.4%、前回11.1%）となっています。

■全体 □男性 ▨女性



**【選択肢】**

- (1) 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
- (2) 相談しても無駄だと思ったから
- (3) 自分にも悪いところがあると思ったから
- (4) 相談するほどのことではないと思ったから
- (5) 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- (6) そのことについて思い出したくなかったから
- (7) 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい目にあうと思ったから
- (8) どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- (9) 相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思ったから

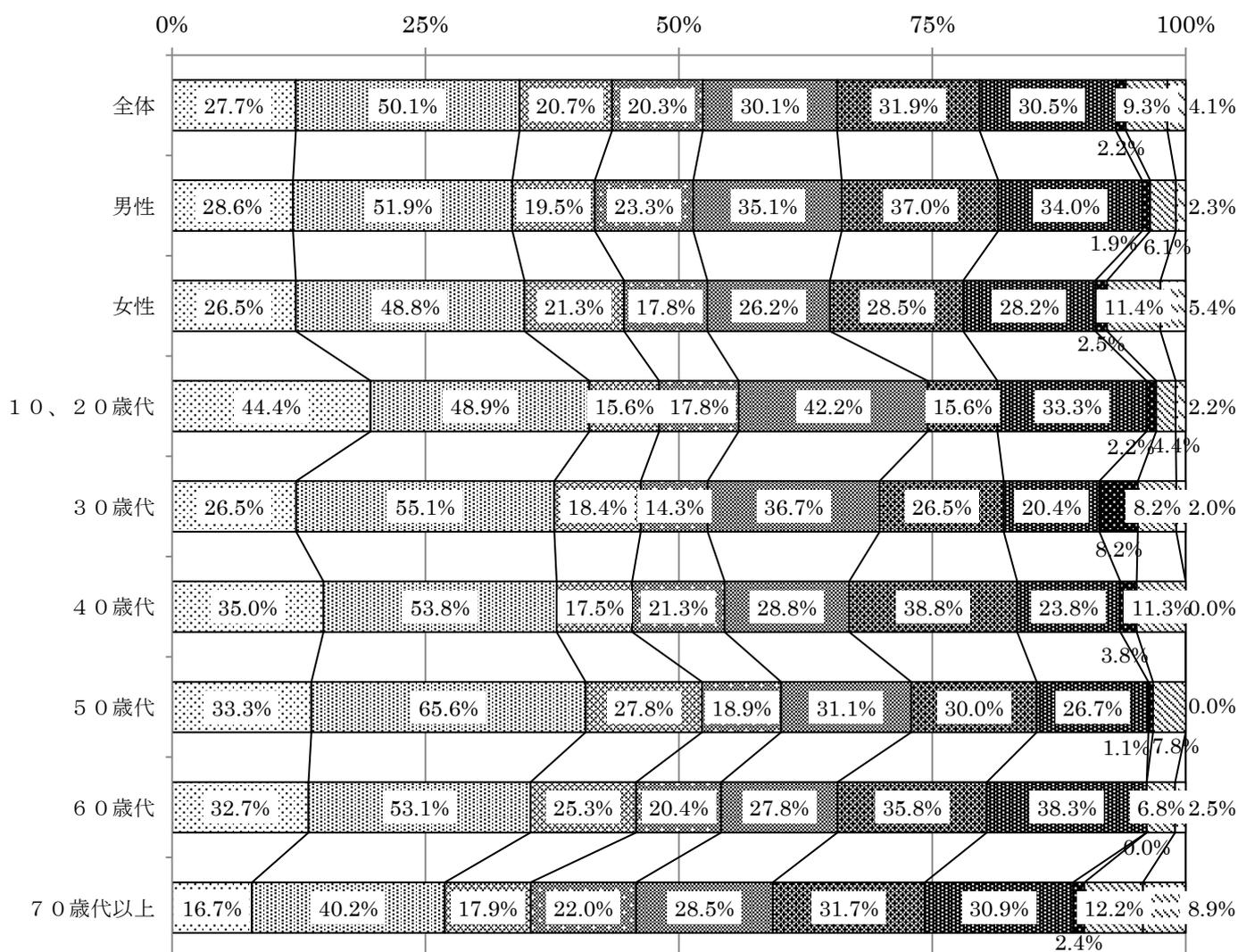
## 男女共同参画の考え方についておたずねします

### 問19 社会で意思決定の場に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。

社会で意思決定の場に女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」が50.1%と最も高く、以下「女性側の積極性が十分でない」(31.9%)、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」(30.5%)、「女性の活動を支援する仕組みの不足」(30.1%)の順となっています。

性別でみると、男性の回答は「男性優位の組織運営」(51.9%)、「女性側の積極性が十分でない」(37.0%)、「女性の活動を支援する仕組みの不足」(35.1%)の順、女性の回答は「男性優位の組織運営」(48.8%)、「女性側の積極性が十分でない」(28.5%)、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」(28.2%)の順となっています。

- 家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識
- 家族の支援・協力が得られない
- 女性の活動を支援する仕組みの不足
- 女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない
- わからない
- 男性優位の組織運営
- 女性の能力開発の機会が不十分
- 女性側の積極性が十分でない
- その他
- 無回答



※複数回答のため、合計が100%を超えます

**【選択肢】**

- (1) 家庭、職場、地域における性的役割分担、性差別の意識
- (2) 男性優位の組織運営
- (3) 家族の支援・協力が得られない
- (4) 女性の能力開発の機会が不十分
- (5) 女性の活動を支援する仕組みの不足
- (6) 女性側の積極性が十分でない
- (7) 女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない

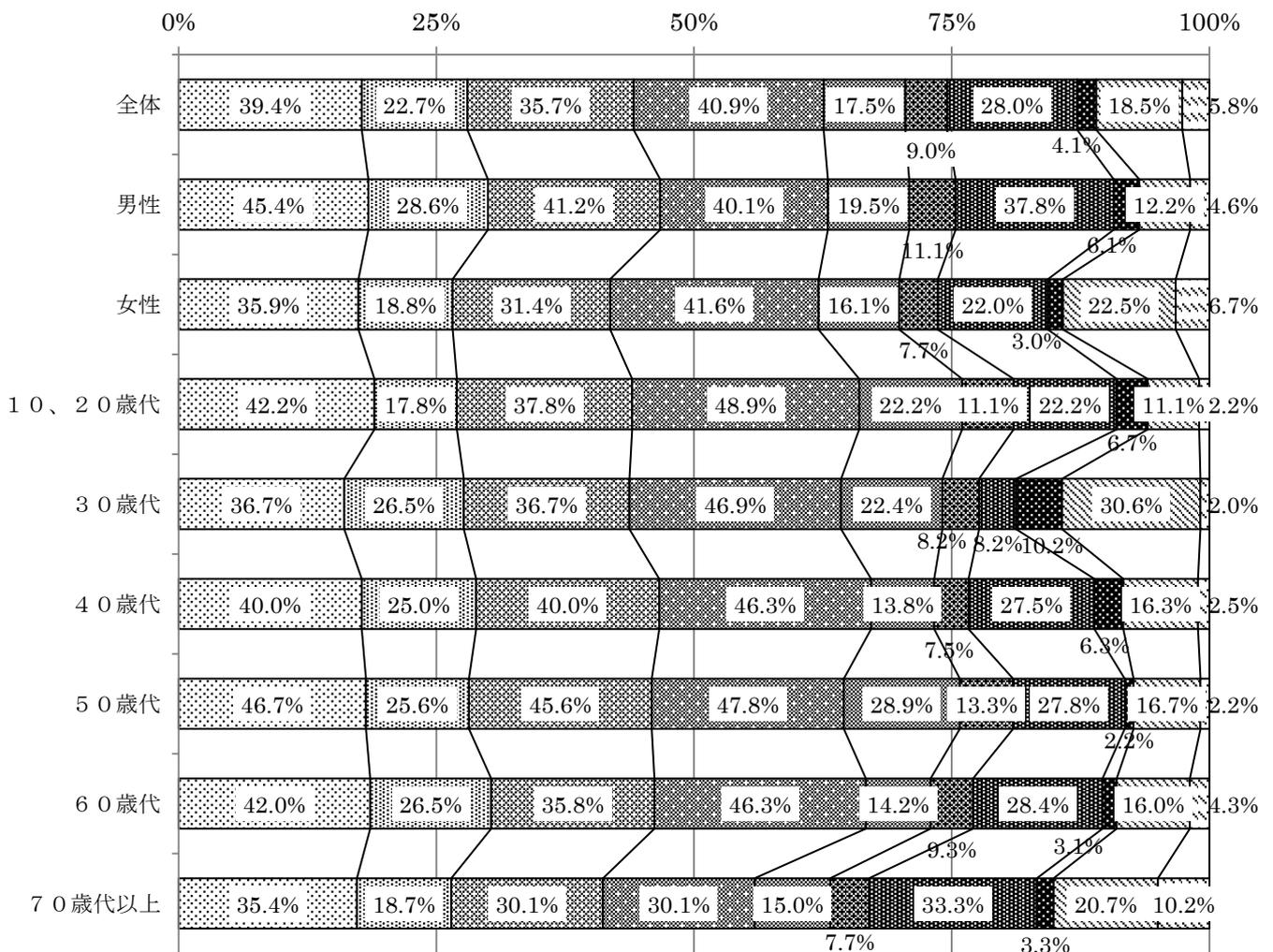
問20 あなたは、今後どのような分野で女性の参画が進むべきだと思いますか。

今後どのような分野で女性の参画が進むべきかについては、「企業の女性管理職、女性社員」が40.9%と最も高く、以下「国、県や市町村議会の議員」(39.4%)、「国、地方公共団体の女性管理職、女性職員」(35.7%)、「自治会、ボランティア、PTAなどの役員」(28.0%)の順となっています。

性別でみると、「国、県や市町村議会の議員」は男性の45.4%に対し、女性は35.9%と9.5ポイント低くなっています。

年代別でみると、「企業の女性管理職、女性社員」は、70歳代以上を除く各年代で最も高くなっています。

- 国、県や市町村議会の議員
- ▨ 国、地方公共団体の女性管理職、女性職員
- ▩ 学校の校長や教頭
- 自治会、ボランティア、PTAなどの役員
- ▧ わからない
- ▤ 国、地方公共団体の審議会等委員
- ▦ 企業の女性管理職、女性社員
- ▥ 農協、漁協等の農林水産団体の役員
- その他
- 無回答



※複数回答のため、合計が100%を超えます

**【選択肢】**

- (1) 国、県や市町村議会の議員
- (2) 国、地方公共団体の審議会等委員
- (3) 国、地方公共団体の女性管理職、女性職員
- (4) 企業の女性管理職、女性社員
- (5) 学校の校長や教頭
- (6) 農協、漁協等の農林水産団体の役員
- (7) 自治会、ボランティア、PTAなどの役員

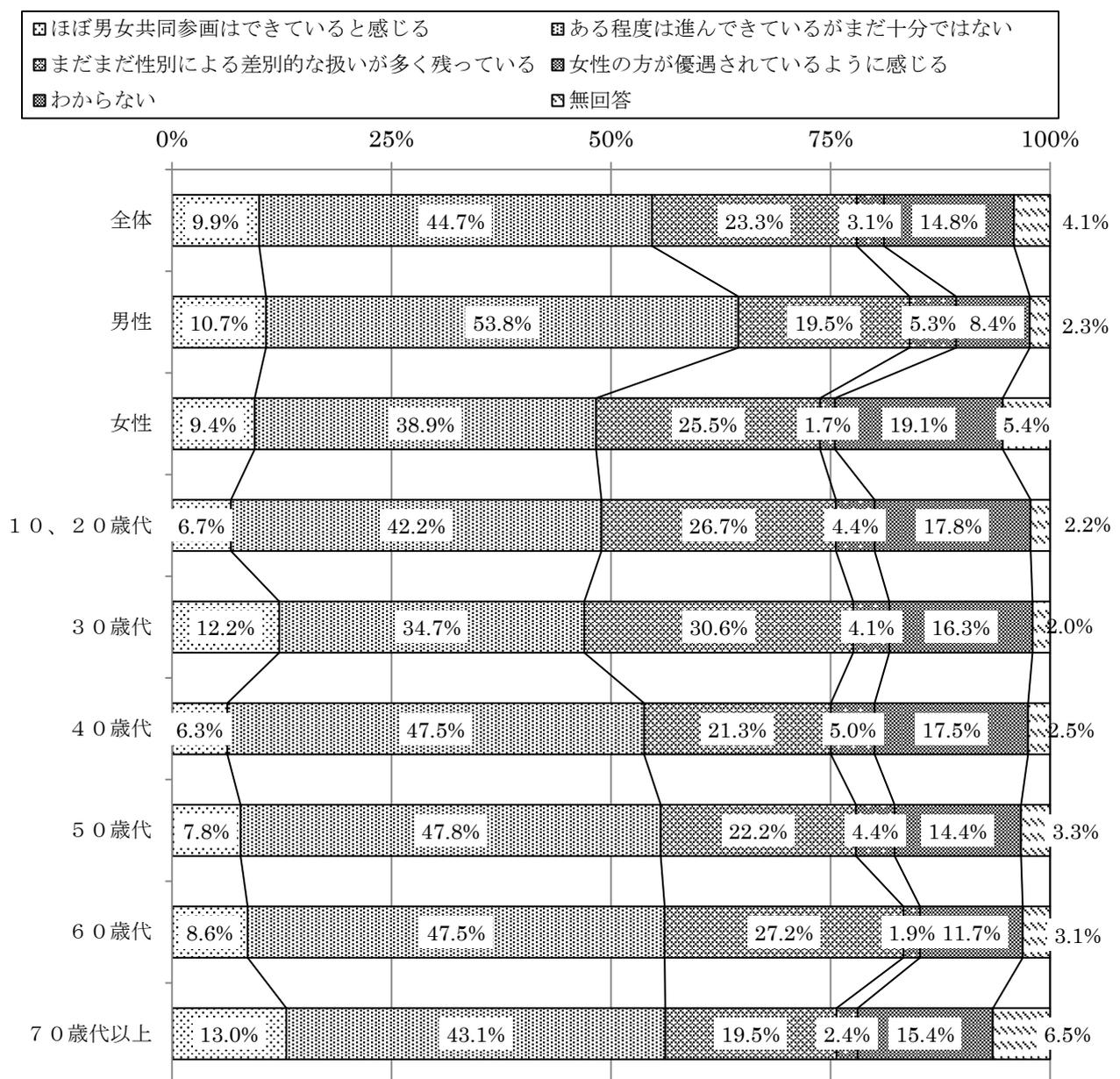
問21 あなたの身の回りにおける男女共同参画について、ご自身の考えにより近いものを選んでください

身の回りにおける男女共同参画に対する考えについては、「ある程度は進んできているがまだ十分ではない」が44.7%（前回47.5%）と最も高く、以下「まだまだ性別による差別的な扱いが多く残っている」（23.3%、前回24.4%）、「わからない」（14.8%、前回13.6%）の順となっています。

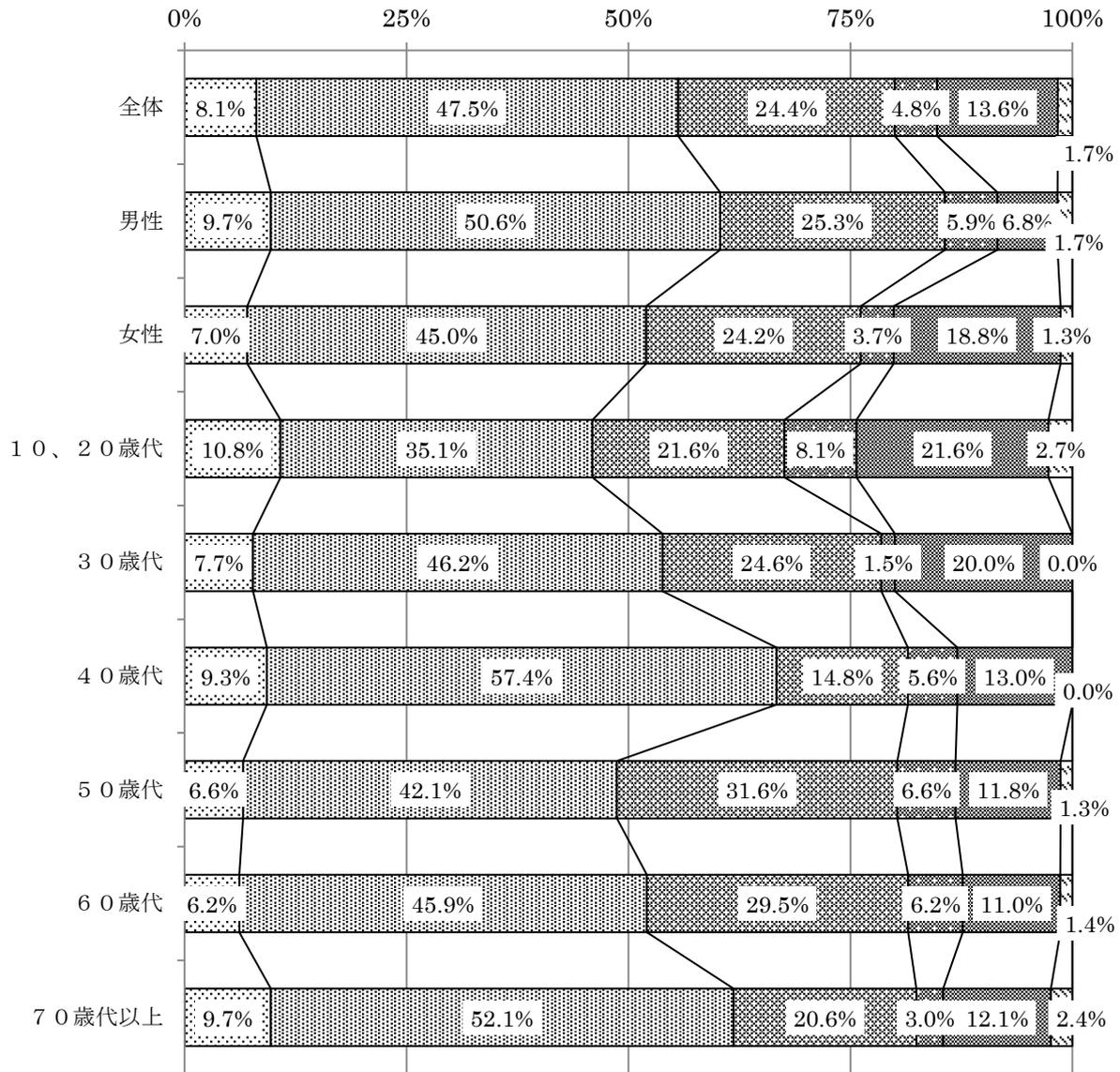
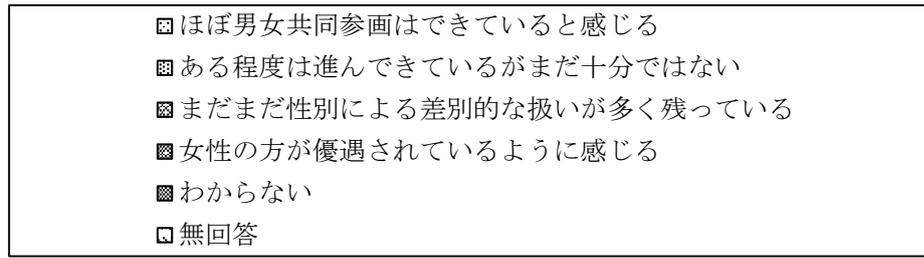
性別でみると、「ある程度は進んできているがまだ十分ではない」は男性の53.8%（前回50.6%）に対し、女性は38.9%（前回45.0%）と、男性の方が14.9ポイント高く、「まだまだ性別による差別的な扱いが多く残っている」は男性の19.5%（前回25.3%）に対し、女性は25.5%（前回24.2%）と、女性の方が6.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「ある程度は進んできているがまだ十分ではない」が最も高く、次が「まだまだ性別による差別的な扱いが多く残っている」となっています。

（今回調査）



(H23年調査)



今後の取組みについておたずねします

問 22 「男女共同参画社会」を実現するために、光市の施策に望むことは何ですか。  
(3つまで回答可)

「男女共同参画社会」を実現するための光市の施策については、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(41.6%、前回51.6%)と「介護サービスの充実」(41.6%、前回39.1%)が最も高く、以下「女性の就労支援の充実」(32.6%、前回32.3%)、「男女雇用機会均等法(職場における男女均等の取り扱い)の周知徹底」(27.9%、前回28.4%)の順となっています。

性別で見ると、男性の回答は「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(40.1%、前回46.0%)、「介護サービスの充実」(35.9%、前回32.5%)、「学校などにおける男女平等教育の推進」(32.8%、前回32.5%)の順、女性の回答は「介護サービスの充実」(45.3%、前回43.3%)、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(42.3%、前回57.4%)、「女性の就労支援の充実」(33.2%、前回37.6%)の順となっています。

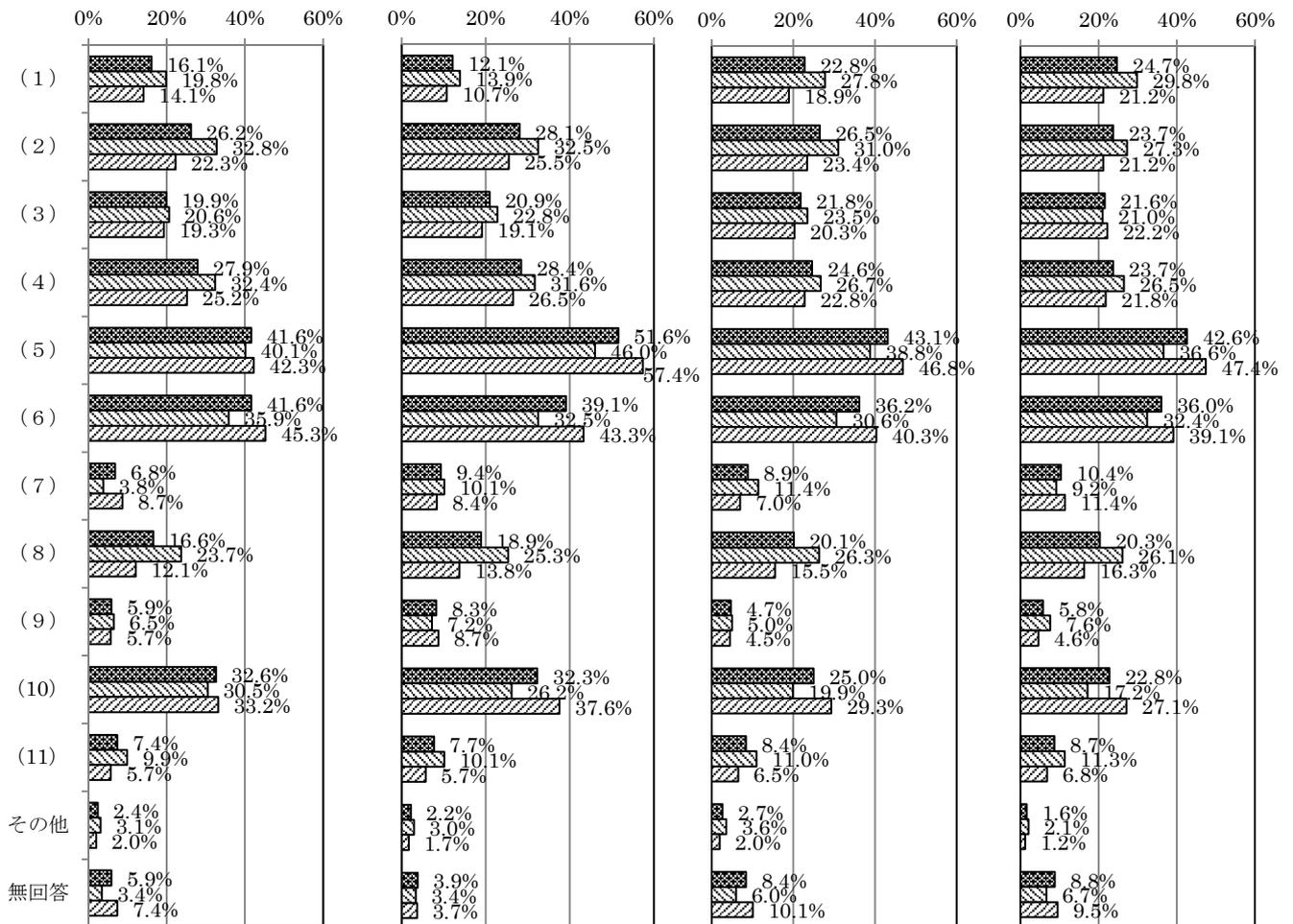
■全体 ■男性 ■女性

(今回調査)

(H23年調査)

(H21年調査)

(H18年調査)



**【選択肢】**

- (1) 広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- (2) 学校などにおける男女平等教育の推進
- (3) 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- (4) 雇用機会均等法（職場における男女均等の取り扱い）の周知徹底
- (5) 保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実
- (6) 介護サービスの充実
- (7) 検診体制や相談など健康に関する事業の充実
- (8) 地域コミュニティー活動における男女共同参画の推進
- (9) 審議会等の委員への女性の登用
- (10) 女性の就労支援の充実
- (11) 男女共同参画条例の整備

## ■ あなたからのご意見、ご要望等についておたずねします ■

675人のアンケート回答者のうち204人の方（30.2%）からの自由意見の回答がありました。

作成の都合上、個別の意見の掲載は省略しますが、寄せられた意見につきましては、今後の男女参画の取り組みを進める上での参考にいたします。